

第2章

救急活動統計

第1節 救急出場件数

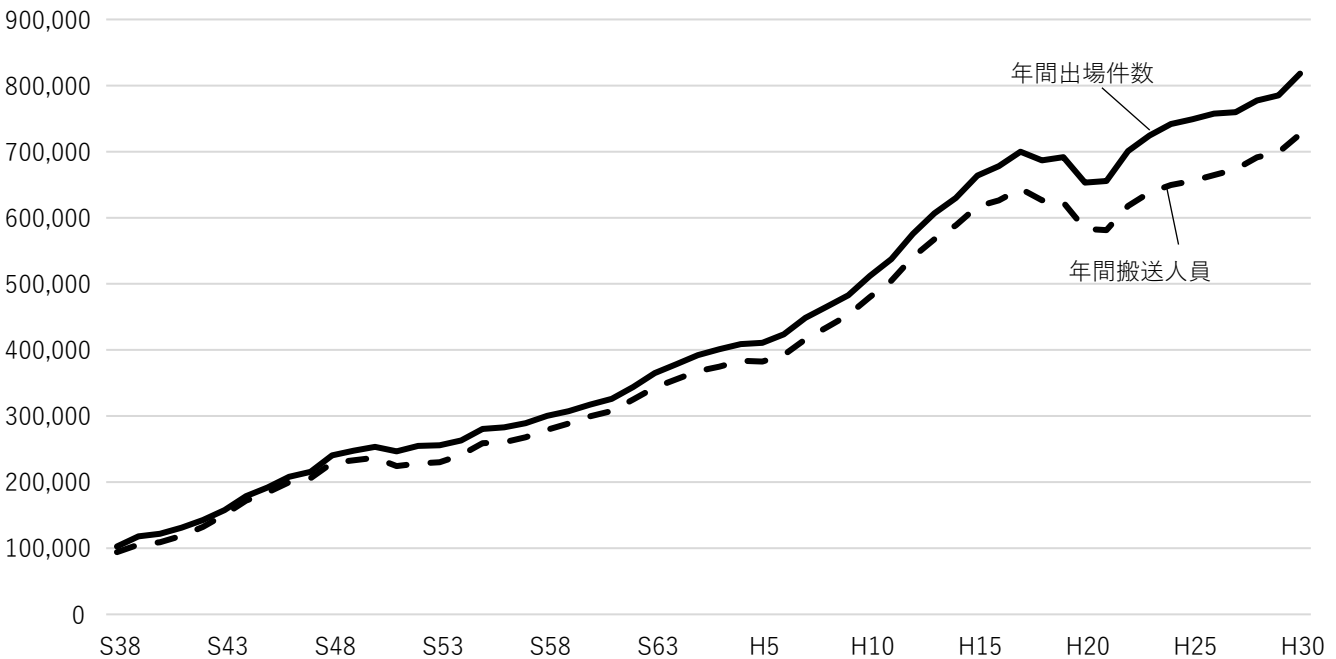
1 救急業務法制化以降の推移

(1) 出場件数・搬送人員・救急隊数の推移

救急出場件数は、救急業務が法制化された昭和38年(1963年)の102,660件から平成30年(2018年)には818,062件となり、55年間で約8.0倍の増加となっています。

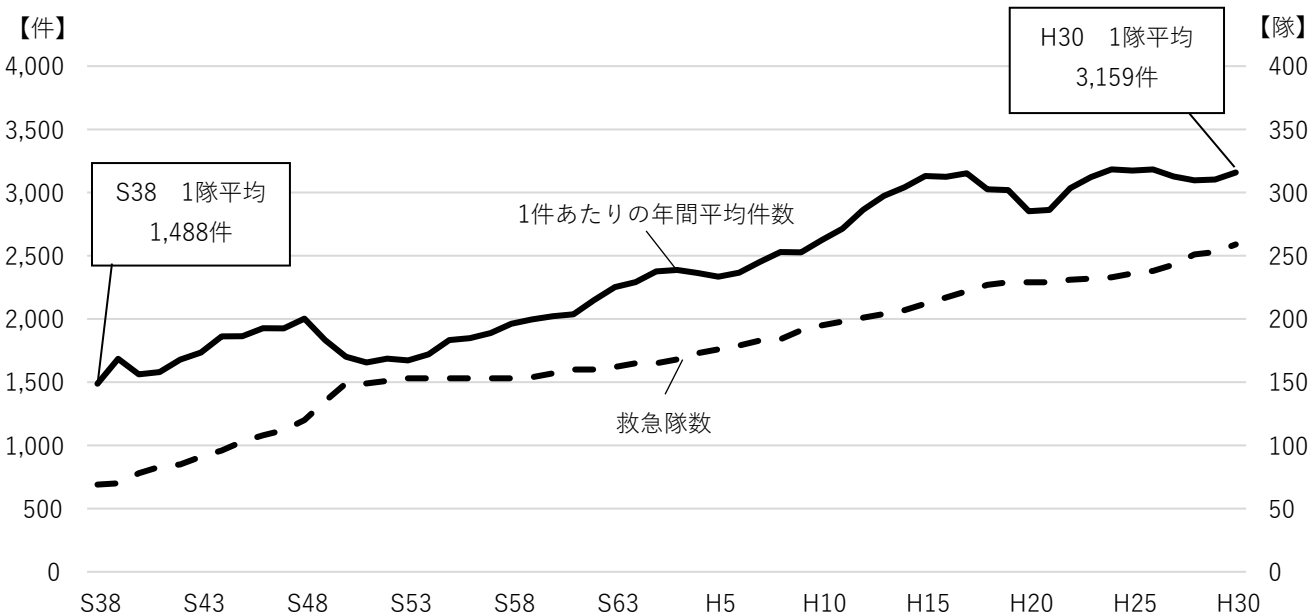
同じく救急隊数の推移は、69隊から259隊と約3.7倍の増加で、1隊あたりの年間平均出場件数は1,488件から3,159件と約2.2倍の増加となっています。

図表 2-1-1 救急業務法制化以降の救急出場件数・搬送人員の推移



S38～S50は搬送人員のデータがないため「救護人員」としてしています。

図表 2-1-2 救急隊数及び1隊あたり年間平均出場件数の推移



図表 2-1-3 救急出場件数の推移（年次別）

年次	出場件数	搬送人員	隊数	年次	出場件数	搬送人員	隊数
昭和 11 年	1,022	837	6	昭和 53 年	255,853	230,109	153
昭和 12 年	1,736	1,307	6	昭和 54 年	263,141	240,936	153
昭和 13 年	1,937	1,528	6	昭和 55 年	280,395	258,860	153
昭和 14 年	2,206	1,922	6	昭和 56 年	282,886	260,399	153
昭和 15 年	2,161	1,834	6	昭和 57 年	289,090	267,804	153
昭和 16 年	2,208	1,787	6	昭和 58 年	300,299	279,163	153
昭和 17 年	1,330	1,298	7	昭和 59 年	307,420	288,735	154
昭和 18 年	1,220	1,185	7	昭和 60 年	317,375	299,590	157
昭和 19 年	962	881	7	昭和 61 年	325,931	307,560	160
昭和 20 年	245	239	3	昭和 62 年	343,951	324,981	160
昭和 21 年	1,231	1,199	18	昭和 63 年	364,902	343,312	162
昭和 22 年	2,897	2,660	19	平成元年	378,205	355,654	165
昭和 23 年	3,089	2,722	17	平成 2 年	392,200	367,848	165
昭和 24 年	3,967	3,608	17	平成 3 年	401,104	374,616	168
昭和 25 年	7,846	7,534	19	平成 4 年	408,864	383,550	173
昭和 26 年	10,108	9,267	23	平成 5 年	410,828	382,410	176
昭和 27 年	10,747	9,684	23	平成 6 年	423,584	392,423	179
昭和 28 年	12,475	10,985	25	平成 7 年	448,450	416,173	183
昭和 29 年	15,665	13,465	25	平成 8 年	465,548	434,206	184
昭和 30 年	19,159	16,075	25	平成 9 年	482,612	453,004	191
昭和 31 年	25,320	21,350	25	平成 10 年	511,892	480,139	195
昭和 32 年	33,478	28,691	30	平成 11 年	537,416	504,675	198
昭和 33 年	44,120	37,882	39	平成 12 年	575,690	540,660	201
昭和 34 年	54,968	47,459	49	平成 13 年	606,695	567,451	204
昭和 35 年	70,206	62,905	57	平成 14 年	629,883	588,502	207
昭和 36 年	80,468	73,088	62	平成 15 年	663,765	616,996	212
昭和 37 年	87,432	80,568	66	平成 16 年	678,178	626,231	217
昭和 38 年	102,660	94,095	69	平成 17 年	699,971	643,849	222
昭和 39 年	117,948	105,439	70	平成 18 年	686,801	626,543	227
昭和 40 年	121,865	108,974	78	平成 19 年	691,549	623,012	229
昭和 41 年	131,160	118,774	83	平成 20 年	653,260	583,082	229
昭和 42 年	142,710	132,368	85	平成 21 年	655,631	581,358	229
昭和 43 年	157,832	150,972	91	平成 22 年	700,981	617,819	231
昭和 44 年	178,828	171,937	96	平成 23 年	724,436	638,093	232
昭和 45 年	191,890	184,420	103	平成 24 年	741,702	649,429	233
昭和 46 年	208,155	199,965	108	平成 25 年	749,032	655,925	236
昭和 47 年	215,621	205,896	112	平成 26 年	757,554	664,629	238
昭和 48 年	240,419	229,059	120	平成 27 年	759,802	673,145	243
昭和 49 年	247,559	232,993	135	平成 28 年	777,382	691,423	251
昭和 50 年	253,476	236,859	149	平成 29 年	785,184	698,928	253
昭和 51 年	246,682	224,291	149	平成 30 年	818,062	726,428	259
昭和 52 年	254,709	228,289	151	総数	24,857,221	22,725,941	-

昭和 11 年～昭和 50 年は搬送人員のデータがないため救護人員としています。

隊数は各年 12 月 31 日現在の数を示しています。

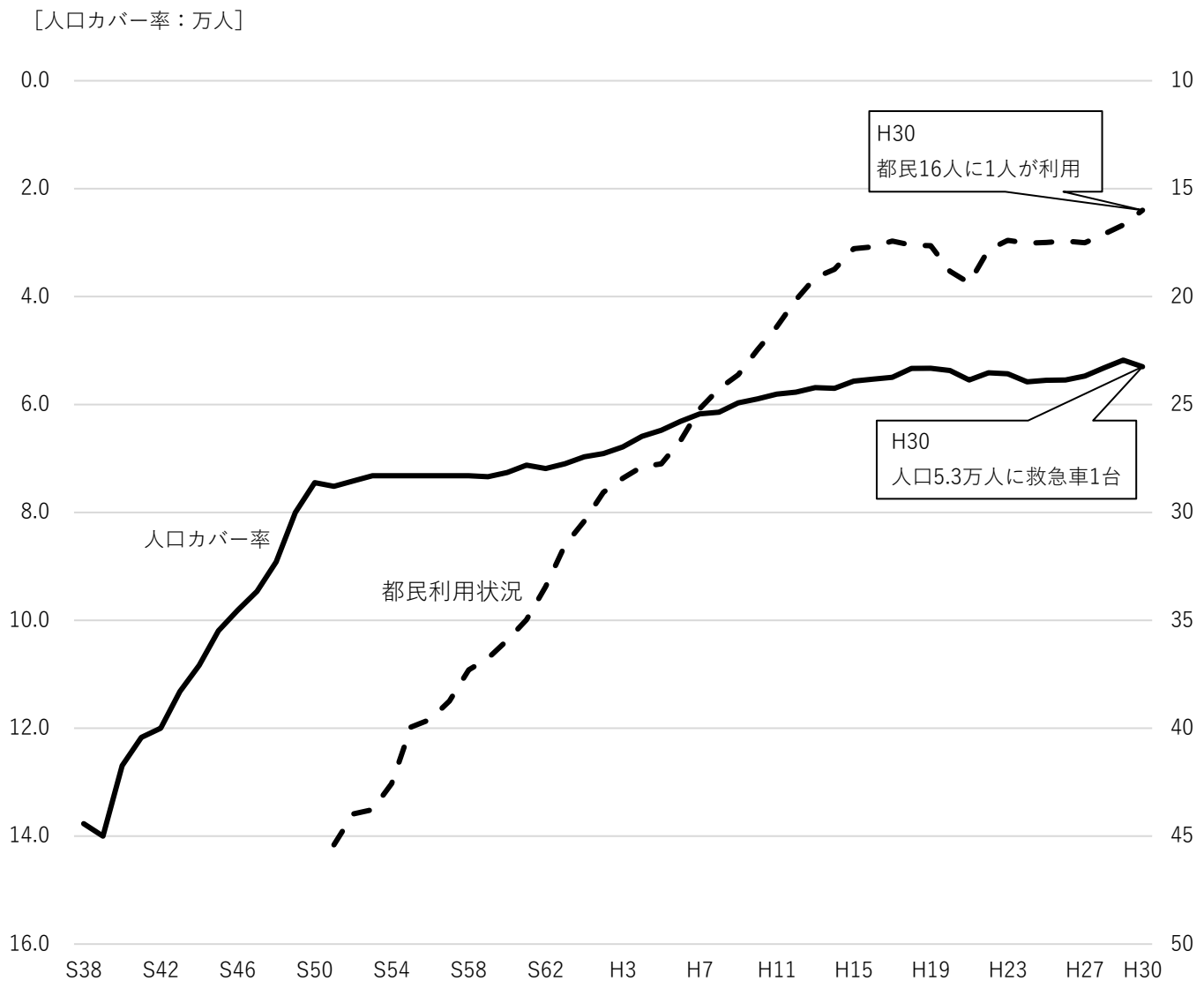
(2) 救急隊1隊あたりの人口カバー率と救急車利用状況の推移

救急隊1隊がカバーする人口割合（人口カバー率）は、昭和52年当時は人口約7.5万人に1隊でしたが、平成30年には約5.3万人に1隊となりました。

一方、同年での比較における都民の救急車の利用状況は、都民45人に1人の利用であったものが、16人に1人の利用となっています。

これは、都民の救急車利用頻度の上昇が救急隊の人口カバー率の上昇を上回っていることを示しています。

図表 2-1-4 救急隊1隊あたりの人口カバー率と都民の救急車利用状況の推移



都民の救急車利用状況のデータについては、昭和51年以降のデータを表示しています。

2 過去5年間の推移

平成26年から平成30年までの、過去5年の東京消防庁の救急出場件数の推移及び平成29年中における全国の出場件数は次のとおりです（平成30年4月1日現在、全国救急隊数5,179隊、救急車台数（非常用含む）6,329台）。

図表 2-1-5 過去5年間の救急出場件数等の推移

区分	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	全国※
出場件数	757,554	759,802	777,382	785,184	818,062	6,342,147
対前年増加数(件)	8,522	2,248	17,580	7,802	32,878	132,183
対前年増加率(%)	1.1	0.3	2.3	1	4.2	2.1
1日平均件数	2,075	2,082	2,124	2,151	2,241	17,375
1隊あたり平均件数	3,196	3,127	3,110	3,103	3,159	-
1隊1日平均件数	8.8	8.6	8.5	8.5	8.7	-
都民(国民)の利用状況 (何人に1人の割合)	17人	18人	17人	17人	16人	20人
出場頻度 (何秒に1回の割合)	42秒	42秒	41秒	40秒	39秒	5.0秒
人口1万人あたりの件数	575	571	580	581	600	502

全国の数値は平成29年のものです。

3 日別最多出場件数

平成30年中日別救急出場件数で最も多かったのは7月23日の3,382件で、過去を含めた日別出場件数上位10日を平成30年中の7、8月ですべて更新しました。

図表 2-1-6 日別出場件数上位10日

順位	年月日	出場件数
1	平成30年7月23日	3,382
2	平成30年7月22日	3,124
3	平成30年7月21日	3,092
4	平成30年8月3日	3,048
5	平成30年7月18日	3,036
6	平成30年7月20日	2,990
7	平成30年7月19日	2,979
8	平成30年7月24日	2,966
9	平成30年7月17日	2,900
10	平成30年8月4日	2,862

4 救急隊別出場件数の推移

平成30年中、1隊あたりの最多出場件数は、大久保救急隊の4,364件でした。

また、出場件数3,000件を超えた救急隊は、全隊数の73.7%にあたる191隊でした。

図表 2-1-7 救急隊別出場件数上位10隊の推移

順位	平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年	
	1	大久保	4,426	大久保	4,385	大久保	4,426	大久保	4,385	大久保
2	戸塚	4,026	戸塚	3,902	戸塚	4,026	戸塚	3,902	芝	4,118
3	池袋	3,970	砂町	3,893	池袋	3,970	砂町	3,893	豊島	4,006
4	本郷	3,948	京橋	3,835	本郷	3,948	京橋	3,835	王子	3,941
5	京橋	3,859	深川	3,792	京橋	3,859	深川	3,792	池袋	3,900
6	志村	3,797	大島	3,770	志村	3,797	大島	3,770	麻布	3,886
7	城東	3,791	西新宿第1	3,759	城東	3,791	西新宿第1	3,759	志村坂上	3,876
8	砂町	3,769	池袋	3,759	砂町	3,769	池袋	3,759	本郷	3,872
9	西新宿1	3,758	南綾瀬	3,756	西新宿1	3,758	南綾瀬	3,756	日本橋	3,850
10	南綾瀬	3,744	立花	3,743	南綾瀬	3,744	立花	3,743	練馬	3,826
3,000件以上の隊	182隊		172隊		189隊		177隊		191隊	
全隊数※	238隊		243隊		251隊		253隊		259隊	
割合	76.5%		70.8%		75.3%		70.0%		73.7%	

※各年12月31日現在

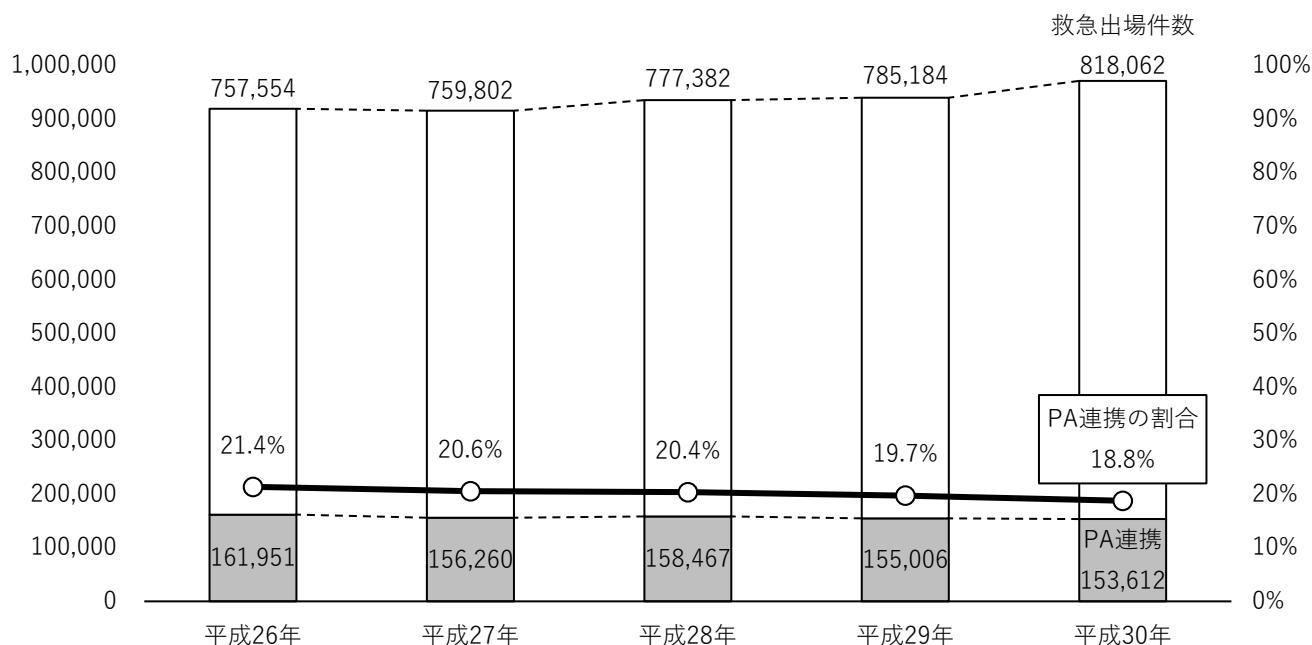
図表 2-1-8 救急隊別出場件数

隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数
本庁計	6,460	用賀	3,387	滝野川	3,302	有明	2,364	緑町	2,915
本部機動第1	3,150	玉川新町	3,190	三軒家	3,510	枝川	3,118	小平	3,503
本部機動第2	3,333	成城	3,347	田端	3,526	豊洲	2,976	小川	3,321
航空機動	435	千歳第1	3,374	10方面計	63,501	森下	3,104	花小金井	3,502
1方面計	49,037	千歳第2	597	板橋	3,824	城東	3,722	東村山	2,974
丸の内	3,427	烏山	2,966	常盤台	3,769	東砂	3,362	秋津	2,964
永田町	3,335	渋谷第1	3,757	小茂根	3,489	大島	3,797	本町	3,367
神田	3,802	渋谷第2	3,599	志村	3,535	砂町	3,259	国分寺	3,379
三崎町	3,092	恵比寿	3,575	蓮根	3,636	本田第1	3,455	戸倉	3,123
京橋	3,458	松濤	3,564	赤塚	3,325	本田第2	3,260	狛江	3,047
銀座	3,423	代々木	3,052	志村坂上	3,876	南綾瀬	3,328	猪方	2,331
日本橋	3,850	富ヶ谷	3,204	高島平	3,664	青戸	3,282	北多摩西部	3,097
月島	3,196	原宿	2,793	練馬	3,826	奥戸	3,050	三ツ木	2,413
芝	4,118	4方面計	91,343	平和台	3,518	金町	2,998	東大和	585
三田	3,757	四谷	3,698	貫井	3,465	亀有	3,290	清瀬	2,555
麻布	3,886	新宿御苑第1	3,679	光が丘	3,611	柴又	2,823	東久留米	3,132
赤坂	3,519	新宿御苑第2	3,465	北町	3,549	水元	2,911	新川	2,660
高輪	3,490	牛込	3,550	石神井	3,362	江戸川第1	3,763	西東京	3,464
港南	2,684	新宿第1	3,318	関町	3,249	江戸川第2	3,564	田無	3,352
2方面計	65,192	新宿第2	3,122	大泉	3,326	小松川	3,392	西原	3,601
2本部機動	87	落合	3,498	大泉学園	3,093	瑞江	3,019	9方面計	87,053
品川	3,461	戸塚	3,712	石神井公園	3,384	葛西第1	3,507	9本部機動	1,202
大崎	3,218	大久保	4,364	6方面計	75,691	葛西第2	3,261	八王子第1	3,607
五反田	3,575	西新宿第1	3,591	6本部機動	335	船堀	3,204	八王子第2	3,387
大井	2,988	西新宿第2	3,405	上野	3,541	南葛西	2,746	富士森	3,428
滝王子	2,970	中野	3,770	下谷	3,478	小岩	2,978	元八王子	3,242
八潮	2,438	宮園	3,180	谷中	2,773	篠崎	2,520	小宮	2,970
荏原	3,295	東中野	3,446	浅草	3,176	南小岩	3,279	浅川	3,004
旗の台	3,351	野方第1	3,440	浅草橋	3,135	北小岩	2,906	浅川特殊(小型)	56
大森	3,259	野方第2	3,240	日本堤	3,189	8方面計	128,212	北野	3,012
馬込	3,073	鷺宮	3,146	今戸	2,875	8本部特殊	1	由木	2,899
市野倉	3,446	杉並	3,718	荒川	3,315	8本部機動	155	みなみ野	2,557
山谷	3,382	永福	3,284	南千住	3,101	立川	3,280	檜原	101
森ヶ崎	2,612	堀ノ内	3,369	尾久	3,296	錦町第1	3,745	青梅	2,753
田園調布	3,068	阿佐ヶ谷	3,507	尾竹橋	2,943	錦町第2	690	日向和田	1,458
久が原	3,072	高円寺	3,774	千住第1	2,953	国立	3,467	長淵	1,946
蒲田	3,819	高井戸	3,426	千住第2	2,814	砂川	3,076	町田第1	3,349
羽田	3,103	荻窪	3,366	足立第1	3,541	武蔵野	3,084	町田第2	3,173
空港	976	西荻	2,911	足立第2	3,395	武蔵境	3,066	忠生	2,814
矢口	3,050	久我山	2,761	綾瀬	3,244	吉祥寺	2,932	南	2,874
下丸子	2,803	下井草	1,603	淵江	3,464	三鷹	3,173	鶴川	2,752
西蒲田	3,682	5方面計	60,560	大谷田	3,149	下連雀	3,079	西町田	2,139
西六郷	464	小石川	3,001	神明	2,969	大沢	2,819	成瀬	3,149
3方面計	74,094	大塚	3,366	西新井	3,295	府中	3,370	日野	3,312
3本部特殊	11	本郷	3,872	大師前	3,207	分梅	3,054	豊田	3,193
目黒第1	3,557	根津	3,173	上沼田	3,076	是政	2,845	高幡	3,525
目黒第2	3,367	豊島	4,006	本木	2,897	栄町	3,117	福生	2,636
大岡山	3,156	巣鴨	3,434	舎人	2,530	朝日	2,555	羽村	2,619
世田谷	3,583	目白	3,701	7方面計	115,995	朝日特殊	8	瑞穂	2,075
宮の坂	3,211	池袋	3,900	本所	3,542	昭島	2,765	熊川	2,403
松原第1	3,145	長崎	3,431	緑	3,527	昭和	3,010	多摩	3,075
松原第2	580	高松	3,576	東駒形	3,184	大神	2,881	多摩センター	3,292
三宿	3,593	王子	3,941	向島	3,603	調布	2,990	秋川	1,932
上北沢	2,944	十条	3,527	墨田	2,741	つつじヶ丘	3,235	秋留台	2,150
玉川	3,438	赤羽	3,535	立花	3,679	国領	3,343	檜原	523
奥沢	3,104	赤羽台	3,759	深川	3,481	小金井	3,187	奥多摩	446

5 PA連携活動と救急出場件数

過去5年の推移をみると、救急出場件数に占めるPA連携件数の割合は、ほぼ横ばいです。運用区分別では「救命」が約8割を占め、次いで「搬送困難」の割合が多くなっています。

図表 2-1-9 PA連携活動の件数及び救急出場件数に占める割合の推移



図表 2-1-10 PA連携活動運用区分別構成比率の推移

年度	救命	その他
平成26年	77.7%	22.3%
平成27年	78.1%	21.9%
平成28年	79.6%	20.4%
平成29年	79.3%	20.7%
平成30年	78.1%	21.9%

〔運用区分「救命」以外の内訳〕

年度	搬送困難	傷害等 繁華街等 直近地域 遅延			
		搬送困難	傷害等	繁華街等	直近地域
平成26年	15.4%	1.3%	1.9%	2.3%	1.5%
平成27年	15.5%	1.1%	1.9%	2.1%	1.3%
平成28年	14.3%	1.0%	1.9%	2.3%	0.9%
平成29年	14.6%	1.1%	2.3%	2.0%	0.8%
平成30年	16.1%	0.9%	2.6%	1.6%	0.7%

図表 2-1-11 所属別 PA 連携活動件数

所属	救命	搬送困難	傷害事件等	繁華街等	直近地域	遅延	合計	管内救急 出場件数	PA 連携 の割合
丸の内	636	134	8	3	25	1	807	3,427	23.5%
麹町	462	374	9	2	270	4	1,121	3,335	33.6%
神田	797	272	19	11	54	1	1,154	6,894	16.7%
京橋	780	370	10	150	12	2	1,324	6,881	19.2%
日本橋	630	176	6	1	10	1	824	3,850	21.4%
臨港	474	96	12		10	4	596	3,196	18.6%
芝	1,241	221	15	1	6	9	1,493	7,875	19.0%
麻布	754	181	27	391	70	26	1,449	3,886	37.3%
赤坂	623	392	12	7	100	3	1,137	3,519	32.3%
高輪	772	167	14	6	17	2	978	6,174	15.8%
品川	1,147	169	15	1	34	4	1,370	10,254	13.4%
大井	833	95	8	2	15	4	957	8,396	11.4%
荏原	1,091	254	5		18	5	1,373	6,646	20.7%
大森	1,743	335	23	44	34	14	2,193	15,772	13.9%
田園調布	1,329	290	13	5	25	11	1,673	6,140	27.2%
蒲田	1,902	346	23	8	88	24	2,391	7,898	30.3%
矢口	1,101	176	15	12	12	14	1,330	9,999	13.3%
目黒	1,846	451	17	1	24	9	2,348	10,080	23.3%
世田谷	3,085	733	31	213	29	28	4,119	17,056	24.1%
玉川	1,551	426	12		12	16	2,017	13,119	15.4%
成城	2,080	388	8	1	11	23	2,511	10,284	24.4%
渋谷	2,795	601	63	439	19	7	3,924	23,544	16.7%
四谷	650	168	21	68	87	3	997	10,842	9.2%
牛込	910	392	6	1	10	4	1,323	3,550	37.3%
新宿	3,183	494	141	1,596	41	9	5,464	25,010	21.8%
中野	1,279	299	11	12	16	4	1,621	10,396	15.6%
野方	1,307	208	9		35	10	1,569	9,826	16.0%
杉並	2,472	470	24		23	10	2,999	21,078	14.2%
荻窪	1,744	391	6	45	187	25	2,398	10,641	22.5%
小石川	833	210	8		6	2	1,059	6,367	16.6%
本郷	636	174	6	100	68		984	7,045	14.0%
豊島	1,556	309	23	2	11	2	1,903	11,141	17.1%
池袋	1,331	229	32	2	4	7	1,605	10,907	14.7%
王子	994	199	11	1	27	8	1,240	7,468	16.6%
赤羽	1,437	291	10	31	28	12	1,809	7,294	24.8%
滝野川	786	234	1		9	2	1,032	10,338	10.0%
板橋	1,812	330	12		21	6	2,181	11,082	19.7%
志村	3,131	519	18		33	27	3,728	18,036	20.7%
練馬	1,954	338	11		9	4	2,316	10,809	21.4%
光が丘	1,236	179	2		11	24	1,452	7,160	20.3%
石神井	2,637	344	22		28	25	3,056	16,414	18.6%
上野	1,070	338	24	293	48	2	1,775	9,792	18.1%

第2章 救急活動統計

所属	救命	搬送困難	傷害事件等	繁華街等	直近地域	遅延	合計	管内救急 出場件数	PA 連携 の割合
浅 草	497	134	13	1	7		652	6,311	10.3%
日 本 堤	772	305	19	55	59	6	1,216	6,064	20.1%
荒 川	1,157	249	7		17	1	1,431	6,416	22.3%
尾 久	696	240	11		41	3	991	6,239	15.9%
千 住	999	196	11	40	209	5	1,460	5,767	25.3%
足 立	3,279	497	25	3	55	16	3,875	19,762	19.6%
西 新 井	2,168	531	21		28	15	2,763	15,005	18.4%
本 所	1,166	288	25	2	13	1	1,495	10,253	14.6%
向 島	1,102	401	13		9	3	1,528	10,023	15.2%
深 川	2,024	387	19	2	86	15	2,533	15,043	16.8%
城 東	2,164	440	26	1	24	24	2,679	14,140	18.9%
本 田	2,537	451	15		31	1	3,035	16,375	18.5%
金 町	1,629	246	15	1	24	28	1,943	12,022	16.2%
江 戸 川	1,959	324	31		13	16	2,343	13,738	17.1%
葛 西	1,692	87	17		8	71	1,875	12,718	14.7%
小 岩	1,797	245	43	170	22	25	2,302	11,683	19.7%
立 川	2,656	423	15	1	7	2	3,104	14,258	21.8%
武 蔵 野	1,261	308	11	5	8	5	1,598	9,082	17.6%
三 鷹	1,342	340	12	1	12	3	1,710	9,071	18.9%
府 中	2,133	343	19	1	7	2	2,505	14,949	16.8%
昭 島	1,022	132	8		5		1,167	8,656	13.5%
調 布	1,907	341	11	3	9	7	2,278	9,568	23.8%
小 金 井	812	162	5		4	1	984	6,102	16.1%
小 平	1,515	315	11		11	1	1,853	10,326	17.9%
東 村 山	1,416	381	18	1	16	19	1,851	9,305	19.9%
国 分 寺	941	134	3	1	12	3	1,094	6,502	16.8%
狛 江	645	144	5		4	9	807	5,378	15.0%
北多摩西部	1,276	260	13		5	3	1,557	6,095	25.5%
清 瀬	742	173	12		15	20	962	2,555	37.7%
東久留米	993	325	7		9	9	1,343	5,792	23.2%
西 東 京	1,653	244	7	5	8	5	1,922	10,417	18.5%
八 王 子	5,043	1,044	44	198	42	69	6,440	28,263	22.8%
青 梅	1,158	179	12		2	5	1,356	6,157	22.0%
町 田	4,114	723	41	25	44	192	5,139	20,250	25.4%
日 野	1,415	454	16		15	1	1,901	10,030	19.0%
福 生	1,176	143	25	22	5	4	1,375	9,733	14.1%
多 摩	1,304	264	8		6	16	1,598	6,367	25.1%
秋 川	1,056	139	12		5	4	1,216	4,605	26.4%
奥 多 摩	83	43	1		1	3	131	446	29.4%
計	119,931	24,798	1,390	3,987	2,495	1,011	153,612	808,887	19.0%

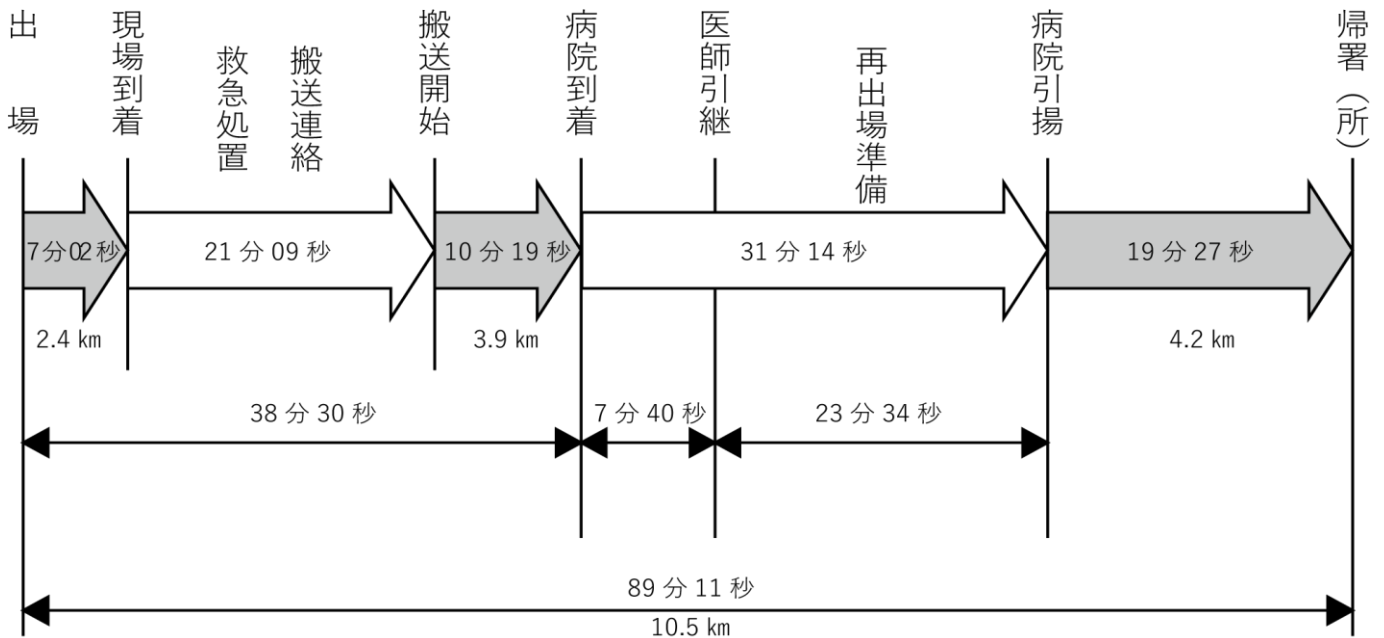
※本表において、PA 連携活動及び救急出場の件数に東京消防庁管外への出場は含まれません。

※PA 連携の割合 = PA 連携活動件数 / 管内救急出場件数

6 活動時間・距離

平成30年中の救急隊が出場してから帰署（所）するまでの救急活動平均所要時間は89分11秒で、平均走行距離は10.5kmです。

図表 2-1-12 救急活動時間と走行距離



それぞれの数値は計算により四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

7 事故種別ごとの出場件数

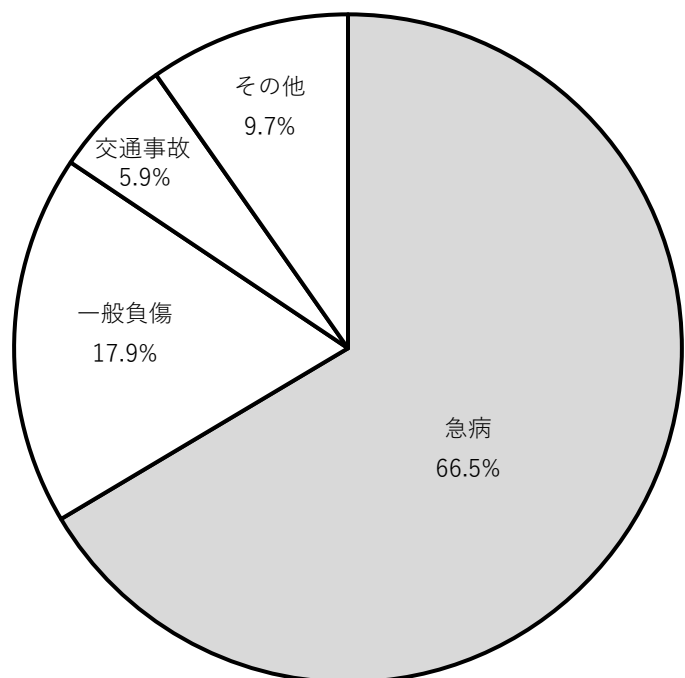
急病、一般負傷、交通事故で全救急出場件数の約9割を占めています。

図表 2-1-13 事故種別出場件数

合計	818,062	100.0%
急病	543,660	66.5%
一般負傷	146,765	17.9%
交通事故	47,957	5.9%
その他	79,680	9.7%

その他の内訳

転院搬送	43,314	5.3%
加害	6,594	0.8%
運動競技事故	5,429	0.7%
労働災害事故	5,328	0.7%
自損行為	5,049	0.6%
火災事故	3,240	0.4%
水難事故	901	0.1%
資器材等輸送	546	0.1%
医師搬送	210	0.0%
自然災害事故	22	0.0%
その他（上記以外）	9,047	1.1%



8 不搬送件数

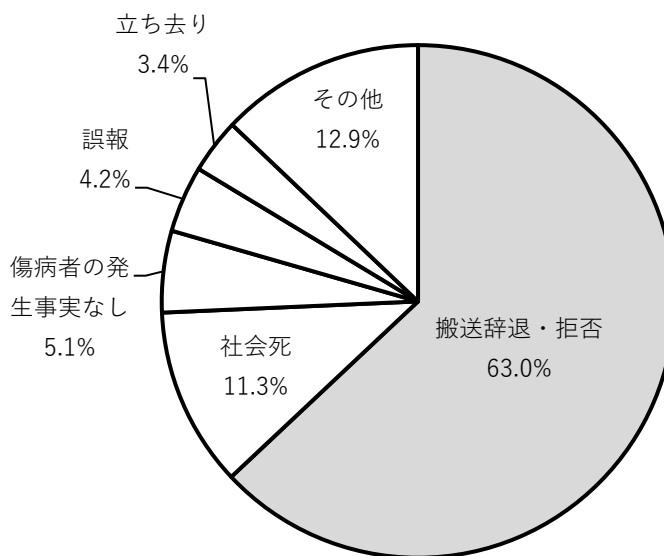
出場件数のうち 11.7%が不搬送であり、その内 6 割以上が搬送辞退・拒否となっています。

図表 2-1-14 不搬送件数の内訳

合計	818,062	100.0%
搬送件数	722,346	88.3%
不搬送件数	95,716	11.7%

不搬送件数内訳

搬送辞退・拒否	60,299	63.0%
社会死	10,822	11.3%
傷病者の発生事実なし	4,924	5.1%
誤報	4,020	4.2%
立ち去り	3,302	3.4%
その他	12,349	12.9%

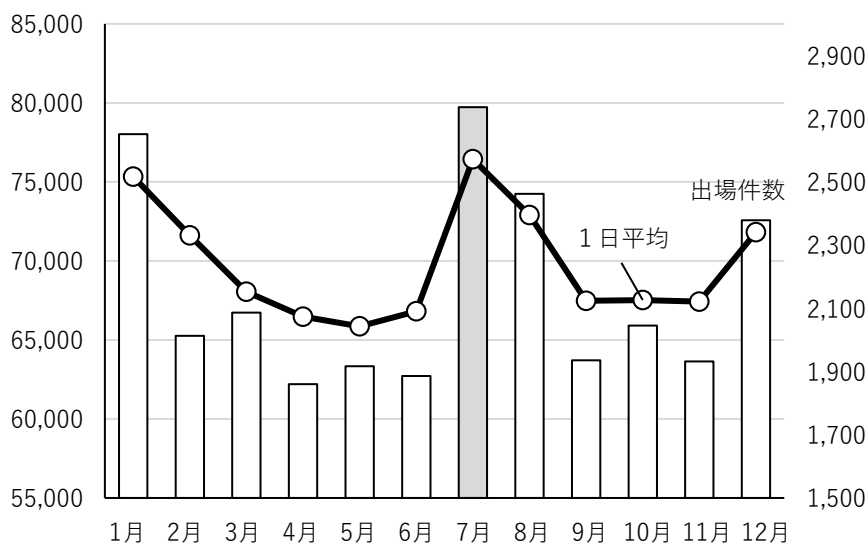


9 月別・曜日別出場件数

月別の 1 日平均では 7 月が多く、曜日別の 1 日平均では月曜日が多くなっています。

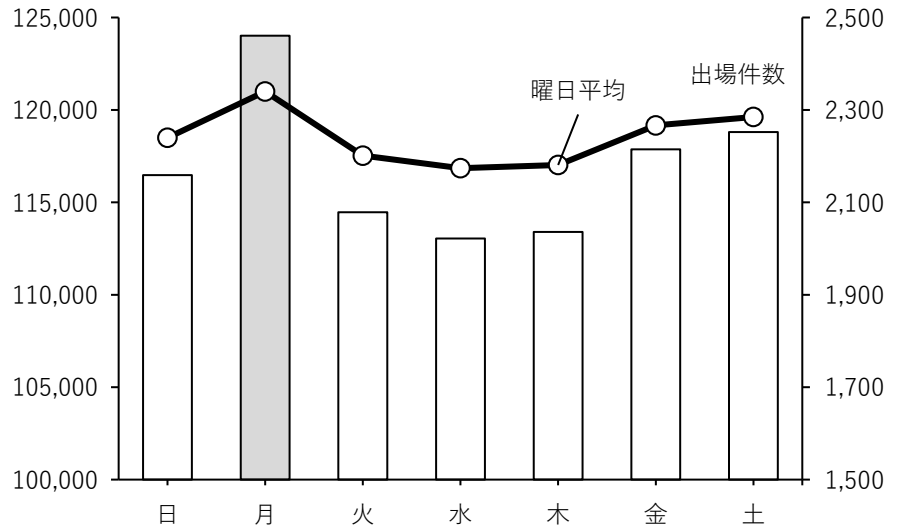
図表 2-1-15 月別出場件数

月	出場件数	1 日平均
1 月	78,017	2,517
2 月	65,263	2,331
3 月	66,726	2,152
4 月	62,206	2,074
5 月	63,332	2,043
6 月	62,715	2,091
7 月	79,728	2,572
8 月	74,246	2,395
9 月	63,712	2,124
10 月	65,911	2,126
11 月	63,635	2,121
12 月	72,571	2,341
合計	818,062	2,241



図表 2-1-16 曜日別出場件数

曜日	出場件数	曜日平均
日	116,469	2,240
月	124,015	2,340
火	114,461	2,201
水	113,045	2,174
木	113,403	2,181
金	117,865	2,267
土	118,804	2,285
合計	818,062	2,241

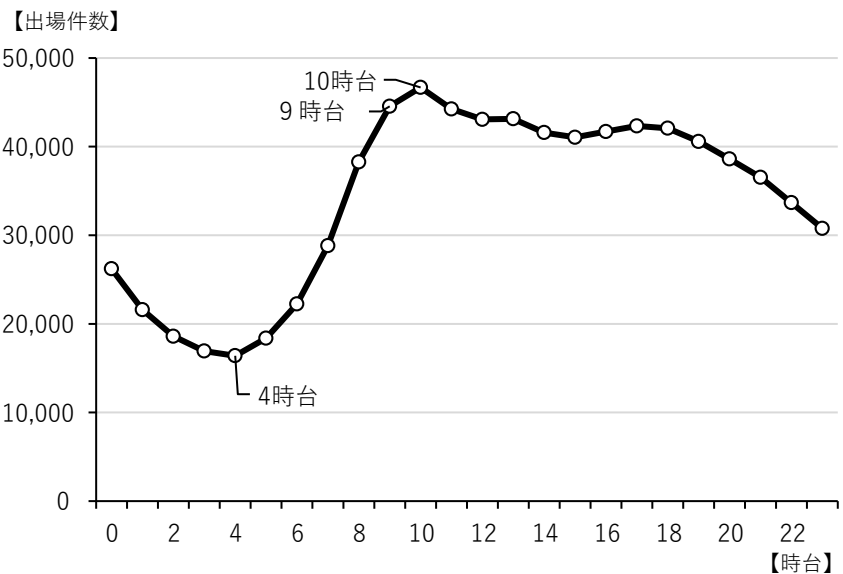


10 時間帯別出場件数

時間帯別では、通勤・通学時間帯である9時から10時台が多く、0時台から7時台の間が少なくなっています。

図表 2-1-17 時間帯別出場件数

時間帯	出場件数	構成比
0時台	26,217	3.2%
1時台	21,586	2.6%
2時台	18,596	2.3%
3時台	16,926	2.1%
4時台	16,402	2.0%
5時台	18,381	2.2%
6時台	22,248	2.7%
7時台	28,821	3.5%
8時台	38,274	4.7%
9時台	44,552	5.4%
10時台	46,680	5.7%
11時台	44,252	5.4%
12時台	43,077	5.3%
13時台	43,138	5.3%
14時台	41,583	5.1%
15時台	41,047	5.0%
16時台	41,702	5.1%
17時台	42,332	5.2%
18時台	42,073	5.1%
19時台	40,581	5.0%
20時台	38,608	4.7%
21時台	36,540	4.5%
22時台	33,670	4.1%
23時台	30,776	3.8%
合計	818,062	100.0%



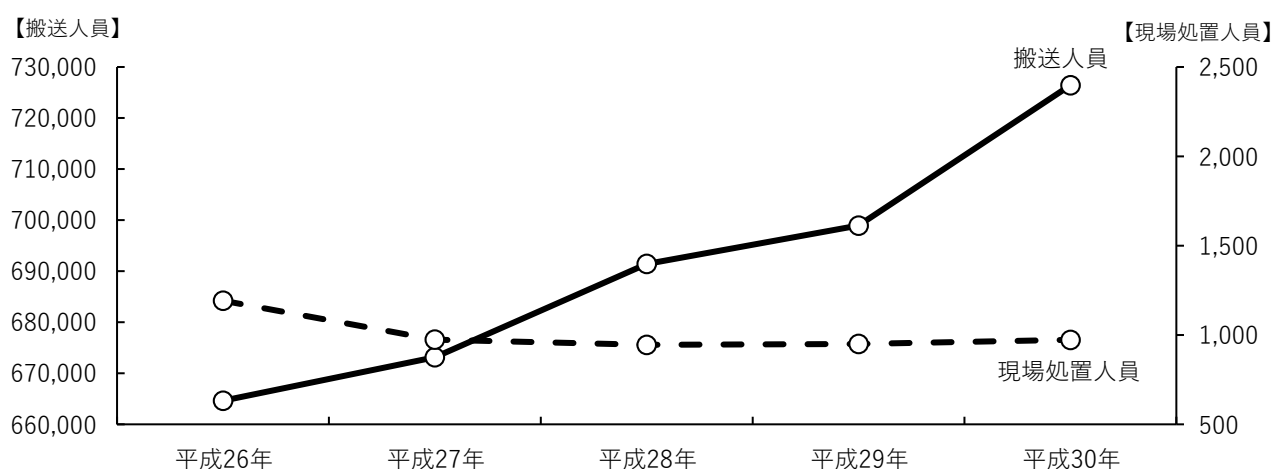
第2節 救護人員

1 救護人員

平成30年中の救護人員は727,401人、搬送人員（医療機関等へ搬送した人員）は726,428人、現場処置人員（救急現場で救急処置を実施したが、医療機関へ搬送しなかった人員）は973人となっています。

図表 2-2-1 救護人員の推移

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
搬送人員	664,629	673,145	691,423	698,928	726,428
現場処置人員	1,192	974	945	950	973
救護人員計	665,821	674,119	692,368	699,878	727,401



2 搬送人員

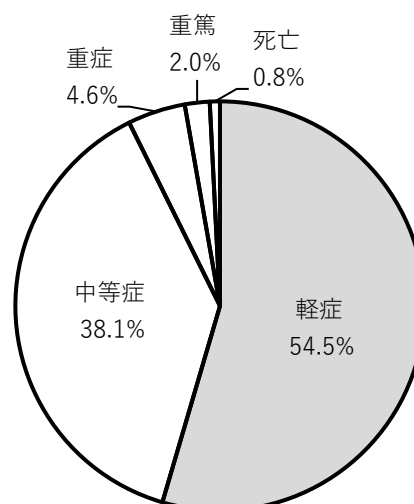
(1) 初診時程度

搬送人員のうち半数以上が軽症で、中等症と軽症を合わせると9割を超えています。

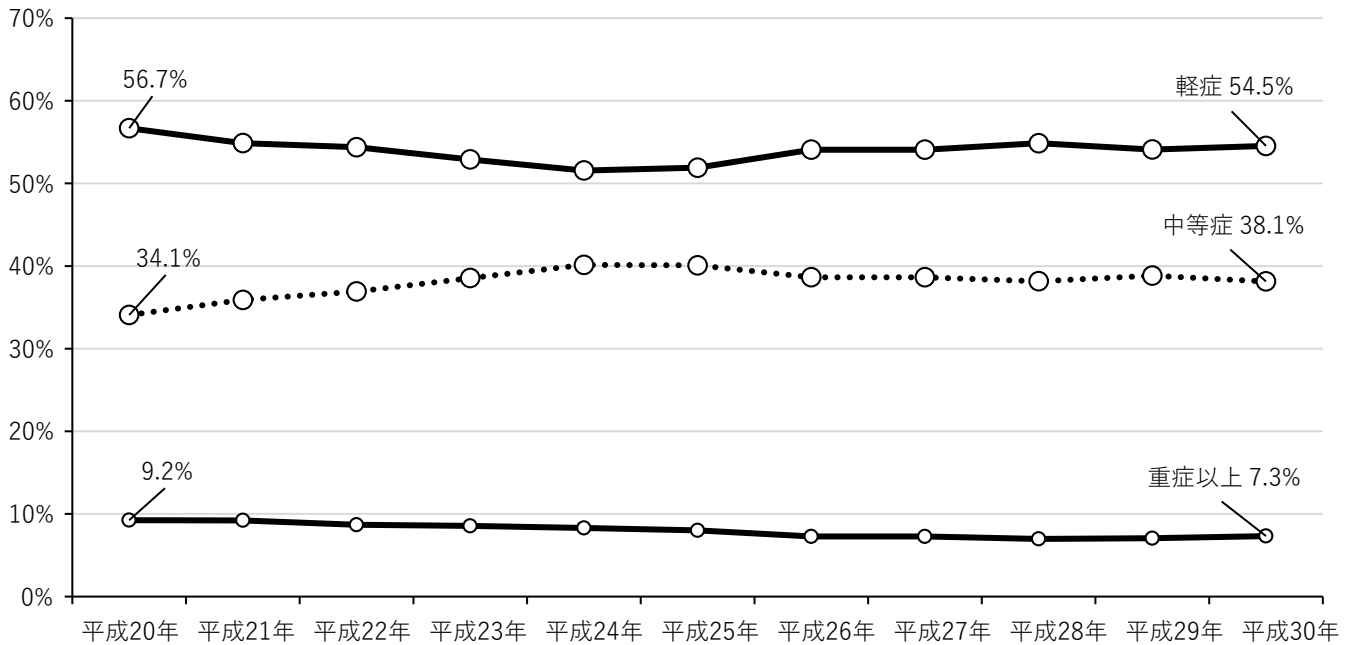
搬送人員の初診時程度別割合の推移をみると、平成26年から中等症の割合は減少傾向にあり、軽症の割合は減少傾向にあります。

図表 2-2-2 初診時程度別搬送人員

初診時程度	搬送人員	割合
軽症	396,204	54.5%
中等症	277,037	38.1%
重症	33,111	4.6%
重篤	14,246	2.0%
死亡	5,830	0.8%
合計	726,428	100.0%



図表 2-2-3 過去 10 年間の初診時程度別割合の推移



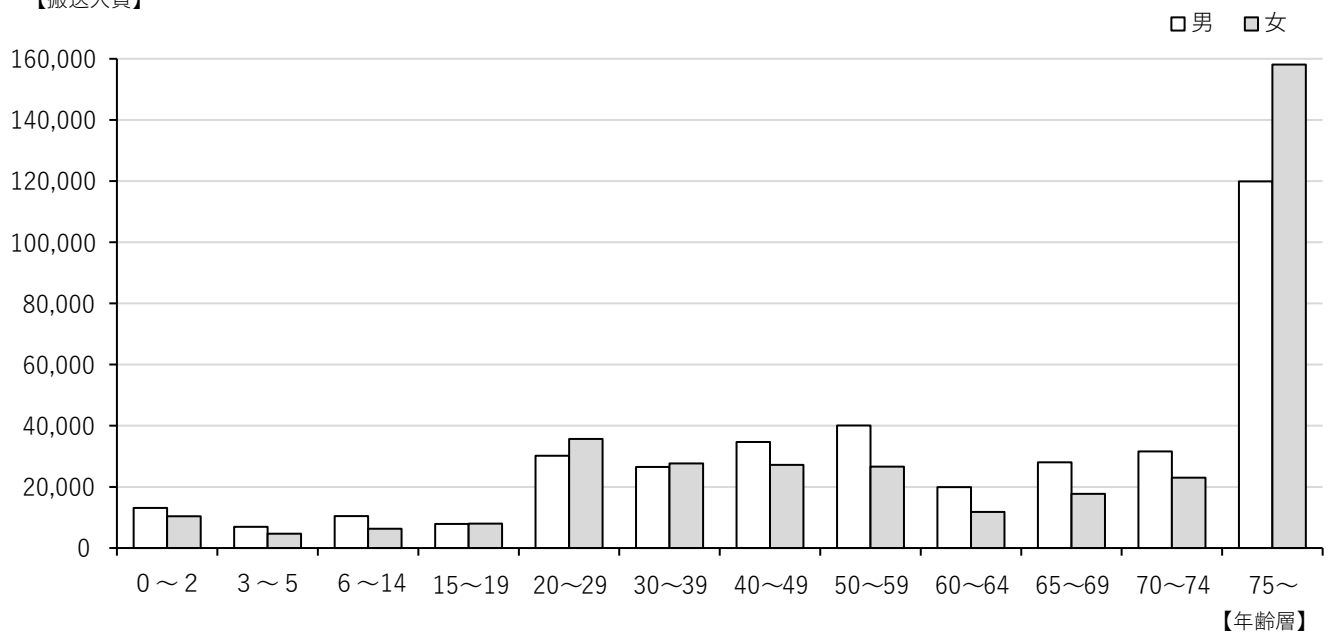
(2) 年齢層

平成 30 年の搬送人員を年齢層別で見ると、75 歳以上の割合が最多となっています。

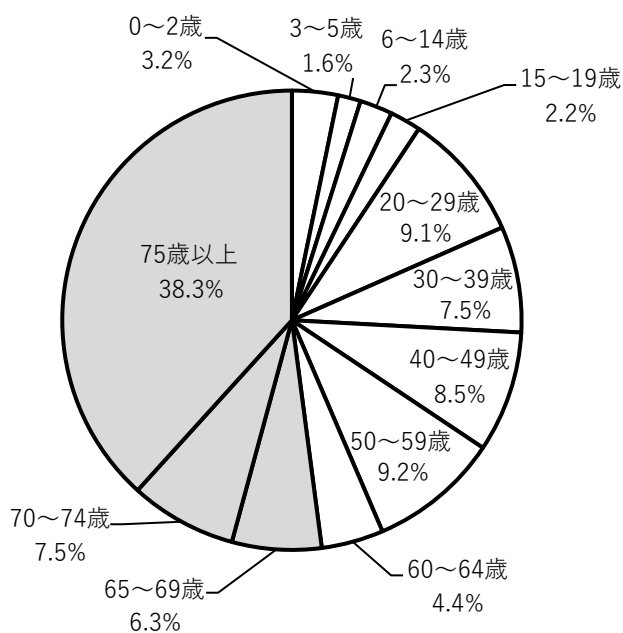
図表 2-2-4 年齢層別・性別搬送人員

年齢	0~2	3~5	6~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75 以上
男	13,127	6,959	10,432	7,874	30,163	26,508	34,675	40,054	19,940	28,011	31,596	119,925
女	10,370	4,664	6,320	8,000	35,692	27,686	27,212	26,641	11,797	17,703	22,985	158,094
合計	23,497	11,623	16,752	15,874	65,855	54,194	61,887	66,695	31,737	45,714	54,581	278,019

【搬送人員】



年齢層	搬送人員	構成比
0～2歳	23,497	3.2%
3～5歳	11,623	1.6%
6～14歳	16,752	2.3%
15～19歳	15,874	2.2%
20～29歳	65,855	9.1%
30～39歳	54,194	7.5%
40～49歳	61,887	8.5%
50～59歳	66,695	9.2%
60～64歳	31,737	4.4%
65～69歳	45,714	6.3%
70～74歳	54,581	7.5%
75歳以上	278,019	38.3%
高齢者計	378,314	52.1%
合計	726,428	100.0%



3 高齢者搬送人員

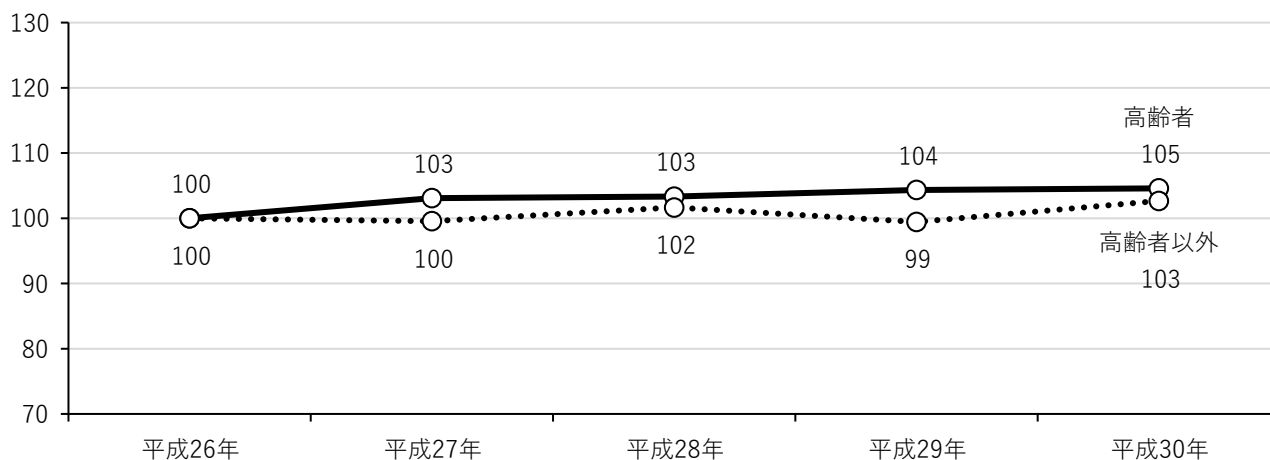
(1) 搬送人員の推移

65歳以上の高齢者の搬送人員は、378,314人で、全搬送人員の52.1%を占めています。また、平成26年を100とした指数で見ると、高齢者搬送人員の増加率が他を上回っています。

図表 2-2-5 高齢者搬送人員の推移

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
全搬送人員	664,629	673,145	691,423	698,928	726,428
高齢者	325,526	335,564	346,703	361,734	378,314
高齢者以外	339,103	337,581	344,720	337,194	348,114
高齢者の割合	49.0%	49.9%	50.1%	51.8%	52.1%

指数[平成26年 = 100]

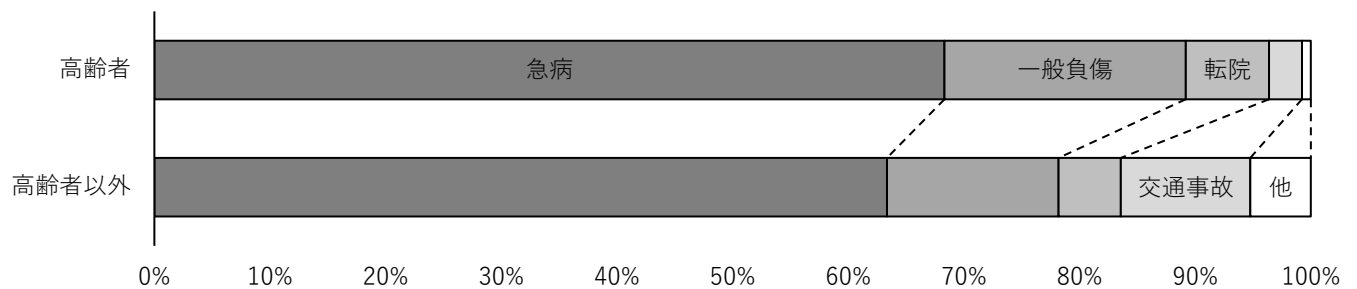


(2) 事故種別

高齢者を事故種別で見ると、高齢者以外と比べ急病、一般及び転院搬送の占める割合が高く、交通事故の占める割合が低くなっています。

図表 2-2-6 事故種別高齢者搬送人員

事故種別	高齢者以外		高齢者	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合
急病	224,686	64.5%	259,476	68.6%
一般負傷	53,023	15.2%	80,387	21.2%
転院搬送	17,467	5.0%	25,356	6.7%
交通事故	35,133	10.1%	10,200	2.7%
その他	17,805	5.1%	2,895	0.8%
合計	348,114	100.0%	378,314	100.0%



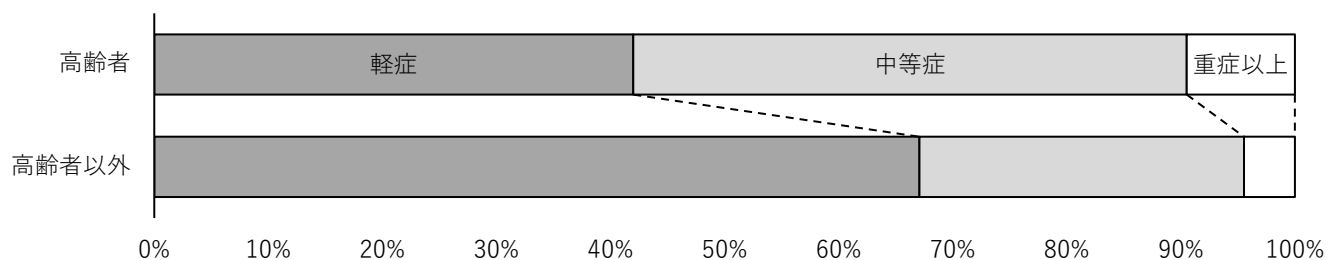
(3) 初診時程度

高齢者を初診時程度別にみると、高齢者以外と比べ中等症以上の割合が高くなっています。

また、主な事故種別における高齢者の搬送割合をみると、急病及び転院搬送に占める中等症以上の割合が高くなっています。

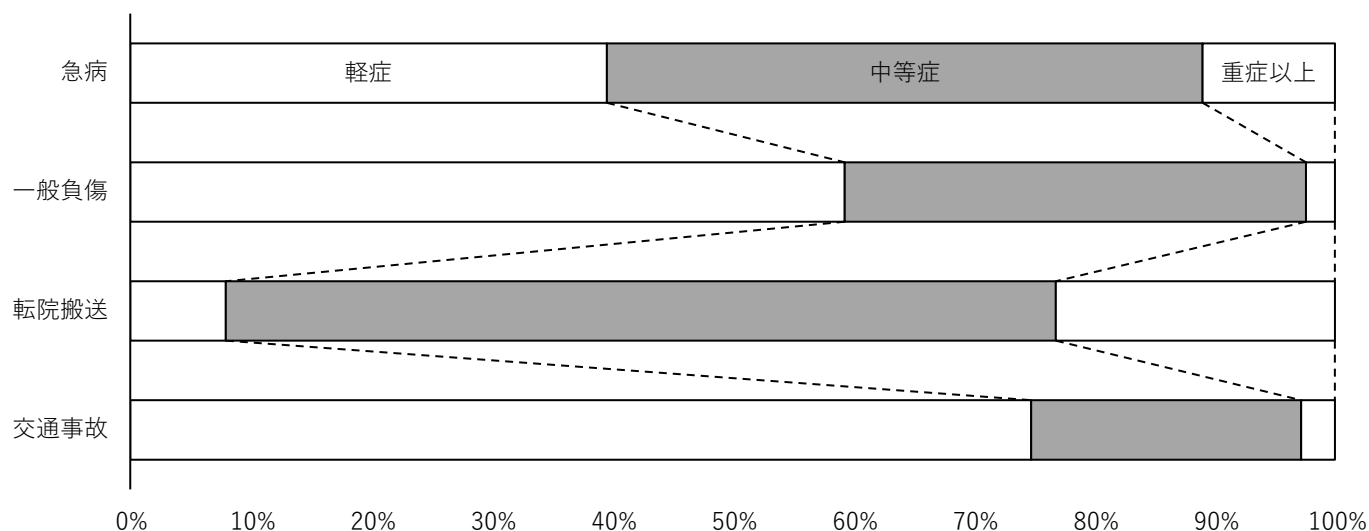
図表 2-2-7 初診時程度別高齢者搬送人員

初診時程度	高齢者以外		高齢者	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合
軽症	234,823	67.5%	161,381	42.7%
中等症	97,470	28.0%	179,567	47.5%
重症	10,601	3.0%	22,510	6.0%
重篤	844	0.2%	4,986	1.3%
死亡	4,376	1.3%	9,870	2.6%
合計	348,114	100.0%	378,314	100.0%



図表 2-2-8 事故種別・初診時程度別高齢者搬送人員

初診時程度	急病		一般負傷		転院搬送		交通	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合
軽症	102,677	39.6%	47,674	59.3%	2,012	7.9%	7,628	74.8%
中等症	128,308	49.4%	30,789	38.3%	17,470	68.9%	2,286	22.4%
重症	16,520	6.4%	957	1.2%	4,664	18.4%	204	2.0%
重篤	7,625	2.9%	662	0.8%	1,202	4.7%	71	0.7%
死亡	4,346	1.7%	305	0.4%	8	0.0%	11	0.1%
合計	259,476	100.0%	80,387	100.0%	25,356	100.0%	10,200	100.0%



4 収容医療機関・医療施設

傷病者を収容した医療機関数及び搬送人員を開設主体別にみると、私的医療機関が大部分を占めています。

東京消防庁管内の医療機関に収容した人員は713,752人(98.3%)で、このうち、救急告示医療機関に704,550人(97.0%)を収容しています。

図表 2-2-9 開設主体別収容医療機関数、搬送人員

区分	収容医療機関数		搬送人員							合計	割合
			告示(管内)		非告示(管内)		管轄外				
	実数	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合			
国立	20	3.0%	53,437	7.6%	555	6.0%	1,507	0.2%	55,499	7.6%	
公立	31	4.7%	82,092	11.7%	293	3.2%	2,792	0.4%	85,177	11.7%	
公的	10	1.5%	41,845	5.9%	191	2.1%	0	0.0%	42,036	5.8%	
私立病院	491	74.5%	523,866	74.4%	6,082	66.1%	8,269	1.2%	538,217	74.1%	
私立診療所	107	16.2%	3,310	0.5%	2,081	22.6%	108	0.0%	5,499	0.8%	
合計	659	100.0%	704,550	100.0%	9,202	100.0%	12,676	1.8%	726,428	100.0%	

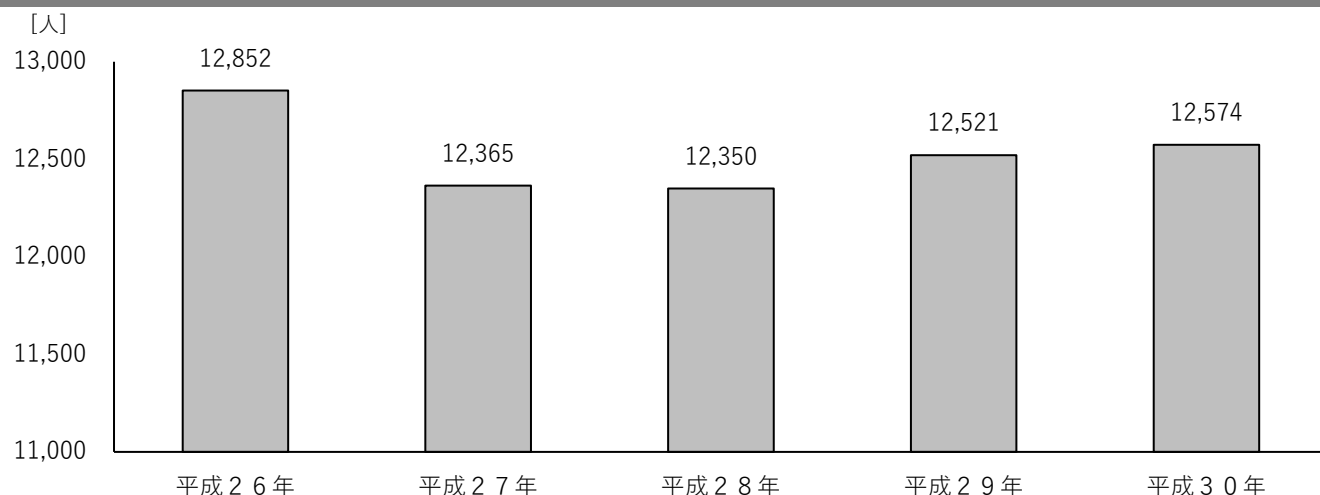
5 心臓機能停止傷病者搬送人員（ウツタイン様式による統計）

(1) 搬送人員の推移

「ウツタイン様式」とは、心臓機能停止傷病者に関する国際的に統一された統計基準の様式であり、平成18年から同様式で統計処理を開始しました。

平成30年中に、発症時点から医療機関に収容するまでの間に心臓機能が停止した傷病者（以下「心停止傷病者」という。）の搬送人員は、12,574人です。

図表 2-2-10 心臓機能停止傷病者搬送人員の推移

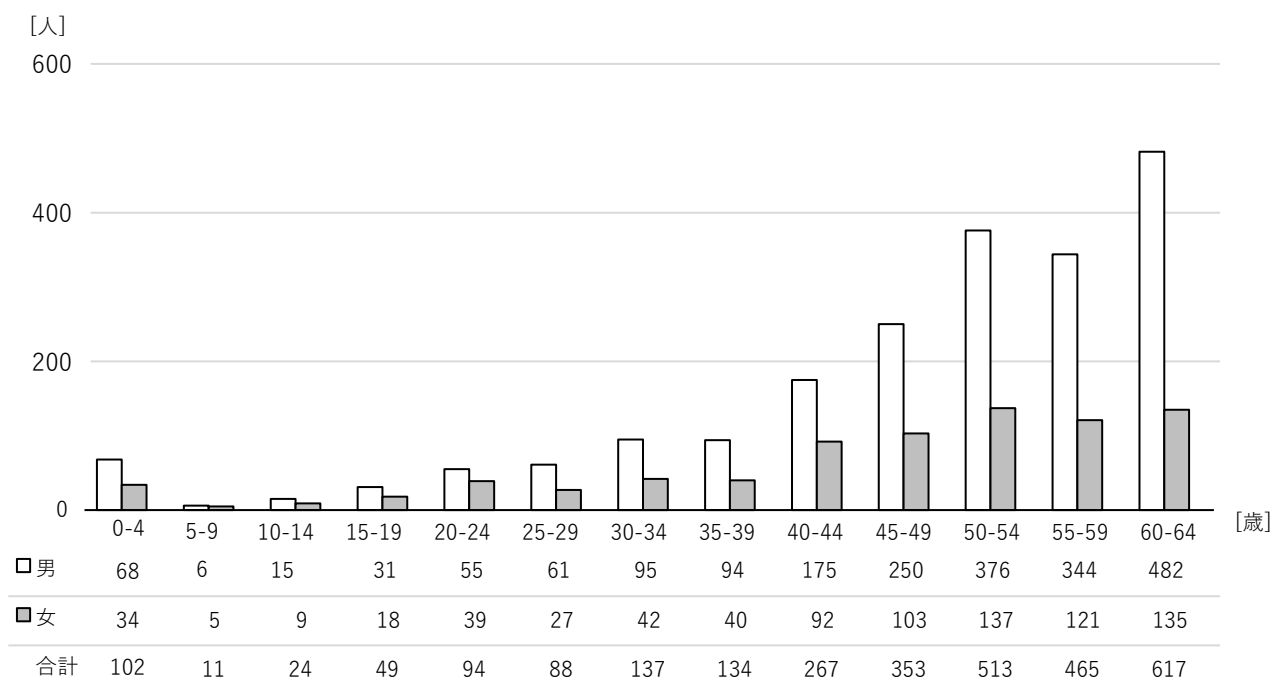


(2) 性別・年齢層別搬送人員（高齢者群・非高齢者群）

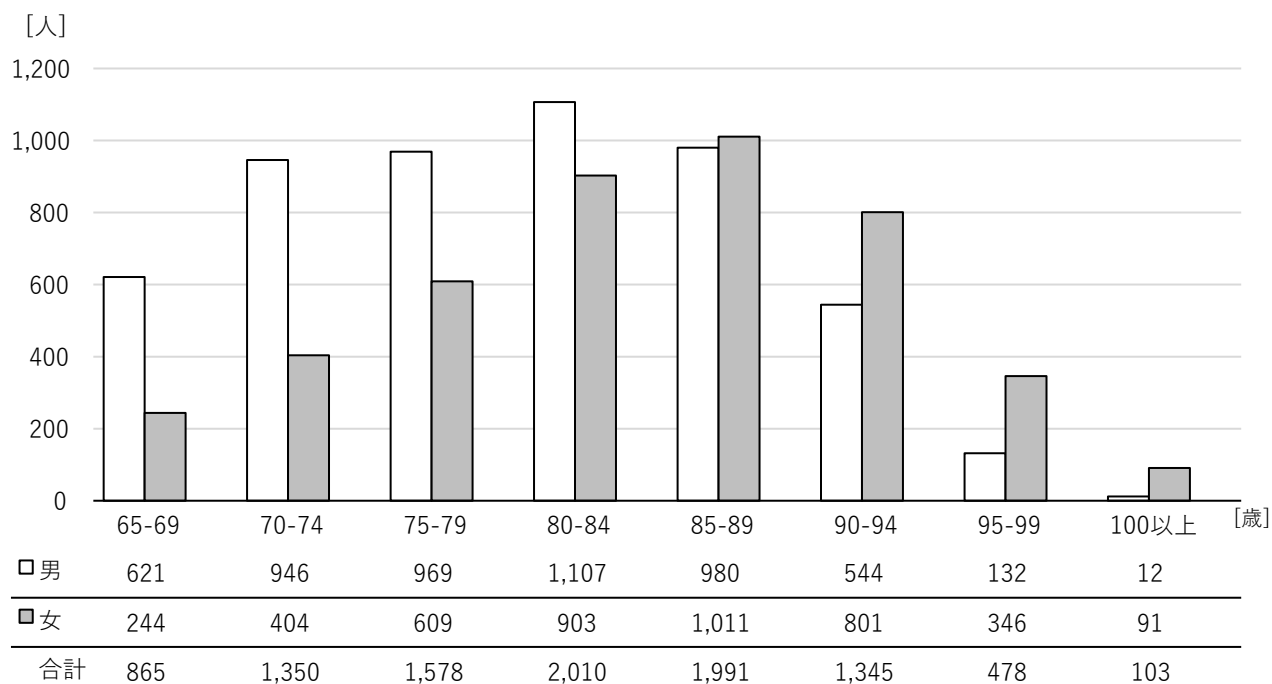
搬送人員の実数は、85歳以上の年齢層では女性が男性を上回りますが、それ以外の年齢層において男性が女性を上回っています。これは、心停止傷病者は基本的には男性の搬送が多い傾向があるものの、女性の平均寿命が男性より長いことによるものと考えられます。

特徴的なのは45歳から69歳までの年齢層で、各年齢層において男性が女性の2倍以上の搬送人員となっています。

図表 2-2-11 性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（非高齢者群）



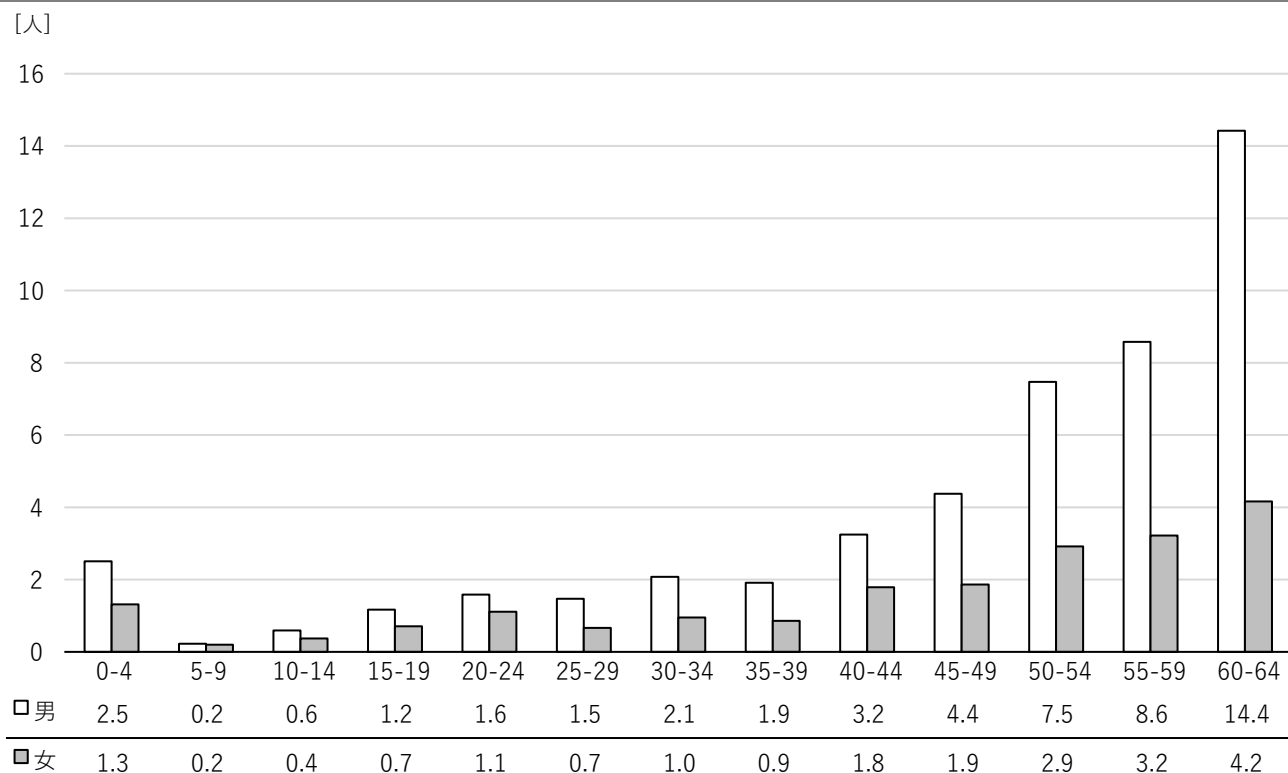
図表 2-2-12 性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（高齢者群）



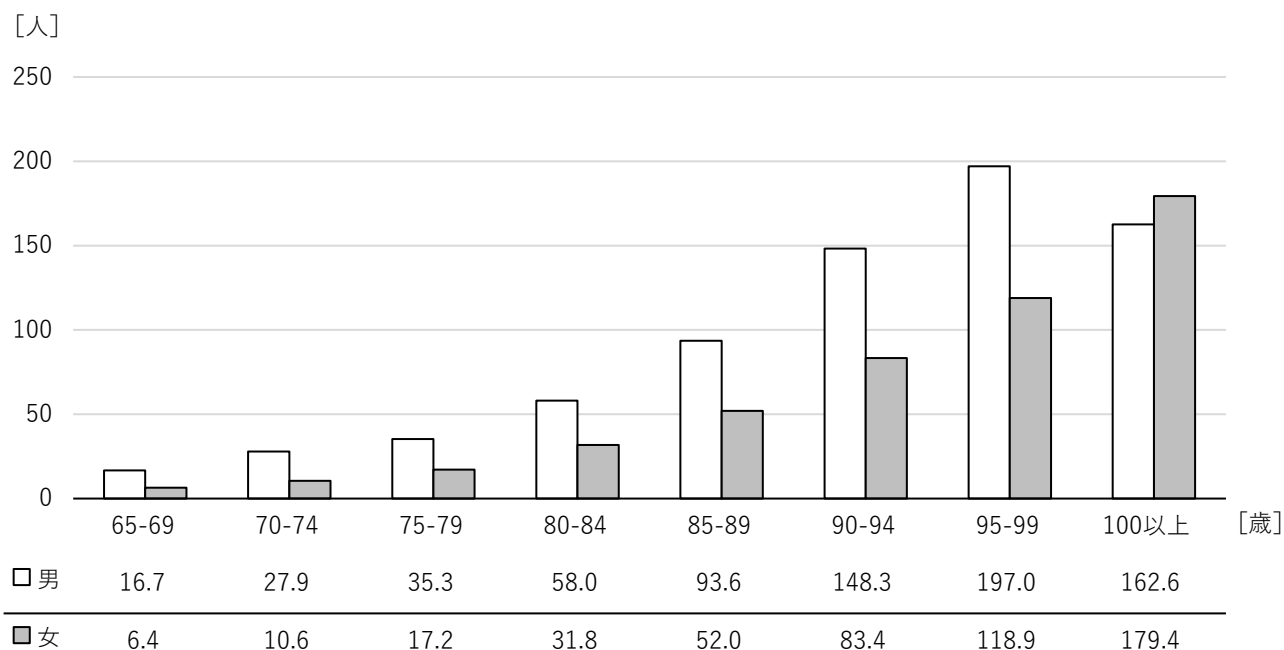
一方、人口に対する搬送人員の発生頻度を比較する目安として、人口（平成31年1月1日現在の東京都住民基本台帳から算出した東京都人口）1万人に対する搬送人員（以下「対人口搬送人員」という。）を各性別・年齢層別に算出した結果は、次のとおりです。

対人口搬送人員は、全ての年齢層で、男性の比率が高い結果となっています。このことから、女性より男性の方が突然の心臓機能の停止をきたし、救急搬送の対象となる頻度が高いと推測されます。

図表 2-2-13 人口1万人あたりの性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（非高齢者群）



図表 2-2-14 人口1万人あたりの性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（高齢者群）

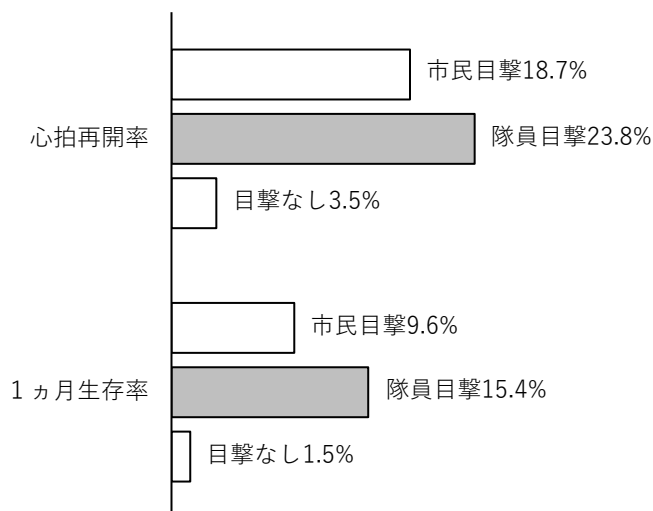
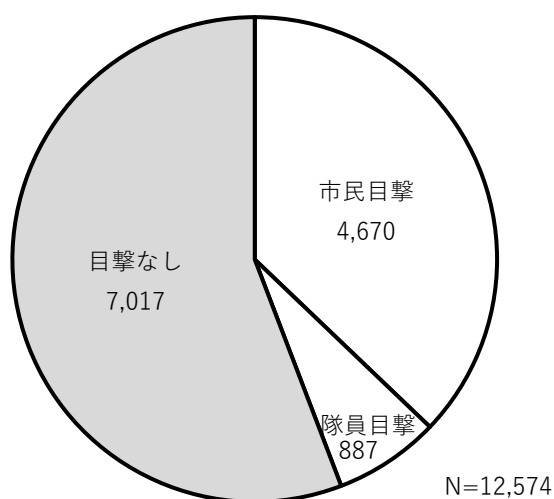


(3) 心停止の目撃

心停止の目撃があった傷病者は、市民目撃及び隊員目撃を併せて全体の44.2%です。目撃があった場合の1ヵ月生存率は、目撃がなかった場合と比較して7倍となっています。

図表 2-2-15 心停止の目撃有無別搬送人員

目撃情報	搬送人員	割合	収容前 心拍再開数	心拍 再開率	1ヶ月 生存数	1ヶ月 生存率
目撃あり	5,557	44.2%	1,085	19.5%	587	10.6%
市民目撃	4,670	37.1%	874	18.7%	450	9.6%
隊員目撃	887	7.1%	211	23.8%	137	15.4%
目撃なし	7,017	55.8%	247	3.5%	103	1.5%
合計	12,574	100.0%	1,332	10.6%	690	5.5%



「心停止の目撃」とは、傷病者が心停止に陥った時の事故の状況、又は行為等（倒れた、意識を失った、車にはねられた等）を、目撃又は音を聞いた人（以下「目撃者」という。）がいた場合で、かつその時刻を目撃者が確定又は推定できる場合を言います。

「市民目撃」とは、救急現場に居合わせた人（以下「バイスタンダー」という。）が心停止を目撃した場合を指します。

「隊員目撃」とは、救急隊員・消防隊員等（以下「救急隊員等」という。）が、現場到着後に傷病者が心停止になったところを確認した場合を指します。

「収容前心拍再開」とは、救急隊が医療機関の医師に引継ぐ前に傷病者が心拍再開したものを指します。継続性は問わず、一時的に再開し、再び心停止状態になったものも含まれます。

「1ヶ月生存」とは、傷病者が医療機関に収容された日から1ヵ月後の日の傷病者の生存の有無を表します。なお、1ヶ月生存の状況が追跡できず不明だった傷病者については、統計処理上、生存していないものに計上しています。

(4) バイスタンダーによる応急手当

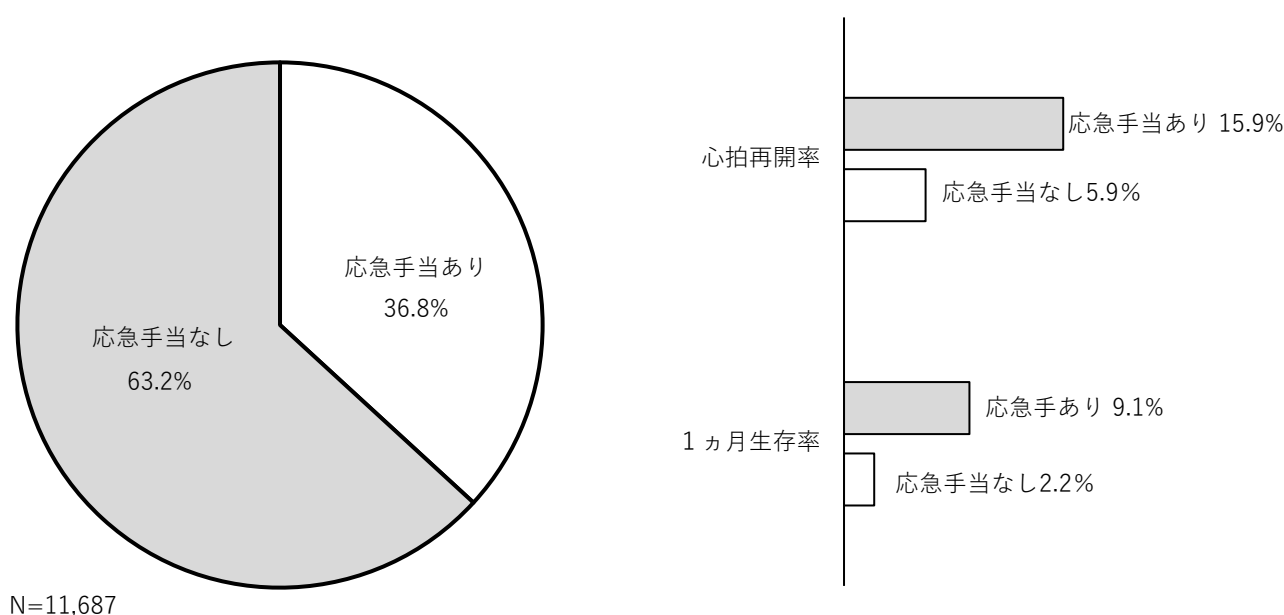
隊員目撃を除いた搬送人員 11,687 人について、バイスタンダー（心停止目撃の有無を問わない。）による応急手当（心停止傷病者に対して有効な手当＝人工呼吸・胸骨圧迫・AED 等による除細動処置等に限定）の実施状況は次のとおりです。

バイスタンダーによる応急手当の実施率は、市民目撃があった場合が 46.6%と、市民目撃がなかった場合の 30.3%より 16.3 ポイント高くなっています。

また、市民目撃があった場合は、応急手当実施の有無により、1ヶ月生存率に約 3.1 倍の差が生じています。

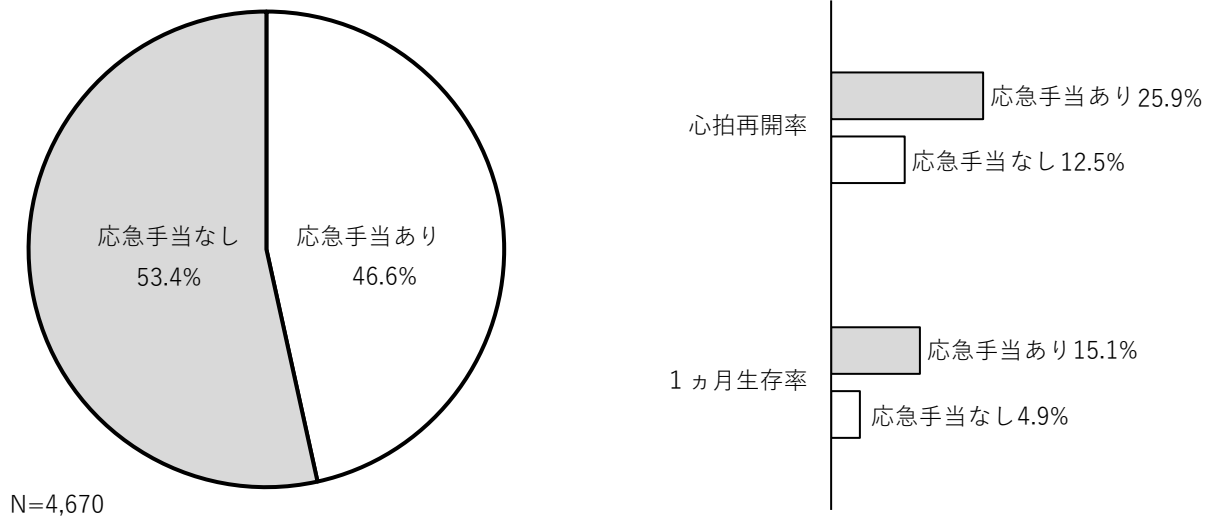
図表 2-2-16 バイスタンダーによる応急手当実施状況（隊員目撃を除く）

応急手当の有無	搬送人員	割合	収容前 心拍再開数	心拍再開率	1ヶ月生存数	1ヶ月生存率
応急手当あり	4,303	36.8%	684	15.9%	391	9.1%
応急手当なし	7,384	63.2%	437	5.9%	162	2.2%
合計	11,687	100.0%	1,121	9.6%	553	4.7%



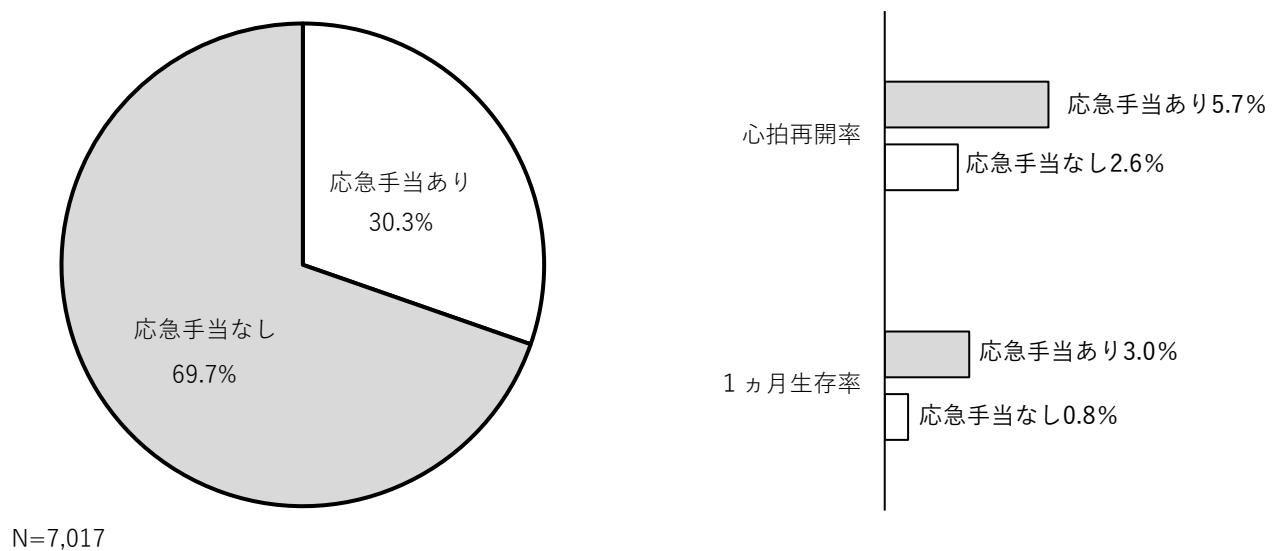
図表 2-2-17 バイスタンダーによる応急手当実施状況（市民目撃あり）

応急手当の有無	搬送人員	割合	収容前 心拍再開数	心拍再開率	1ヶ月生存数	1ヶ月生存率
応急手当あり	2,174	46.6%	562	25.9%	328	15.1%
応急手当なし	2,496	53.4%	312	12.5%	122	4.9%
合計	4,670	100.0%	874	18.7%	450	9.6%



図表 2-2-18 バイスタンダーによる応急手当実施状況（目撃なし）

応急手当の有無	搬送人員	割合	収容前 心拍再開数	心拍再開率	1ヶ月生存数	1ヶ月生存率
応急手当あり	2,129	30.3%	122	5.7%	63	3.0%
応急手当なし	4,888	69.7%	125	2.6%	40	0.8%
合計	7,017	100.0%	247	3.5%	103	1.5%



(5) バイスタンダーによる応急手当の開始時期

市民目撃があり、かつバイスタンダーにより応急手当が実施された傷病者（以下「目撃あり・手当あり群」と言います。）2,174人について、市民目撃から応急手当の開始までの所要時間の状況は、次のとおりです。

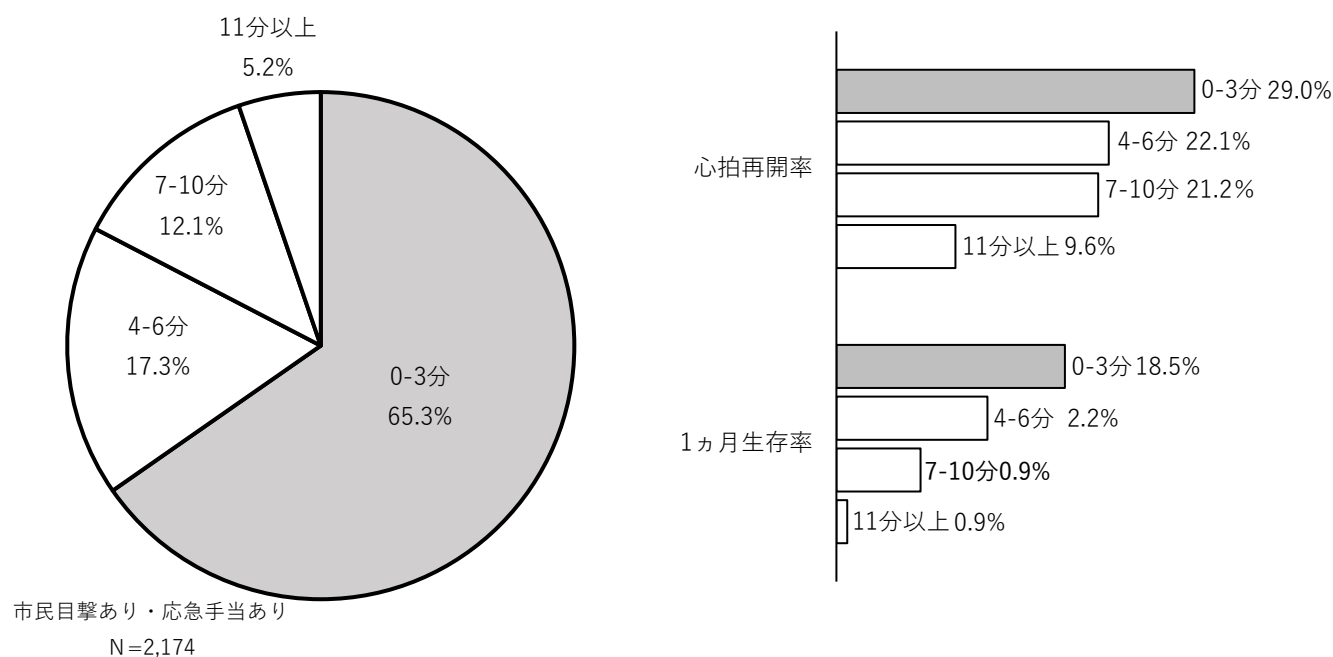
平均所要時間は3分01秒で、市民目撃から応急手当の開始までの時間が短時間であるほど、収容前心拍再開率、1ヶ月生存率が高い結果になっています。

全体の約65%は、3分以内に応急手当が開始されていますが、市民目撃から10分を超えてから応急手当が開始された群は、心拍再開率が9.6%、1ヶ月生存率が0.9%となっていることから、早期の応急手当の開始が重要であることがわかります。

図表 2-2-19 市民目撃から応急手当開始までの所要時間

所要時間	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1ヶ月生存数	1ヶ月生存率
0-3分	1,420	65.3%	412	29.0%	263	18.5%
4-6分	376	17.3%	83	22.1%	46	12.2%
7-10分	264	12.1%	56	21.2%	18	6.8%
11分以上	114	5.2%	11	9.6%	1	0.9%
合計	2,174	100.0%	562	25.9%	328	15.1%

平均3分01秒



(6) 救急隊員等の救急処置の開始時期

市民目撃があつたものの、バイスタンダーによる有効な応急手当が実施されなかった傷病者（以下「目撃あり・手当なし群」と言う。）2,496人について、市民目撃から救急隊員等による救命処置が開始されるまでの所要時間の状況は、次のとおりです。

目撃あり・手当あり群の約65%が3分以内に応急手当が開始されているのに対して、目撃あり・手当なし群は、救急隊等が傷病者に接触するまでの時間（市民目撃～通報、通報～救急隊等の現場到着及び

現場到着～傷病者の所在場所に至るまでの所要時間)がかかるため、7分以上の群が全体の70.3%を占め、平均所要時間は10分38秒となっています。

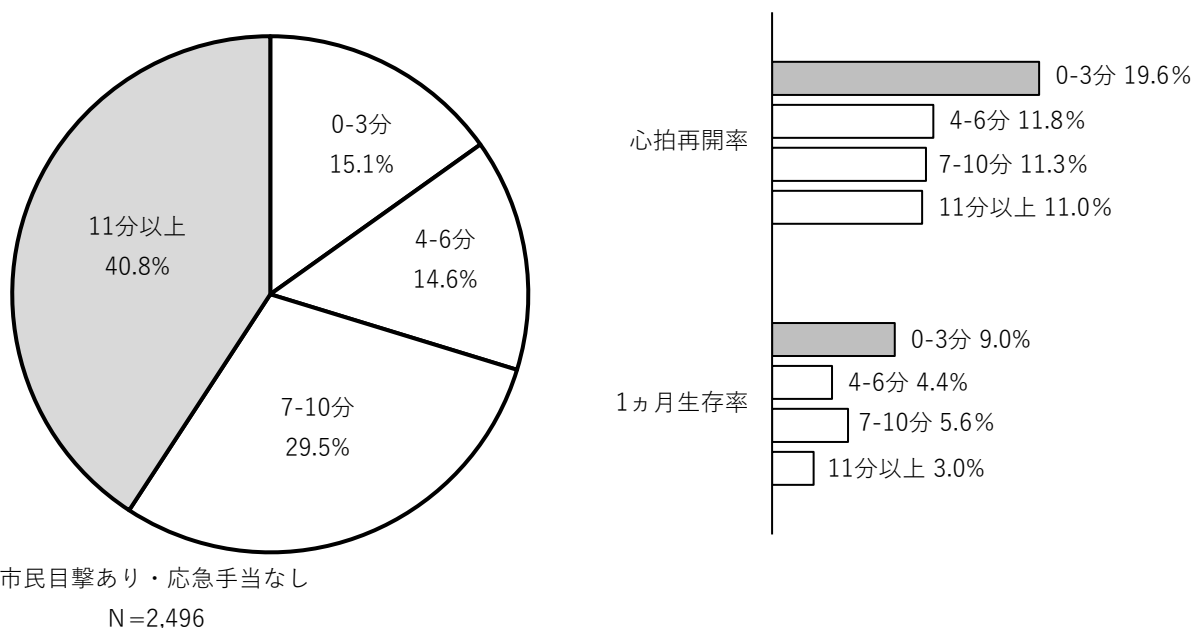
なお市民目撃には、通報後に心停止となった事案が含まれていることから、市民目撃が通報前の事案に限定した場合は、さらに所要時間が延伸する結果になると考えられます。

また、同じ所要時間であっても、目撃あり・手当なし群の方が、目撃あり・手当あり群より、収容前心拍再開、1ヶ月生存状況ともに低い結果となっています。これは、バイスタンダーが応急手当を実施しようとしても、物理的に困難な事案(2次の災害や感染危険がある場合、又は傷病者への接触自体が困難である場合等)や、救命が極めて困難な事案が、目撃あり・手当なし群に多く含まれているためと考えられます。

図表 2-2-20 市民目撃から隊員等処置開始までの所要時間

所要時間	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1ヵ月生存数	1ヵ月生存率
0-3分	378	15.1%	74	19.6%	34	9.0%
4-6分	364	14.6%	43	11.8%	16	4.4%
7-10分	736	29.5%	83	11.3%	41	5.6%
11分以上	1,018	40.8%	112	11.0%	31	3.0%
合計	2,496	100.0%	312	12.5%	122	4.9%

平均10分38秒



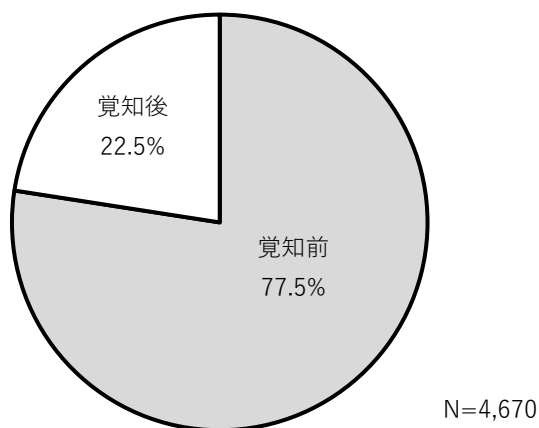
(7) 市民目撃から覚知までの所要時間

市民目撃があった傷病者4,670人のうち、覚知前に目撃された(心停止後に通報された)傷病者と覚知後に目撃された(通報後に心停止となった)傷病者の状況は、次のとおりです。

覚知(時刻)とは、東京消防庁総合指令室が通報を確認した時刻を指し、通報の時刻とは近似した時刻となりますが、必ずしも一致するとは限りません。

図表 2-2-21 市民目撃の時期

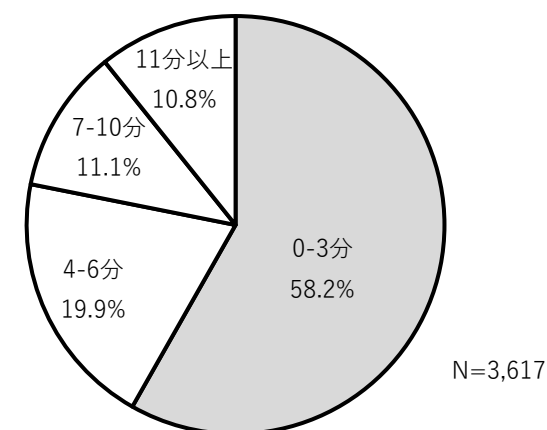
市民目撃の時期	搬送人員	割合
覚知前	3,617	77.5%
覚知後	1,053	22.5%
合計	4,670	100.0%



覚知前に心停止となった傷病者 3,617 人について、市民目撃から覚知までの平均所要時間は 4 分 30 秒で、全体の約 58% は市民目撃から 3 分以内に覚知されていますが、約 42% は 4 分以降、うち半数以上は 7 分以降となっています。

図表 2-2-22 市民目撃から覚知までの所要時間

所要時間	搬送人員	割合
0-3 分	2,106	58.2%
4-6 分	720	19.9%
7-10 分	402	11.1%
11 分以上	389	10.8%
合計	3,617	100.0%



平均 4 分 30 秒

(8) 除細動処置の効果 (バイスタンダーによる AED 使用の効果)

心停止傷病者のうち、心室細動等の心電図波形を呈する傷病者に対しては、除細動処置の救命効果が高いとされています。除細動処置は、AED (自動体外式除細動器) を使用することにより非医療従事者にも行うことが認められており、効果的に使用されることにより、救命効果の向上が期待されます。

市民目撃があり、かつバイスタンダーにより除細動処置が施行された傷病者は、収容前心拍再開率が 62.7%、1 ヶ月生存率が 52.5%と、高い比率になっています。

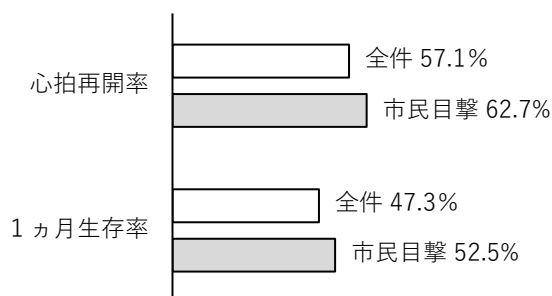
一方、市民目撃があったもののバイスタンダーによる除細動がなく、救急隊員等が最初の除細動施行者となった場合 (初期心電図が心室細動等であった場合に限定) は、収容前心拍再開率が 20.6%、1 ヶ月生存率が 19.5%と、バイスタンダーによる除細動施行事案と比較して低い比率となっています。

これは、市民目撃から除細動処置が施行されるまでの平均所要時間をみると、バイスタンダーによる除細動の場合は 4 分 59 秒であるのに対し、救急隊員等による除細動の場合は 10 分 49 秒と、約 2.2 倍の時間を要していることに関連があると考えられます。

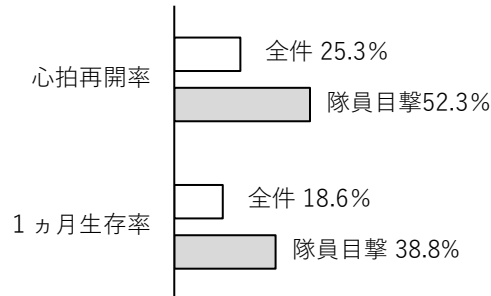
図表 2-2-23 バイスタンダー及び救急隊員等による除細動処置の施行状況

		搬送人員	目撃-除細動 平均時間	収容前 心拍再開数	心拍 再開率	1ヶ月 生存数	1ヶ月 生存率
全除細動事案		1,441	-	451	31.3%	345	23.9%
バイスタンダー 除細動施行事案	全件	319	-	182	57.1%	151	47.3%
	うち市民目撃	255	4分59秒	160	62.7%	134	52.5%
隊員 除細動施行事案	全件	1,242	-	314	25.3%	231	18.6%
	隊員目撃	152	2分13秒	79	52.3%	59	38.8%
	市民目撃あり バイスタンダー除 細動未施行事案	676	13分40秒	151	22.3%	116	17.2%
	うち初期心電図 =心室細動等	447	10分49秒	92	20.6%	87	19.5%

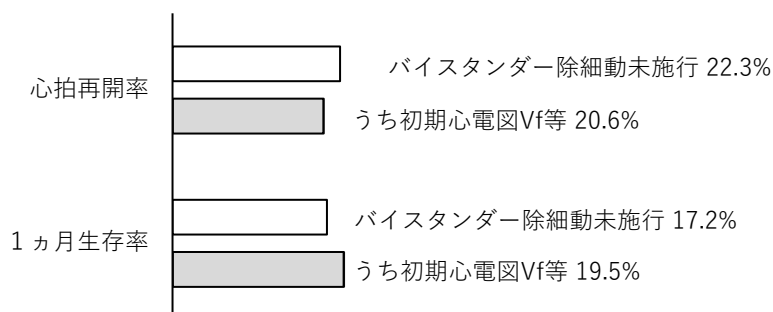
[バイスタンダー除細動施行事案]



[隊員除細動施行事案]



[市民目撃あり・バイスタンダー除細動なし・隊員除細動施行]



「心室細動等」とは、心停止傷病者の心電図測定時の波形が、「心室細動（VF）」又は「心室頻拍（VT）」という致死的不整脈であった場合を指します。これらの波形は、心臓が痙攣し有効な血液量の拍出が得られていない状態を示しており、除細動処置が唯一の救命処置とされ、かつ当該処置が奏効すれば救命の可能性が高いとされています。

「市民目撃あり・バイスタンダー除細動未施行事案」の項目は、バイスタンダーによる除細動が施行されず、後から到着した救急隊員等が傷病者に対して初めて除細動処置を施行した場合の救命効果を、バイスタンダーによる除細動が施行された場合と比較するために、隊員目撃の事案（救急隊等が到着した後に傷病者が心停止となった事案）及び救急隊等の除細動処置が傷病者に最初に施行されたものではない事案（バイスタンダー等による除細動が施行された事案）を除外しています。

「初期心電図＝心室細動等」は、救急隊が傷病者に接触した際に測定した最初の心電図波形が心室細動等であった場合を指します。医学的に、心室細動等は心停止後の時間の経過とともに心室細動等以外の波形（「無脈性電気的活動（PEA）」「心静止（Asystole）」）に変化し、除細動処置の適応ではなくなると言われています。初期心電図が心室細動等であれば、波形の変化をきたす前に救急隊が傷病者に接触できたことを示す一つの指標となります。

(9) 発生場所別の心停止目撃・応急手当・除細動処置の実施状況

発生場所別の心停止目撃、応急手当及び除細動の実施状況は、次のとおりです。

芸術・文化施設、運動施設、空港等は、搬送人員は少ないものの、心停止目撃率、応急手当実施率及び除細動施行率が高く、心拍再開率、1ヶ月生存率ともに高い結果となっています。

これらの場所は、頻繁に人の往来があり、心停止が目撃され、バイスタンダーによる応急手当が早期に行われる可能性が高く、かつ AED の設置整備が推進され早期に除細動処置が施行される環境にあるため、心拍再開率等が高率であると推測されます。

一方、搬送人員の7割以上を占める住宅等は、これらの率が低くなっています。

図表 2-2-24 発生場所別心停止目撃・応急手当・除細動実施状況

発生場所区分		搬送人員		目撃あり※1		応急手当あり※2		除細動あり※3		心拍再開		1ヶ月生存	
		実数	平均年齢	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
(合計)		12,574	73.8	5,557	44.2%	4,303	34.2%	1,441	11.5%	1,332	10.6%	690	5.5%
居住・介護・宿泊施設	住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	8,535	74.8	3,286	38.5%	2,148	25.2%	663	7.8%	645	7.6%	238	2.8%
	自助施設・グループホーム等	210	81.4	114	54.3%	122	58.1%	16	7.6%	21	10.0%	12	5.7%
	特別養護老人ホーム	595	87.4	277	46.6%	432	72.6%	26	4.4%	43	7.2%	16	2.7%
	老人施設（特養以外）	913	86.7	413	45.2%	564	61.8%	54	5.9%	82	9.0%	34	3.7%
	ホテル・旅館・簡易宿泊所	86	59.5	41	47.7%	30	34.9%	14	16.3%	7	8.1%	5	5.8%
会社・工場等	会社・オフィス	134	56.0	96	71.6%	68	50.7%	52	38.8%	43	32.1%	29	21.6%
	工場・製造所・作業場	60	57.5	31	51.7%	24	40.0%	15	25.0%	8	13.3%	6	10.0%
	その他仕事場業態の場所	8	60.9	3	37.5%	3	37.5%	3	37.5%	0	0.0%	0	0.0%
販売・サービス業施設		276	63.4	216	78.3%	115	41.7%	103	37.3%	82	29.7%	63	22.8%
娯楽・遊戯施設		64	65.0	40	62.5%	29	45.3%	20	31.3%	8	12.5%	8	12.5%
健康・保養・美容施設		58	71.3	27	46.6%	33	56.9%	8	13.8%	9	15.5%	3	5.2%
医療等施設	病院	101	64.5	75	74.3%	74	73.3%	16	15.8%	41	40.6%	23	22.8%
	診療所・クリニック・医院	86	68.5	79	91.9%	69	80.2%	32	37.2%	32	37.2%	17	19.8%
	助産所・鍼灸院・接骨院等	5	64.0	5	100.0%	4	80.0%	0	0.0%	2	40.0%	1	20.0%
育児児童施設・学校		38	43.9	28	73.7%	32	84.2%	19	50.0%	12	31.6%	12	31.6%
芸術・文化施設		21	66.4	16	76.2%	15	71.4%	11	52.4%	11	52.4%	7	33.3%
運動施設		51	63.1	40	78.4%	44	86.3%	26	51.0%	24	47.1%	18	35.3%
公園・遊園地等		65	57.6	22	33.8%	15	23.1%	11	16.9%	11	16.9%	6	9.2%
宗教施設・斎場等		23	73.1	12	52.2%	16	69.6%	7	30.4%	7	30.4%	5	21.7%
官公庁・行政施設		36	61.9	21	58.3%	21	58.3%	14	38.9%	13	36.1%	9	25.0%
道路・車両・交通施設	線路・軌道敷	28	55.1	23	82.1%	5	17.9%	5	17.9%	4	14.3%	4	14.3%
	駅	170	55.6	129	75.9%	104	61.2%	75	44.1%	70	41.2%	60	35.3%
	空港	15	60.2	12	80.0%	12	80.0%	2	13.3%	8	53.3%	5	33.3%
	港	3	38.3	3	100.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
	駐車場・駐輪施設	61	55.9	23	37.7%	17	27.9%	7	11.5%	4	6.6%	4	6.6%
	一般道路（公道・私道・施設内道路）	783	61.5	480	61.3%	276	35.2%	220	28.1%	134	17.1%	99	12.6%
高速道路・自動車専用道路		17	55.8	10	58.8%	3	17.6%	3	17.6%	0	0.0%	1	5.9%
自然環境・土地	農地（田・畑）	2	73.0	1	50.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	山林	8	71.8	4	50.0%	5	62.5%	2	25.0%	1	12.5%	1	12.5%
	河川・水路	76	58.4	13	17.1%	8	10.5%	4	5.3%	2	2.6%	1	1.3%
	湖沼等	1	65.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	海	5	60.6	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	その他自然環境・土地	7	59.9	1	14.3%	0	0.0%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%
建築・工事現場		30	58.1	13	43.3%	12	40.0%	10	33.3%	7	23.3%	3	10.0%
その他		3	53.7	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%

※1 市民目撃及び隊員目撃

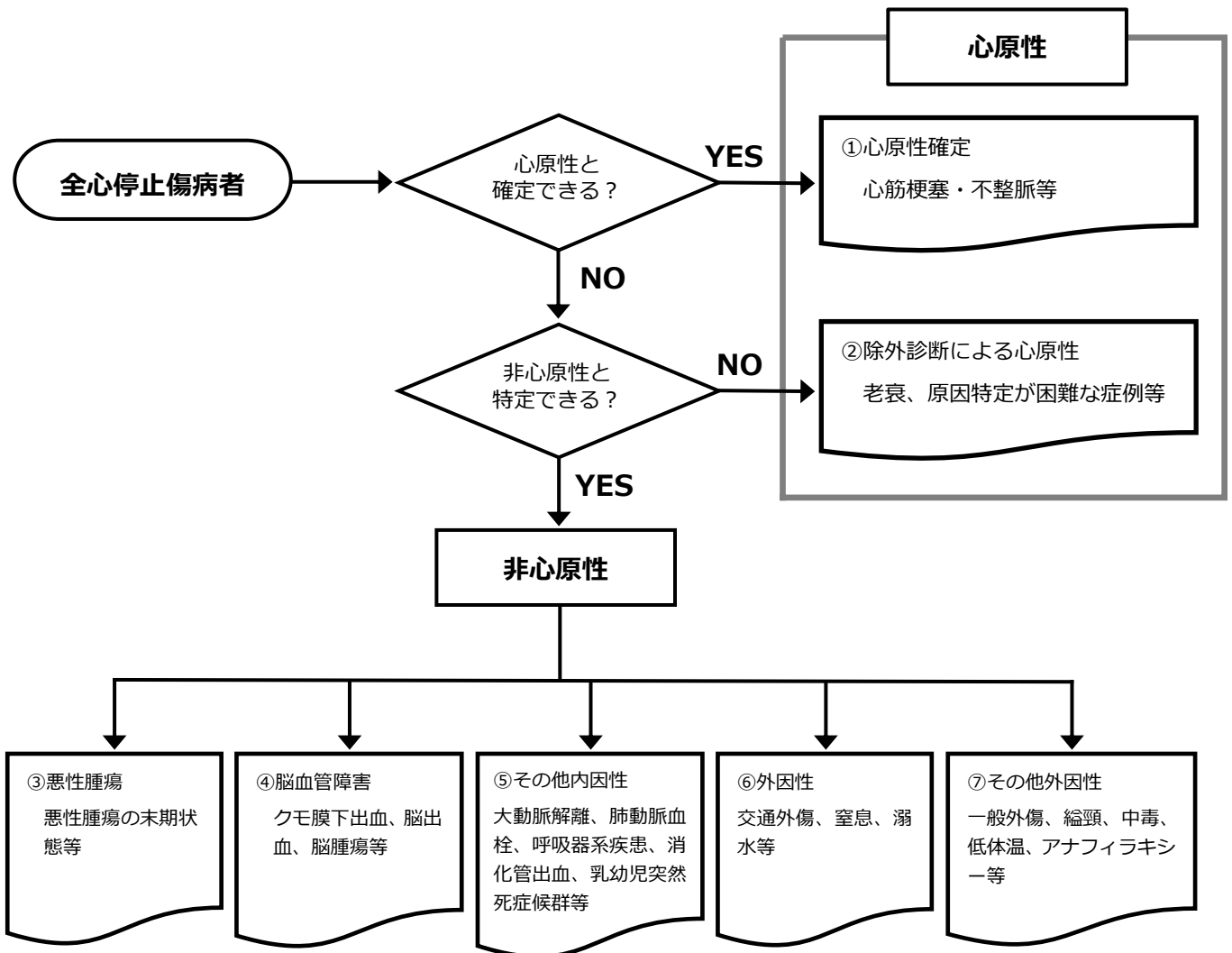
※2 胸骨圧迫・人工呼吸・除細動

※3 バイスタンダーを含む

(10) 心停止の推定原因

ウツタイン様式では、心停止をきたした原因を次に示すフローに基づき分類しています。これは、病態分類として大きく「心原性」と「非心原性」に分類し、それをさらに詳細分類したものです。

図表 2-2-25 ウツタイン様式による心停止の推定原因の分類フロー

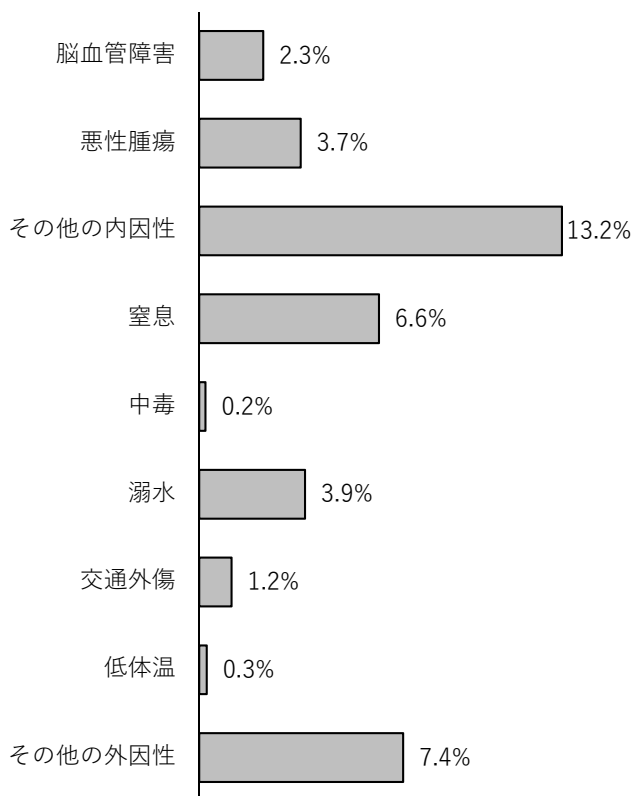
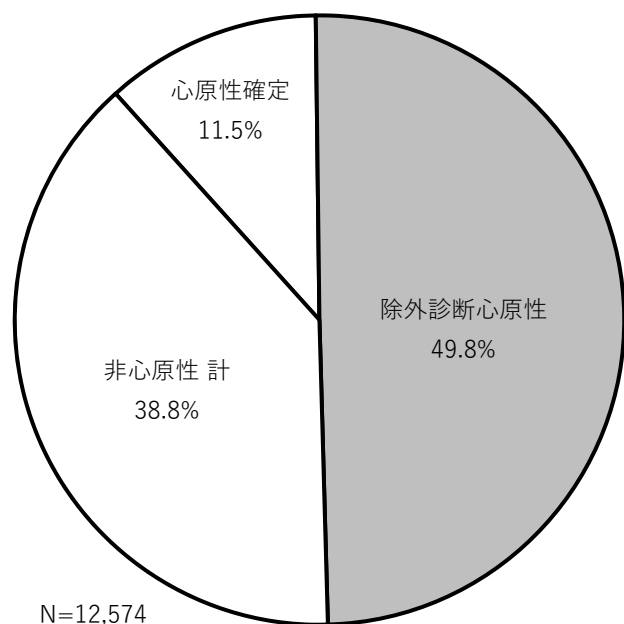


心停止の推定原因別の搬送人員、収容前心拍再開、及び1ヶ月生存等の状況は、次のとおりです。

図表 2-2-26 心停止推定原因別の搬送人員

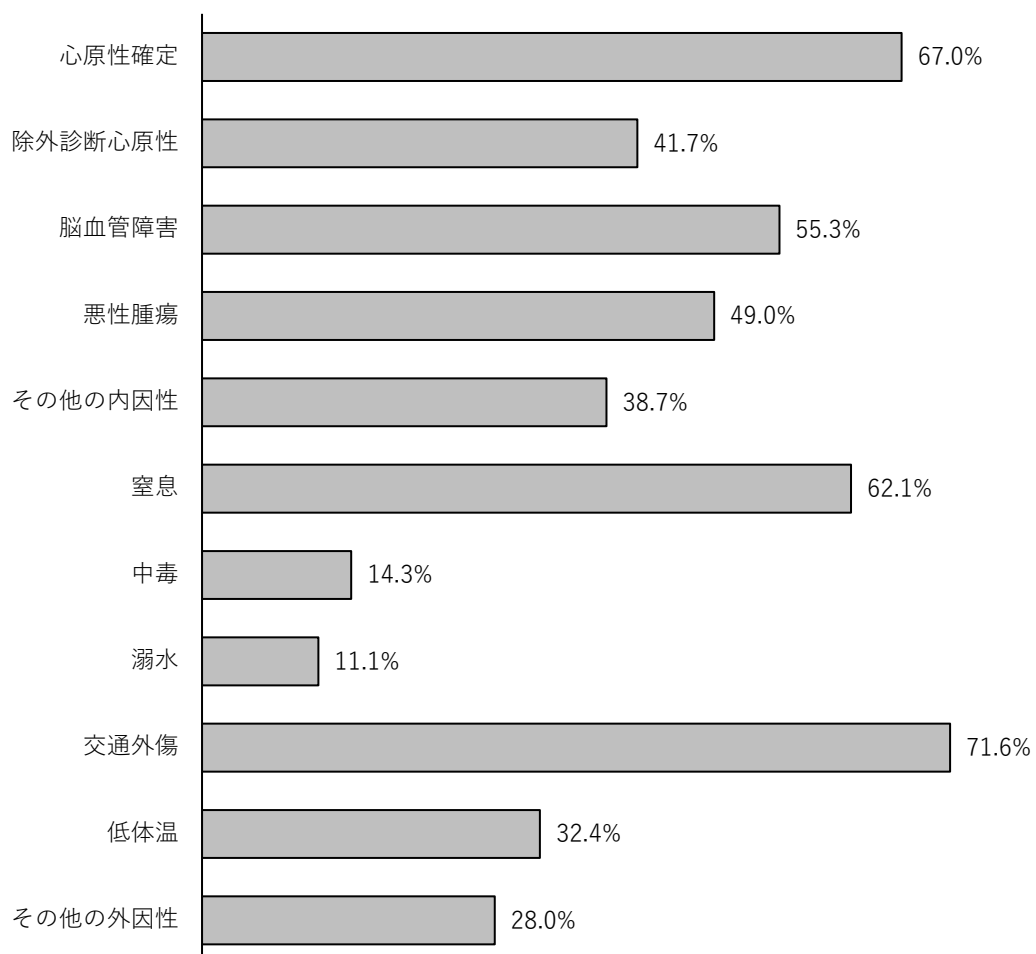
心停止の推定原因		搬送人員	割合
心原性	心原性確定	1,442	11.5%
	除外診断心原性	6,257	49.8%
	(心原性 計)	7,699	61.2%
非心原性	脳血管障害	293	2.3%
	悪性腫瘍	465	3.7%
	その他の内因性	1,663	13.2%
	窒息	824	6.6%
	中毒	28	0.2%
	溺水	485	3.9%
	交通外傷	148	1.2%
	低体温	34	0.3%
	その他の外因性	935	7.4%
(非心原性 計)	4,875	38.8%	
合計		12,574	100.0%

[非心原性の内訳]



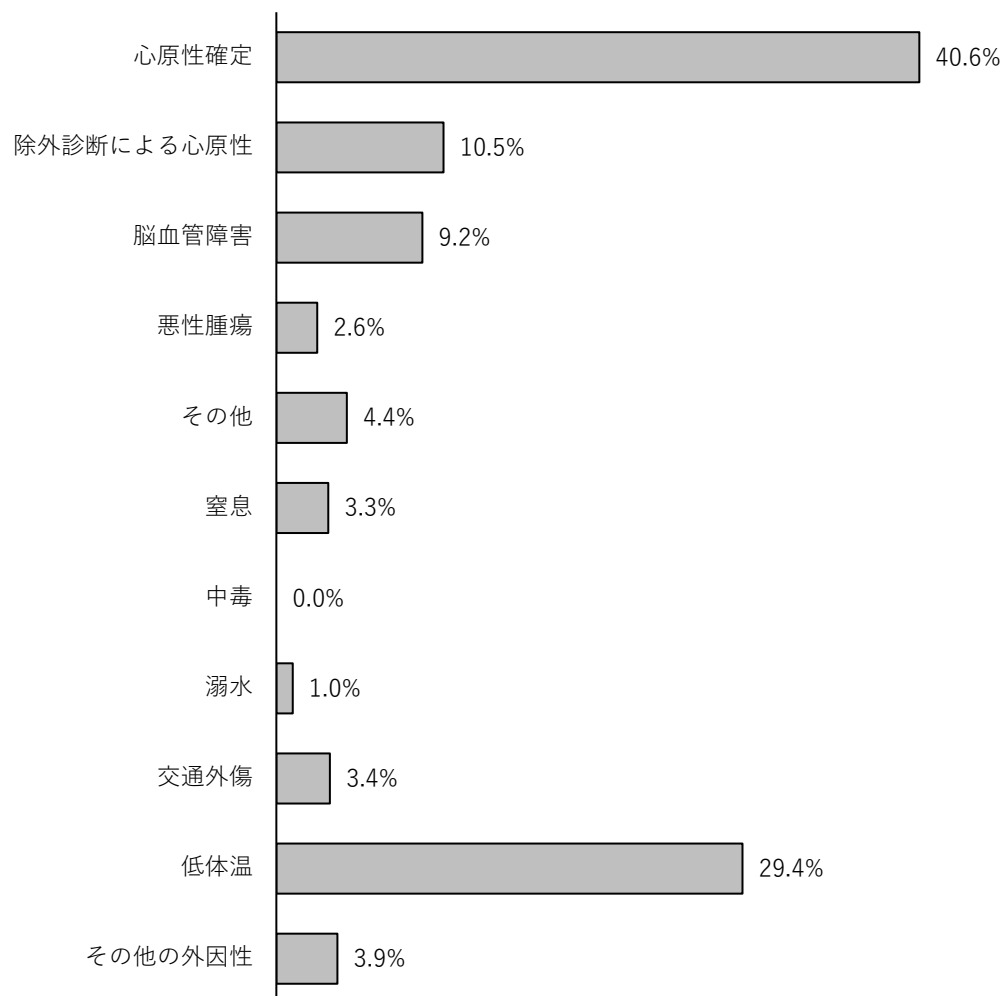
図表 2-2-27 心停止推定原因別の心停止目撃状況、除細動施行状況

心停止の推定原因		搬送人員 (A)	心停止 目撃数 (B)	割合 (B/A)	市民目撃		隊員目撃	
					(C)	割合 (C/A)	(D)	割合 (D/A)
心原性	心原性確定	1,442	966	67.0%	777	53.9%	189	13.1%
	除外診断心原性	6,257	2,608	41.7%	2,214	35.4%	394	6.3%
	(心原性 計)	7,699	3,574	46.4%	2,991	38.8%	583	7.6%
非心原性	脳血管障害	293	162	55.3%	127	43.3%	35	11.9%
	悪性腫瘍	465	228	49.0%	185	39.8%	43	9.2%
	その他の内因性	1663	644	38.7%	527	31.7%	117	7.0%
	窒息	824	512	62.1%	469	56.9%	43	5.2%
	中毒	28	4	14.3%	3	10.7%	1	3.6%
	溺水	485	54	11.1%	51	10.5%	3	0.6%
	交通外傷	148	106	71.6%	91	61.5%	15	10.1%
	低体温	34	11	32.4%	2	5.9%	9	26.5%
	その他の外因性	935	262	28.0%	224	24.0%	38	4.1%
	(非心原性 計)	4,875	1,983	40.7%	1,679	34.4%	304	6.2%
合計		12,574	5,557	44.2%	4,670	37.1%	887	7.1%



図表 2-2-28 心停止推定原因別の除細動施行状況、心停止目撃状況

		搬送人員	除細動 施行者数	除細動 施行率
心原性	心原性確定	1,442	585	40.6%
	除外診断心原性	6,257	660	10.5%
	(心原性 計)	7,699	1,245	16.2%
非心原性	脳血管障害	293	27	9.2%
	悪性腫瘍	465	12	2.6%
	その他の内因性	1663	74	4.4%
	窒息	824	27	3.3%
	中毒	28	0	0.0%
	溺水	485	5	1.0%
	交通外傷	148	5	3.4%
	低体温	34	10	29.4%
	その他の外因性	935	36	3.9%
	(非心原性 計)	4,875	196	4.0%
合計		12,574	1,441	11.5%



図表 2-2-29 心停止推定原因別の心拍再開状況

(1) 心停止推定原因別の心拍再開状況（目撃有無別）

心停止の推定原因		全体			心停止目撃あり（※）			心停止目撃なし		
		搬送人員 (A)	心拍再開数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	心拍再開数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	心拍再開数 (F)	割合 (F/E)
心原性	心原性確定	1,442	403	27.9%	966	349	36.1%	476	54	11.3%
	除外診断心原性	6,257	472	7.5%	2,608	379	14.5%	3,649	93	2.5%
	(心原性計)	7,699	875	11.4%	3,574	728	20.4%	4,125	147	3.6%
非心原性	脳血管障害	293	91	31.1%	162	74	45.7%	131	17	13.0%
	悪性腫瘍	465	28	6.0%	228	23	10.1%	237	5	2.1%
	その他の内因性	1,663	104	6.3%	644	85	13.2%	1,019	19	1.9%
	窒息	824	143	17.4%	512	120	23.4%	312	23	7.4%
	中毒	28	4	14.3%	4	2	50.0%	24	2	8.3%
	溺水	485	9	1.9%	54	6	11.1%	431	3	0.7%
	交通外傷	148	7	4.7%	106	6	5.7%	42	1	2.4%
	低体温	34	8	23.5%	11	6	54.5%	23	2	8.7%
	その他の外因性	935	63	6.7%	262	35	13.4%	673	28	4.2%
(非心原性計)	4,875	457	9.4%	1,983	357	18.0%	2,892	100	3.5%	
合計	12,574	1,332	10.6%	5,557	1,085	19.5%	7,017	247	3.5%	

(※隊員目撃及び市民目撃)

(2) 心停止推定原因別の心拍再開状況（応急手当有無別）

心停止の推定原因		市民目撃 (応急手当あり)			市民目撃 (応急手当なし)			目撃なし (応急手当あり)			目撃なし (応急手当なし)		
		搬送人員 (A)	心拍再開数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	心拍再開数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	心拍再開数 (F)	割合 (F/E)	搬送人員 (G)	心拍再開数 (H)	割合 (H/G)
心原性	心原性確定	467	205	43.9%	310	64	20.6%	197	37	18.8%	279	17	6.1%
	除外診断心原性	985	180	18.3%	1,229	124	10.1%	1,157	42	3.6%	2,492	51	2.0%
	(心原性計)	1,452	385	26.5%	1,539	188	12.2%	1,354	79	5.8%	2,771	68	2.5%
非心原性	脳血管障害	68	33	48.5%	59	29	49.2%	48	6	12.5%	83	11	13.3%
	悪性腫瘍	54	7	13.0%	131	5	3.8%	58	1	1.7%	179	4	2.2%
	その他の内因性	224	43	19.2%	303	31	10.2%	325	7	2.2%	694	12	1.7%
	窒息	274	64	23.4%	195	48	24.6%	118	13	11.0%	194	10	5.2%
	中毒	2	2	100.0%	1	0	0.0%	5	1	20.0%	19	1	5.3%
	溺水	19	4	21.1%	32	2	6.3%	112	2	1.8%	319	1	0.3%
	交通外傷	17	3	17.6%	74	1	1.4%	1	0	0.0%	41	1	2.4%
	低体温	0	0	0.0%	2	1	50.0%	1	0	0.0%	22	2	9.1%
	その他の外因性	64	21	32.8%	160	7	4.4%	107	13	12.1%	566	15	2.7%
(非心原性計)	722	177	24.5%	957	124	13.0%	775	43	5.5%	2,117	57	2.7%	
合計	2,174	562	25.9%	2,496	312	12.5%	2,129	122	5.7%	4,888	125	2.6%	

図表 2-2-30 心停止推定原因別の1ヵ月生存状況

(1) 心停止推定原因別の1ヵ月生存状況（目撃有無別）

心停止の推定原因		全体			心停止目撃あり（※）			心停止目撃なし		
		搬送人員 (A)	1ヵ月生存数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	1ヵ月生存数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	1ヵ月生存数 (F)	割合 (F/E)
心原性	心原性確定	1,442	327	22.7%	966	290	30.0%	476	37	7.8%
	除外診断心原性	6,257	197	3.1%	2,608	165	6.3%	3,649	32	0.9%
	(心原性計)	7,699	524	6.8%	3,574	455	12.7%	4,125	69	1.7%
非心原性	脳血管障害	293	22	7.5%	162	18	11.1%	131	4	3.1%
	悪性腫瘍	465	4	0.9%	228	4	1.8%	237	0	0.0%
	その他の内因性	1,663	42	2.5%	644	35	5.4%	1,019	7	0.7%
	窒息	824	52	6.3%	512	47	9.2%	312	5	1.6%
	中毒	28	4	14.3%	4	2	50.0%	24	2	8.3%
	溺水	485	6	1.2%	54	4	7.4%	431	2	0.5%
	交通外傷	148	4	2.7%	106	3	2.8%	42	1	2.4%
	低体温	34	5	14.7%	11	4	36.4%	23	1	4.3%
	その他の外因性	935	27	2.9%	262	15	5.7%	673	12	1.8%
	(非心原性計)	4,875	166	3.4%	1,983	132	6.7%	2,892	34	1.2%
合計		12,574	690	5.5%	5,557	587	10.6%	7,017	103	1.5%

(※隊員目撃及び市民目撃)

(2) 心停止推定原因別の1ヵ月生存状況（応急手当有無別）

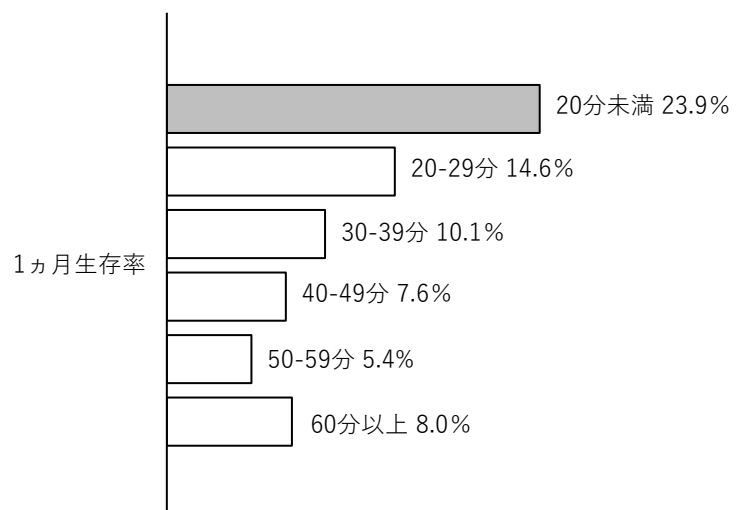
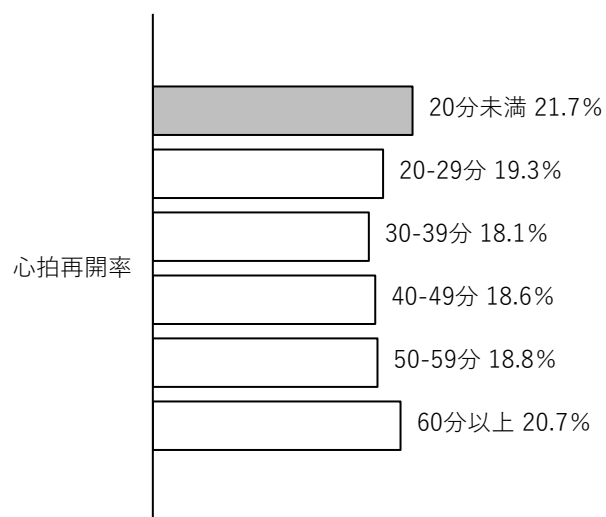
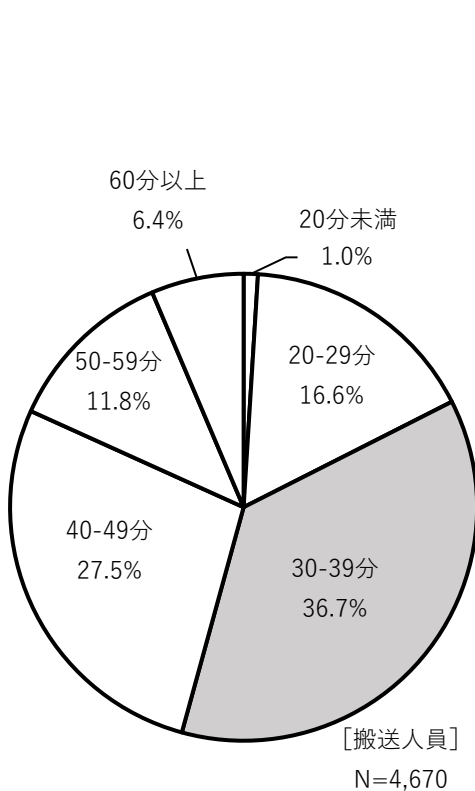
心停止の推定原因		市民目撃 (応急手当あり)			市民目撃 (応急手当なし)			目撃なし (応急手当あり)			目撃なし (応急手当なし)		
		搬送人員 (A)	1ヵ月生存数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	1ヵ月生存数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	1ヵ月生存数 (F)	割合 (F/E)	搬送人員 (G)	1ヵ月生存数 (H)	割合 (H/G)
心原性	心原性確定	467	172	36.8%	310	44	14.2%	197	25	12.7%	279	12	4.3%
	除外診断心原性	985	91	9.2%	1,229	40	3.3%	1,157	20	1.7%	2,492	12	0.5%
	(心原性計)	1,452	263	18.1%	1,539	84	5.5%	1,354	45	3.3%	2,771	24	0.9%
非心原性	脳血管障害	68	11	16.2%	59	4	6.8%	48	2	4.2%	83	2	2.4%
	悪性腫瘍	54	0	0.0%	131	0	0.0%	58	0	0.0%	179	0	0.0%
	その他の内因性	224	18	8.0%	303	9	3.0%	325	3	0.9%	694	4	0.6%
	窒息	274	20	7.3%	195	19	9.7%	118	3	2.5%	194	2	1.0%
	中毒	2	2	100.0%	1	0	0.0%	5	1	20.0%	19	1	5.3%
	溺水	19	4	21.1%	32	0	0.0%	112	1	0.9%	319	1	0.3%
	交通外傷	17	1	5.9%	74	2	2.7%	1	0	0.0%	41	1	2.4%
	低体温	0	0	0.0%	2	0	0.0%	1	1	100.0%	22	0	0.0%
	その他の外因性	64	9	14.1%	160	4	2.5%	107	7	6.5%	566	5	0.9%
	(非心原性計)	722	65	9.0%	957	38	4.0%	775	18	2.3%	2,117	16	0.8%
合計		2,174	328	15.1%	2,496	122	4.9%	2,129	63	3.0%	4,888	40	0.8%

(1) 市民目撃から医療機関収容所要時間区分別心拍再開・1ヶ月生存

市民目撃があった傷病者4,670人のうち、市民目撃から医療機関に収容されるまでの所要時間等の状況は次のとおりです。

図表 2-2-31 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別搬送人員内訳

所要時間	搬送人員		収容前		1ヵ月生存数	
	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1ヵ月生存数	1ヵ月生存率
20分未満	46	1.0%	10	21.7%	11	23.9%
20-29分	773	16.6%	149	19.3%	113	14.6%
30-39分	1,715	36.7%	310	18.1%	174	10.1%
40-49分	1,284	27.5%	239	18.6%	98	7.6%
50-59分	553	11.8%	104	18.8%	30	5.4%
60分以上	299	6.4%	62	20.7%	24	8.0%
合計	4,670	100.0%	874	18.7%	450	9.6%



(12) 収容前心拍再開有無別1ヶ月生存

市民目撃があった傷病者4,670人のうち、収容前心拍再開があった群の874人及び収容前心拍再開がなかった群の3,796人の1ヶ月生存状況等は、次のとおりです。

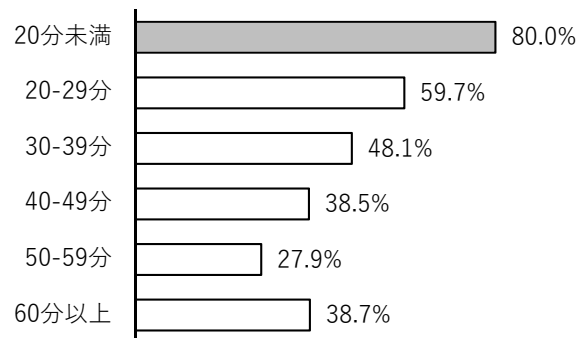
収容前に心拍再開があった群は、収容前に心拍再開がなかった群と比較して、1ヶ月生存率に顕著な差が見られます。

図表 2-2-32 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別1ヶ月生存状況（収容前心拍再開あり群）

所要時間	搬送人員	割合	1ヶ月生存数	1ヶ月生存率
20分未満	10	1.1%	8	80.0%
20-29分	149	17.0%	89	59.7%
30-39分	310	35.5%	149	48.1%
40-49分	239	27.3%	92	38.5%
50-59分	104	11.9%	29	27.9%
60分以上	62	7.1%	24	38.7%
合計	874	100.0%	391	44.7%

平均41分48秒

[1ヶ月生存率]

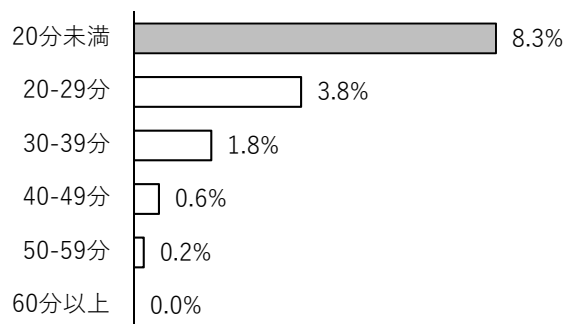


図表 2-2-33 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別1ヶ月生存状況（収容前心拍再開なし群）

所要時間	搬送人員	割合	1ヶ月生存数	1ヶ月生存率
20分未満	36	0.9%	3	8.3%
20-29分	624	16.4%	24	3.8%
30-39分	1,405	37.0%	25	1.8%
40-49分	1,045	27.5%	6	0.6%
50-59分	449	11.8%	1	0.2%
60分以上	237	6.2%	0	0.0%
合計	3,796	100.0%	59	1.6%

平均40分15秒

[1ヶ月生存率]



(13) 市民目撃から心拍再開所要時間別1ヶ月生存

市民目撃があり、収容前に心拍再開があった傷病者 874 人のうち、市民目撃から心拍再開までの所要時間と心拍再開時期別の1ヶ月生存状況は、次のとおりです。

市民目撃から心拍再開所要時間の平均は 18 分 43 秒で、20 分未満に心拍再開した傷病者群の1ヶ月生存率は 64.8%と、20 分以降に心拍再開した傷病者群の 19.9%より、44.9 ポイント高くなっています。

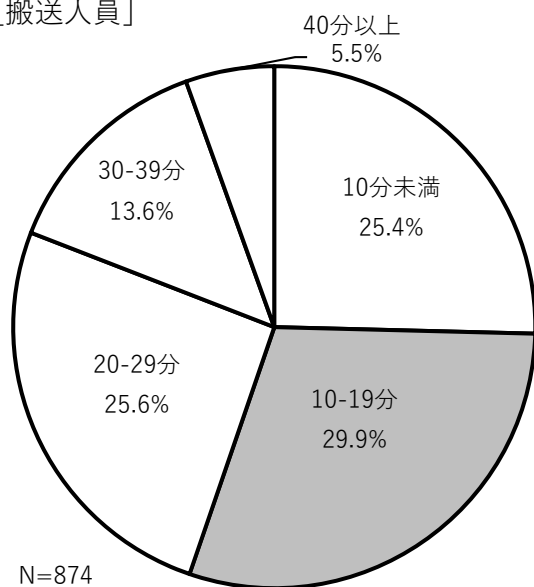
また、隊員等が到着する前にバイスタンダー等の応急手当により心拍再開した群は、全体の 24.3%ですが、1ヶ月生存率 77.8%と、隊員等が到着後に心拍再開した群の 34.1%と比較して、43.7 ポイント高くなっています。

図表 2-2-34 1ヶ月生存者の市民目撃から初回心拍再開までの所要時間別搬送人員内訳

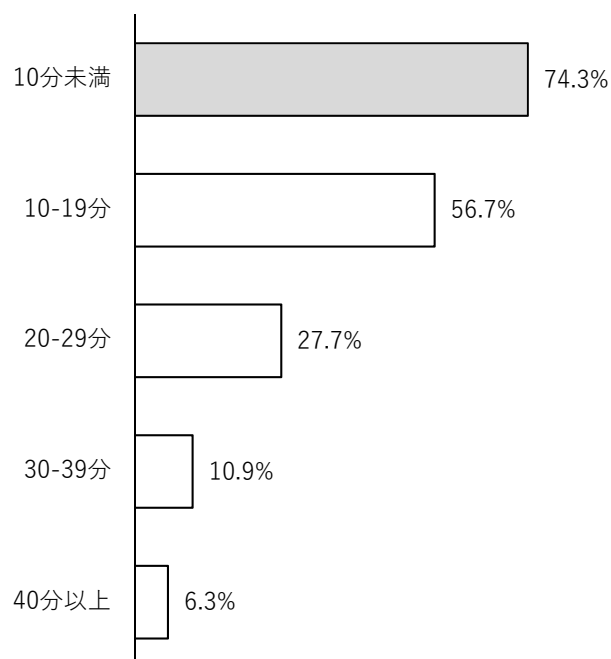
所要時間	搬送人員	割合	1ヶ月生存数	1ヶ月生存率
10分未満	222	25.4%	165	74.3%
10-19分	261	29.9%	148	56.7%
20分未満計	483	55.3%	313	64.8%
20-29分	224	25.6%	62	27.7%
30-39分	119	13.6%	13	10.9%
40分以上	48	5.5%	3	6.3%
20分以上計	391	44.7%	78	19.9%
合計	874	100.0%	391	44.7%

平均 18 分 43 秒

[搬送人員]



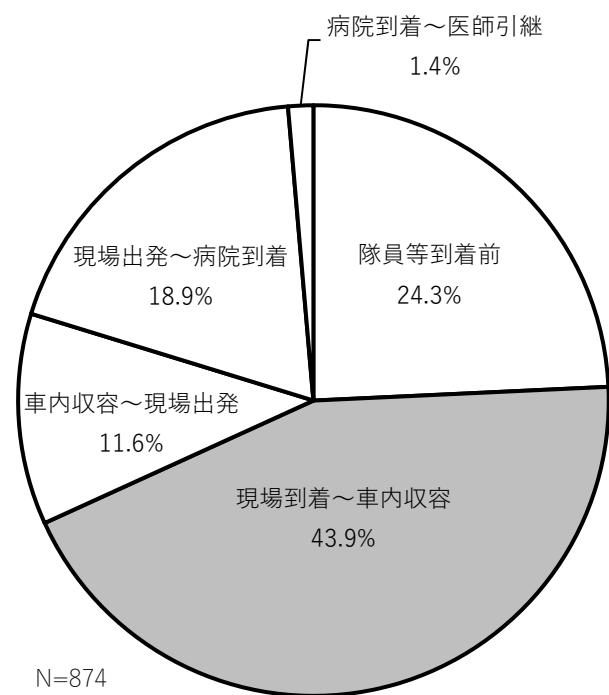
[1ヶ月生存率]



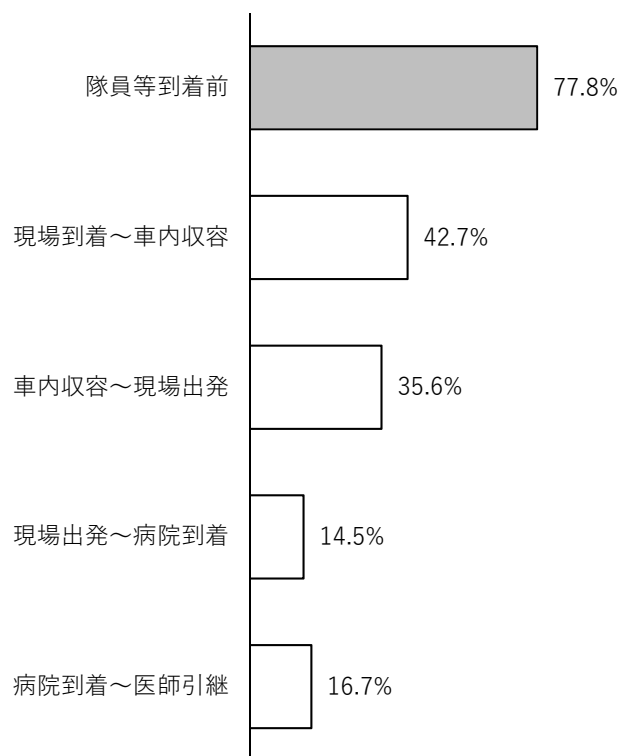
図表 2-2-35 初回心拍再開時期内訳

再開時期	搬送人員	割合	1ヵ月生存数	1ヵ月生存率
隊員等到着前	212	24.3%	165	77.8%
現着～車内収容	384	43.9%	164	42.7%
車内収容～現場出発	101	11.6%	36	35.6%
現場出発～病院到着	165	18.9%	24	14.5%
病院到着～医師引継	12	1.4%	2	16.7%
隊員等到着後計	662	75.7%	226	34.1%
合計	874	100.0%	391	44.7%

[搬送人員]



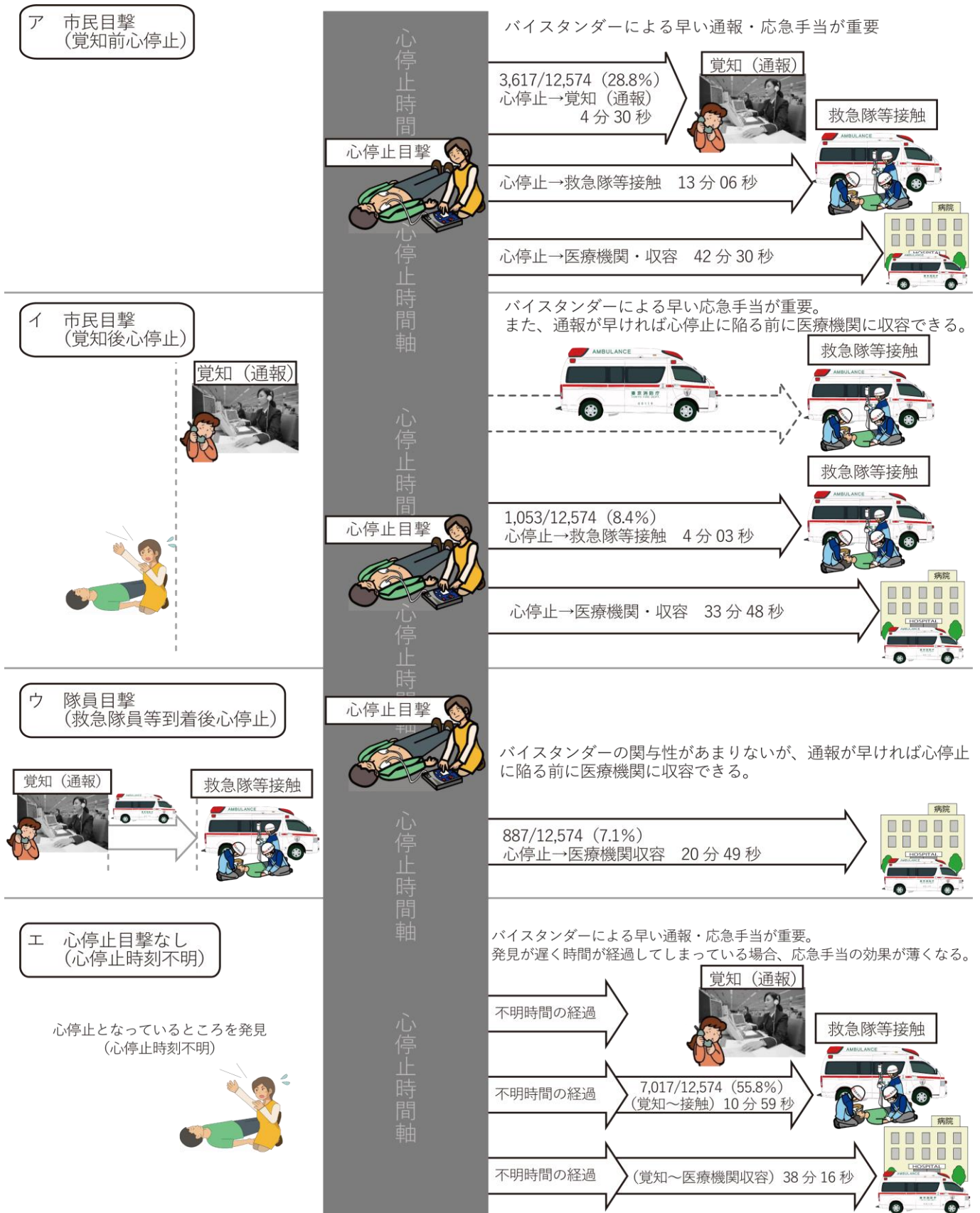
[1ヵ月生存率]



(14) 心停止目撃から医療機関収容までの所要時間

心停止傷病者が心停止となってから医療機関に収容されるまでの平均所要時間を、心停止目撃の時期別に区分して集計した結果は、次のとおりです。

図表 2-2-36 心停止目撃から医療機関収容までの所要時間



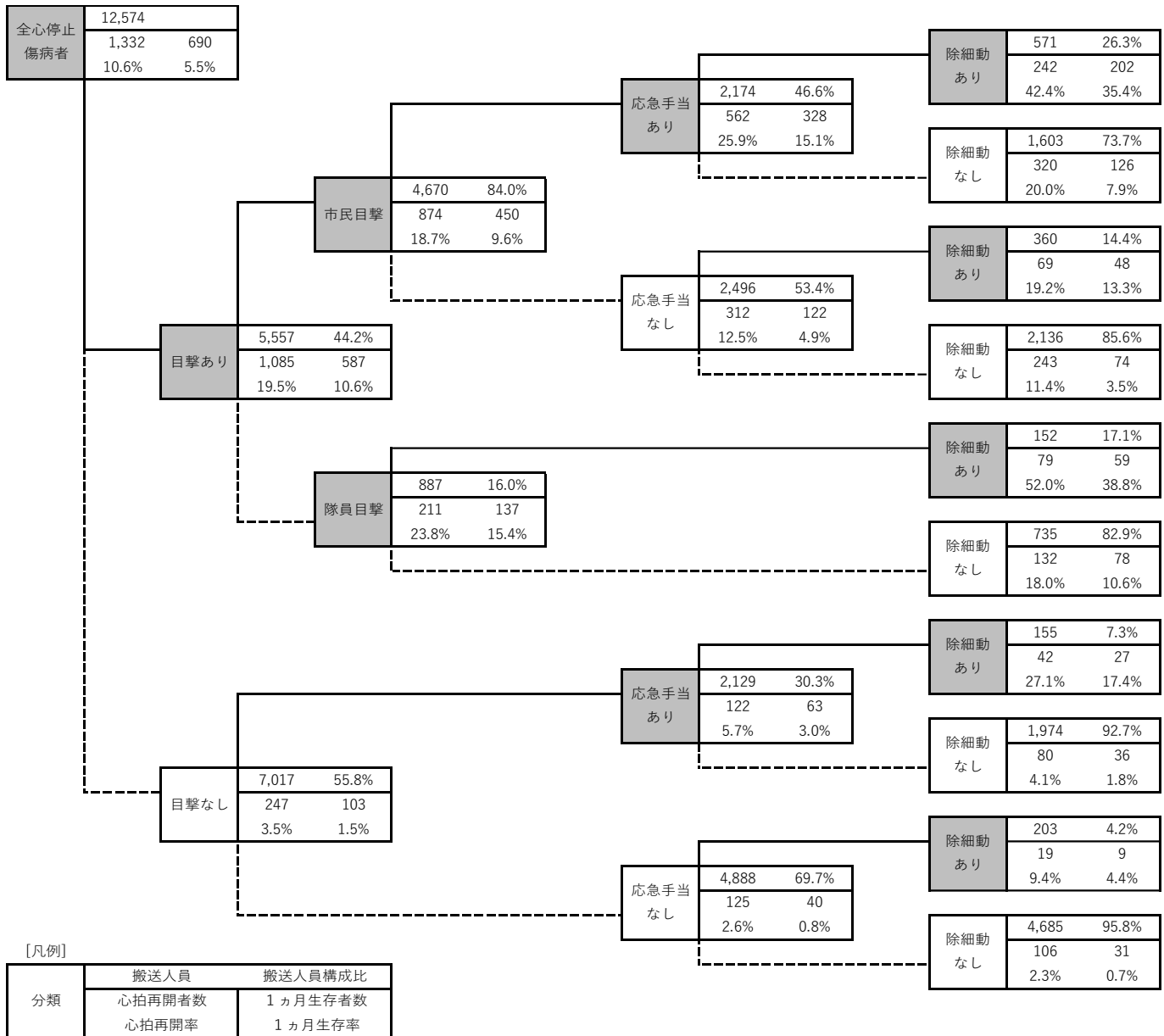
(15) 救命効果のテンプレート

前(3)から(14)の分析結果の概略を表したテンプレート（統計系統図）は次のとおりです。

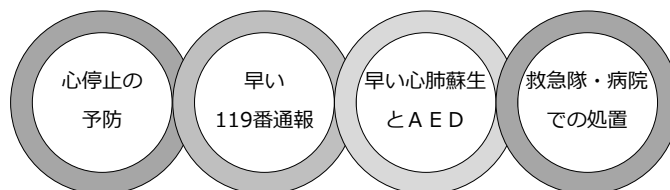
テンプレートを部分的に見みると、心停止目撃、応急手当、除細動があった群の方がなかった群より心拍再開、1ヶ月生存状況が良い結果となっていますが、なかった群の方があった群より搬送人員の実数が大幅に多いため、全体の心拍再開、1ヶ月生存状況は良い結果とはなっていません。

あった群の搬送人員がなかった群の搬送人員を上回り、かつ「救命の連鎖」が途切れることなく行われ、救命効果が向上されることが今後望まれます。

図表 2-2-37 救命効果のテンプレート



図表 2-2-38 救命の連鎖 (Chain of Survival)



大切な命を救うために必要な行動を、迅速に途切れることなく行う重要性を表すもの。

第3節 救急処置

1 救急隊員による救急処置

全搬送人員 726,428 人で処置内容及び処置実施人数は以下のとおりです。

図表 2-3-1 救急処置内容

処置内容	処置実施人数	搬送人員に対する割合
心肺蘇生	11,848	1.6%
人工呼吸	13,433	1.8%
気道確保	29,218	4.0%
ラリングアルマスク※	42	0.0%
食道閉鎖式エアウェイ※	2,422	0.3%
気管内チューブ※	165	0.0%
静脈路確保（心肺機能停止前）※	867	0.1%
静脈路確保（心肺機能停止後）※	1,537	0.2%
薬剤投与（アドレナリン）※	1,210	0.2%
薬剤投与（ブドウ糖）※	531	0.1%
除細動	1,242	0.2%
血糖測定	1738	0.2%
保温処置	414,475	57.1%
心電図測定	254,809	35.1%
酸素吸入	101,438	14.0%
固定（部分・全身）	59,832	8.2%
被覆・創傷処置	39,210	5.4%
止血処置	20,483	2.8%
医療処置継続	1,190	0.2%
冷却	4,901	0.7%

※は特定行為を示します。

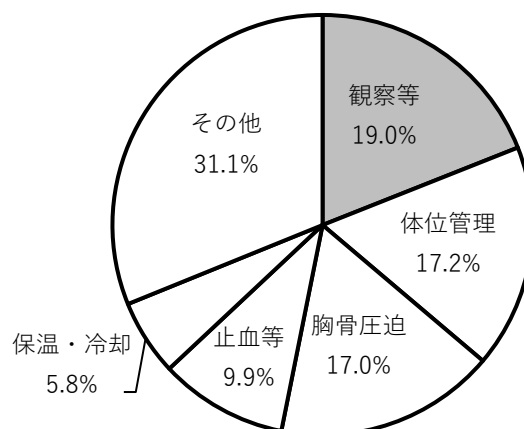
2 都民等による応急手当

(1) 応急手当の状況

傷病者に対して、家族、友人、近隣者などにより、救急隊が到着するまでの間に、24,252件の応急手当が実施されています。

図表 2-3-2 応急手当内容

応急手当内容	実施件数	割合
観察・バイタルサイン測定等	4,606	19.0%
体位管理	4,169	17.2%
胸骨圧迫（心マッサージ）	4,114	17.0%
止血・創傷処置	2,394	9.9%
保温・冷却	1,418	5.8%
病院医・往診医その他医療処置	1,318	5.4%
A E D装着、心電図測定	1,243	5.1%
移動（危険回避）	949	3.9%
人工呼吸	589	2.4%
在宅療法・既往における処置対応	567	2.3%
異物除去	356	1.5%
除細動	295	1.2%
固定処置	236	1.0%
気道確保	199	0.8%
その他	1,799	7.4%
合計	24,252	100.0%

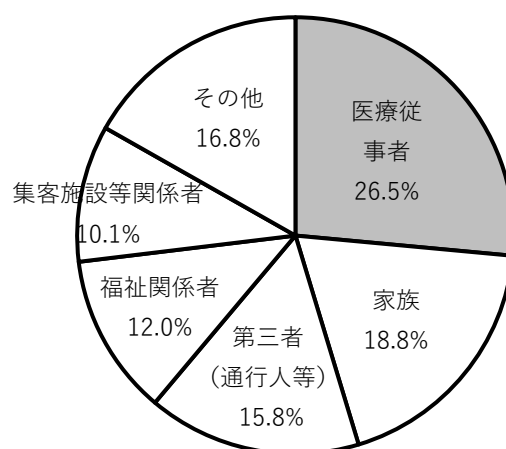


(2) 応急手当実施者

都民等による応急手当を実施者別にみると、家族が最も多くなっています。

図表 2-3-3 応急手当実施者

処置実施者	実施件数	割合
医療従事者	5,315	26.5%
家族	3,784	18.8%
第三者（通行人等）	3,172	15.8%
福祉関係者	2,400	12.0%
集客施設等関係者	2,032	10.1%
職場・学校関係者	1,426	7.1%
友人・近隣者	816	4.1%
消防職員・消防団員	227	1.1%
警察官	423	2.1%
その他公的機関	74	0.4%
その他	406	2.0%
合計	20,075	100.0%



(3) 事故種別ごとの応急手当内容・実施者

都民等による応急手当の内容と実施者を事故種別ごとにみると、次のとおりとなっています。

図表 2-3-4 事故種別ごとの応急手当内容、応急手当実施者

処置実施者	合計	交通事故	火災事故	運動競技	自然災害	水難事故	労働災害	一般負傷	自損行為	加害	急病
観察・バイタル測定等	4,606	118	3	56	0	2	25	566	11	2	3,823
体位管理	4,169	251	0	72	0	2	26	1,196	12	10	2,600
胸骨圧迫	4,114	33	0	24	0	80	5	331	111	0	3,530
止血・創傷処置	2,394	304	0	34	1	2	79	1,803	20	19	132
保温・冷却	1,418	48	1	163	0	0	49	555	4	1	597
病院医・往診医処置	1,318	14	2	15	0	1	4	90	4	1	1,187
AED装着、心電図測定	1,243	13	0	9	0	7	2	96	13	1	1,102
移動（危険回避）	949	112	0	11	0	51	15	306	45	4	405
人工呼吸	589	9	0	3	0	18	0	52	13	0	494
在宅療法対応	567	1	0	0	0	0	0	42	0	0	524
異物除去	356	0	0	0	0	0	0	270	0	0	86
除細動	295	2	0	6	0	1	1	0	1	0	284
固定処置	236	32	0	103	0	0	14	81	1	0	5
気道確保	199	8	0	1	0	1	0	20	2	0	167
その他	1,799	145	2	16	0	7	17	490	14	6	1,102
合計	24,252	1,090	8	513	1	172	237	5,898	251	44	16,038

処置実施者	合計	交通事故	火災事故	運動競技	自然災害	水難事故	労働災害	一般負傷	自損行為	加害	急病
医療従事者	5,315	140	4	69	0	4	20	747	14	5	4,312
家族	3,784	34	1	29	0	64	9	1,039	110	3	2,495
第三者	3,172	520	0	7	0	18	6	1,434	22	10	1,155
福祉関係者	2,400	5	0	0	0	10	3	420	4	1	1,957
集客施設等関係者	2,032	38	1	54	0	19	9	609	8	6	1,288
職場・学校関係者	1,426	13	1	136	0	1	134	317	7	4	813
友人・近隣者	816	19	0	50	0	4	2	259	15	1	466
消防職員・消防団員	227	26	0	4	0	0	11	66	3	0	117
警察官	423	89	0	3	1	5	4	107	15	10	189
その他公的機関	74	4	0	3	0	0	2	19	1	0	45
その他	406	69	1	38	0	4	3	98	6	0	187
合計	20,075	957	8	393	1	129	203	5,115	205	40	13,024

応急手当実施件数は転院搬送に係るものを除きます。

1人の傷病者に対して複数の処置が実施された場合は、処置者1名につき3つの処置まで計上しています。

1人の傷病者に対して複数名が処置を実施した場合は、4名まで処置実施者として計上しています。

第4節 事故種別ごとの活動統計

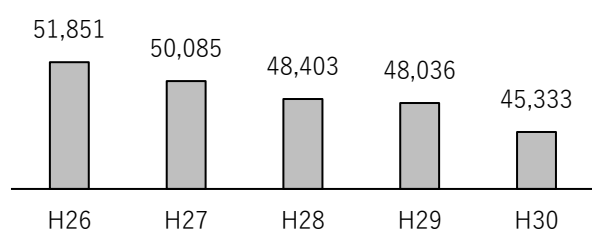
1 事故種別ごとの搬送人員推移

運動競技事故、一般負傷、急病、転院搬送は増加傾向にあり、交通事故、自損行為は減少傾向にあります。

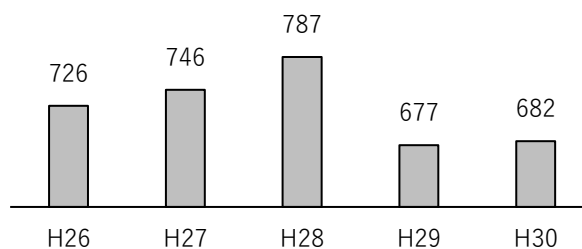
図表 2-4-1 事故種別ごとの搬送人員推移

事故種別	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
交通事故	51,851	50,085	48,403	48,036	45,333
火災事故	726	746	787	677	682
運動競技事故	5,177	5,339	5,390	5,317	5,409
自然災害事故	26	11	10	12	20
水難事故	629	517	523	490	487
労働災害事故	4,773	4,727	4,692	4,874	5,222
一般負傷	16,498	118,021	121,305	125,520	133,410
自損行為	4,055	3,752	3,710	3,621	3,608
加害	6,244	5,749	5,694	5,473	5,272
急病	432,859	441,043	457,692	460,710	484,162
転院搬送	41,791	43,155	43,217	44,198	42,823

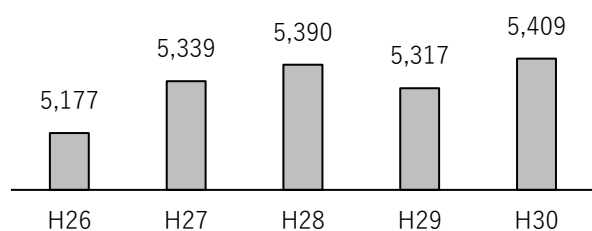
交通事故



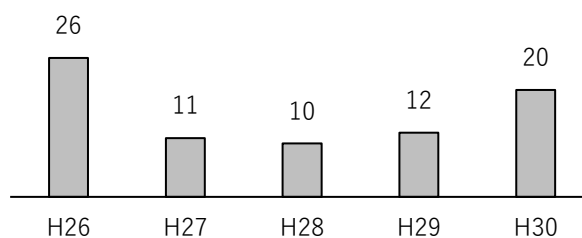
火災事故



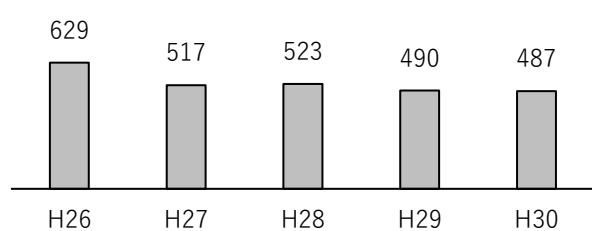
運動競技事故



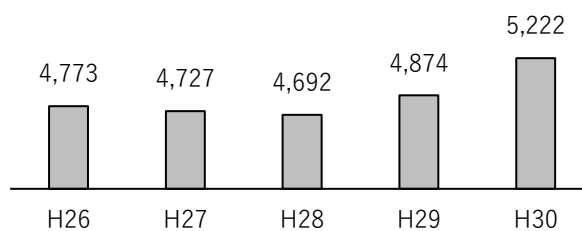
自然災害事故



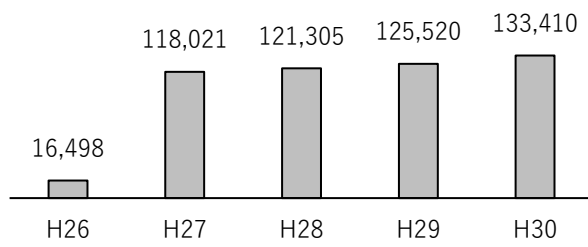
水難事故



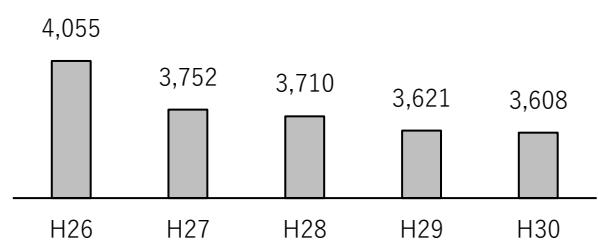
労働災害事故



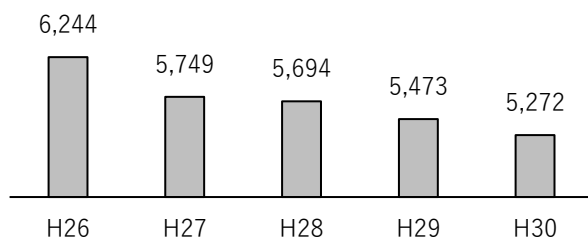
一般負傷



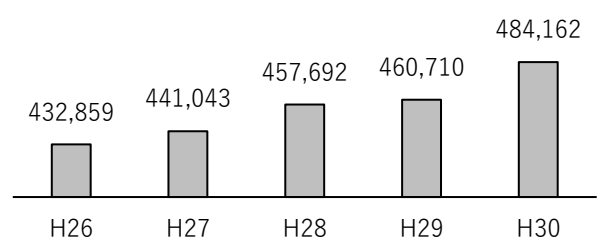
自損行為



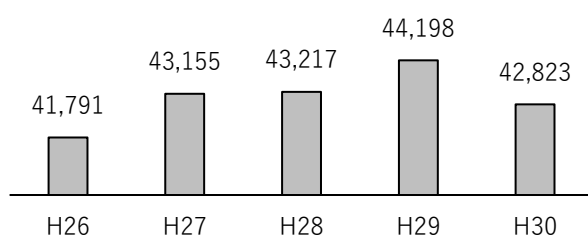
加害



急病



転院搬送

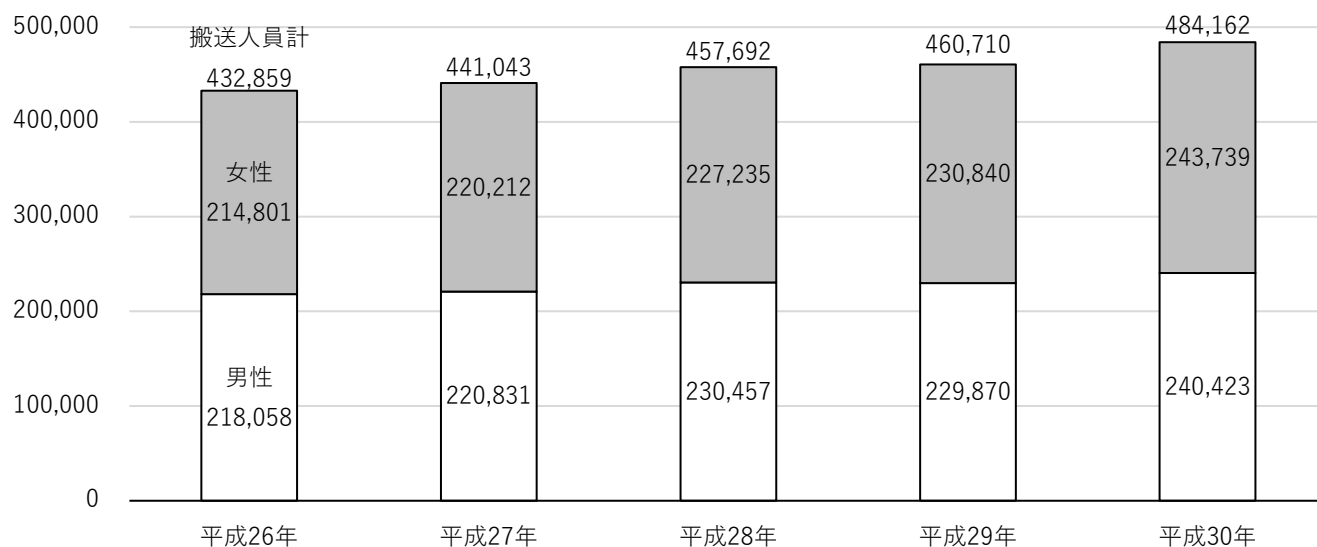


2 急病

(1) 搬送人員推移

急病の搬送人員は484,162人で、前年に比べ23,452人(5.1%)増加しています。

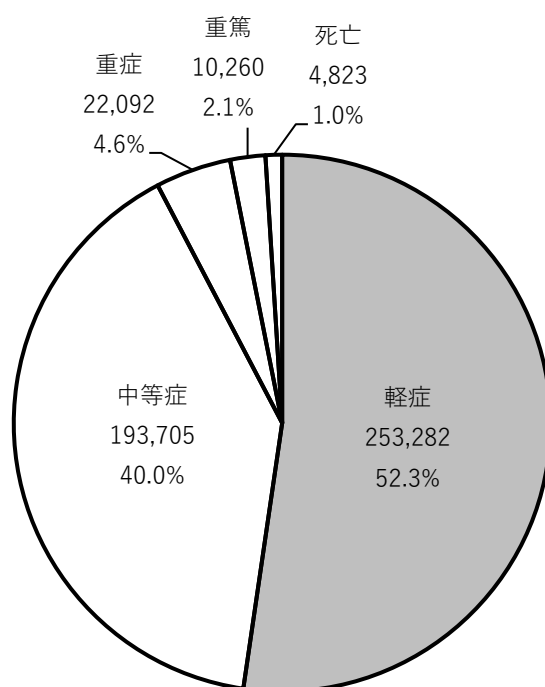
図表 2-4-2 急病の搬送人員推移



(2) 初診時程度

急病を初診時程度別で見ると、軽症が半数以上を占めています。

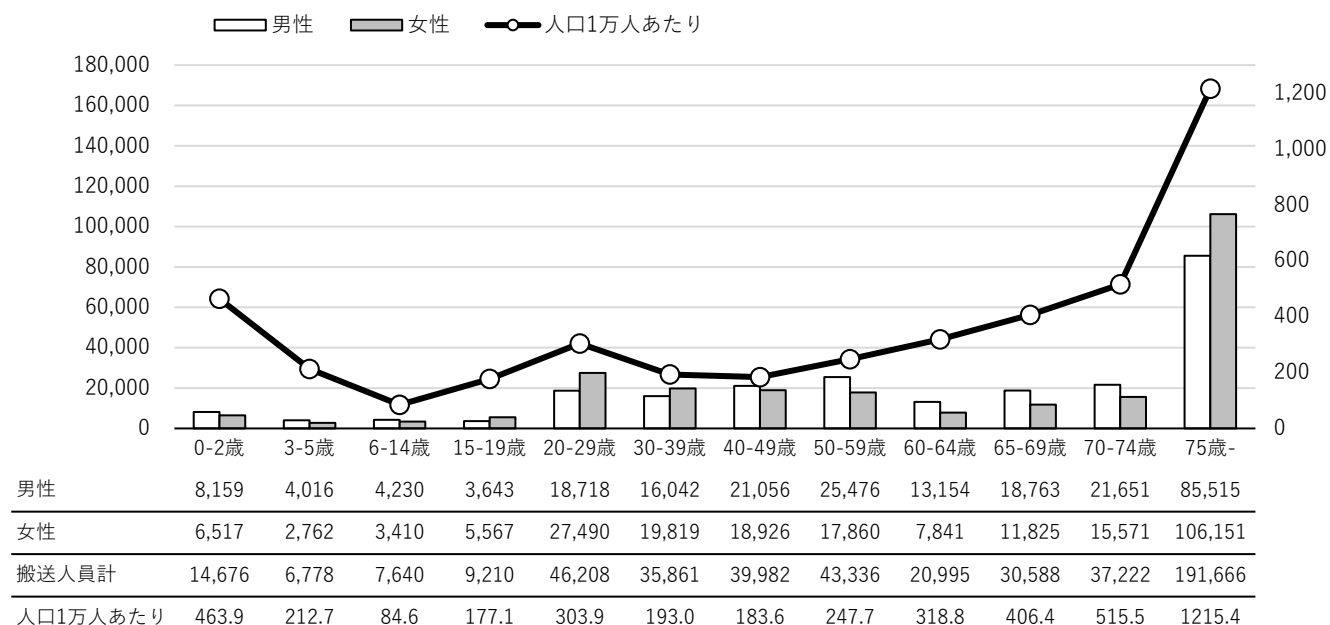
図表 2-4-3 急病の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

急病の搬送人員（人）を年齢層別でみると、高齢者層（65歳以上）が半数以上となっており、特に75歳以上が全体の4割弱を占めています。

図表 2-4-4 急病の年齢層別搬送人員



(4) 病態別搬送人員

急病を病態別でみると、「痛み」が最も多くなっています。

図表 2-4-5 急病の病態別搬送人員

病態	年齢層（歳）												合計	
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-		
痛み	頭痛・頭重感	15	91	450	571	2,280	2,085	2,015	2,012	607	787	796	3,246	14,955
	胸痛	3	32	142	215	841	1,013	1,687	2,293	968	1,277	1,363	5,875	15,709
	腹痛	156	572	1,410	2,083	11,221	8,555	7,836	6,359	2,424	2,981	2,931	11,559	58,087
	腰背部痛		7	21	94	1,116	1,809	2,623	2,426	985	1,161	1,238	6,883	18,363
	筋骨格系の痛み	15	53	74	62	505	757	1,068	1,351	766	952	1,171	6,044	12,818
	感覚器系の痛み	27	67	41	41	135	123	114	129	48	66	82	295	1,168
	その他痛み	25	68	83	91	370	322	413	411	206	315	346	1,485	4,135
意識障害	意識消失・失神（一過性）	179	115	405	694	1,950	1,426	1,786	2,258	1,184	1,780	2,257	11,079	25,113
	意識障害・混濁（遷延性）	126	132	190	365	1,940	981	1,269	1,690	930	1,289	1,812	11,549	22,273
	異常行動・言動・興奮	22	16	53	17	66	59	117	136	71	109	110	574	1,350
	無算動・昏迷・自発性欠如	10	3	18	23	95	63	79	82	37	47	56	396	909
発熱	3,387	3,394	1,490	1,055	646	3,116	1,755	1,335	1,308	804	1,578	2,367	22,481	
痙攣・麻痺・感覚異常	痙攣	7,373	2,667	1,534	825	1,600	1,111	1,128	960	405	421	432	1,448	19,904
	不随意運動・振戦・ふるえ	88	41	66	64	194	215	225	278	141	198	235	1,107	2,852

第2章 救急活動統計

	運動麻痺	2	1	3	17	57	131	470	991	610	849	1,089	4,533	8,753
	知覚麻痺			1	18	89	143	229	307	116	160	166	465	1,694
	言語・構語障害		1	7	2	21	53	197	418	266	459	549	2,450	4,423
	視野障害（視野狭窄等）	1	1	4	4	30	36	60	87	40	58	65	157	543
	聴覚障害（耳閉、耳鳴、難聴）			3	1	12	10	19	14	8	12	23	59	161
	その他麻痺等			3	14	111	164	236	220	82	121	122	489	1,562
めまい	dizziness（一般的めまい）		1	32	151	897	983	1,368	1,686	952	1,375	1,808	5,799	15,052
	vertigo（回転するめまい）		7	20	105	851	1,192	1,911	2,219	1,076	1,585	1,704	4,675	15,345
動悸等	動悸・不整脈感	1	3	39	69	589	851	1,225	1,305	604	840	949	3,466	9,941
	胸部違和感・胸内苦悶		1	16	27	165	243	487	680	350	485	613	3,418	6,485
呼吸器症状	鼻出血	37	60	95	31	79	109	234	372	212	316	415	1,210	3,170
	呼吸困難	171	122	124	57	255	314	505	835	519	1,013	1,355	8,255	13,525
	呼吸困難（過換気）	1	2	220	672	2,622	1,470	1,039	578	101	97	66	205	7,073
	息切れ、息苦しさ	183	139	186	184	738	748	1,164	1,462	827	1,381	1,754	12,018	20,784
	喀血・血痰	2	10	3	5	28	16	40	67	42	56	83	281	633
	咳・嘔声・喀痰異常	404	252	92	34	132	155	137	134	76	118	149	1,411	3,094
	その他呼吸器症状	81	25	35	15	53	34	51	52	29	38	62	1,042	1,517
	陣痛						1							1
消化器症状	嘔吐・嘔気	1,153	477	625	791	5,870	3,135	2,443	2,034	955	1,382	1,621	7,908	28,394
	下痢	76	14	26	39	286	258	224	222	112	148	221	884	2,510
	吐血	16	11	14	12	77	138	298	406	185	265	325	1,705	3,452
	下血・血便	57	13	4	6	103	154	268	444	262	407	484	2,734	4,936
	腹部膨満感・違和感	8	1	4	5	33	34	92	147	94	125	130	611	1,284
	便秘・排便困難	27	5	4	3	18	48	73	122	95	177	258	1,280	2,110
	その他消化器症状	25	6	2	2	26	38	41	64	30	64	59	415	772
泌尿器・生殖器症状	血尿		1	7	3	44	53	53	65	32	63	106	684	1,111
	乏尿・尿閉		1	1	3	9	29	73	182	135	240	330	1,281	2,284
	性器出血			2	12	154	268	152	67	6	11	21	97	790
	月経異常・月経困難			1	4	26	12	19	8					70
	その他泌尿器・生殖器症状	9	3	7	14	33	32	48	35	23	29	33	212	478
産科症状・新生児	92	0	1	22	205	344	60	1	0	0	0	2	727	
皮膚症状	黄疸	2				1	2	4	6	2	7	7	49	80
	発疹・湿疹	267	93	95	84	255	183	154	110	41	62	60	244	1,648
	皮下出血（紫斑等）		1			2	2	5	5	4	8	8	35	70
	壊疽・壊死					1	1	6	16	9	20	11	36	100
	搔痒感	14	25	27	14	57	64	51	70	17	26	43	76	484

	その他皮膚症状	29	8	9	7	28	27	46	60	27	32	31	208	512
全身症状	虚脱・脱力感・歩行困難	97	30	167	510	3,285	1,919	2,247	3,160	1,881	3,185	4,193	21,311	41,985
	脱水・栄養失調・全身衰弱	10	4	11	27	98	111	175	287	182	303	402	3,121	4,731
	不安感・孤独感	2		2	15	109	162	195	155	54	59	55	200	1,008
	悪心・悪寒	12	8	45	77	474	318	308	319	162	253	294	1,495	3,765
	不定愁訴	17		2	9	49	64	101	116	49	65	56	281	809
	その他全身症状	151	23	57	65	379	341	408	448	227	363	449	2,416	5,327
その他	231	68	89	276	2,390	1,088	1,004	1,034	492	730	878	4,344	12,624	

(5) 疾患別搬送人員

急病を初診時傷病名別でみると、半数以上が症状・徴候・診断名不明確となっており、次いで消化器系疾患が多くなっています。

図表 2-4-6 急病の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
症状・徴候・診断名不明確	273,997	56.6%
消化器系疾患	41,328	8.5%
呼吸器系疾患	35,253	7.3%
心・循環器疾患	26,622	5.5%
脳血管障害	22,480	4.6%
精神系疾患	18,060	3.7%
感覚器・神経系疾患	13,279	2.7%
筋・骨格系疾患	12,938	2.7%
腎泌尿器・生殖器疾患	11,296	2.3%
その他の疾患系	10,862	2.2%
新生物	5,001	1.0%
内分泌・代謝系疾患	4,166	0.9%
婦人科疾患	2,323	0.5%
産科（妊娠・分娩）	1,372	0.3%
血液・免疫系疾患	1,281	0.3%
その他	3,904	0.8%
合計	484,162	100.0%

(6) 発生場所

急病を発生場所でみると、住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）が7割を占めています。

図表 2-4-7 急病の発生場所別搬送人員

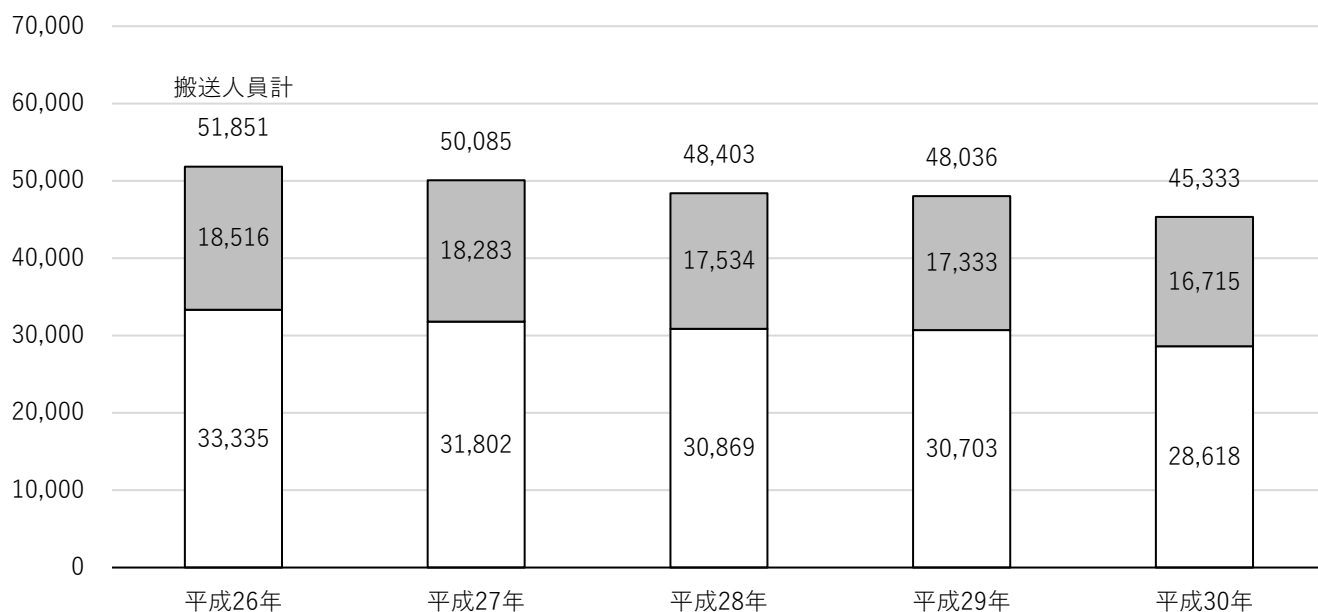
発生場所	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	338,791	70.0%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	32,282	6.7%
駅	18,492	3.8%
老人施設（特養以外）	15,286	3.2%
一般飲食店	13,814	2.9%
会社・オフィス	10,390	2.1%
特別養護老人ホーム	7,864	1.6%
自助施設・グループホーム等	5,342	1.1%
デパート・スーパー・量販店	4,407	0.9%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	4,209	0.9%
その他	33,285	6.9%
合計	484,162	100.0%

3 交通事故

(1) 搬送人員推移

交通事故（交通機関相互の衝突、接触又は単一事故、歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故）の搬送人員は45,333人で、前年に比べ2,703人（5.6%）減少しています。

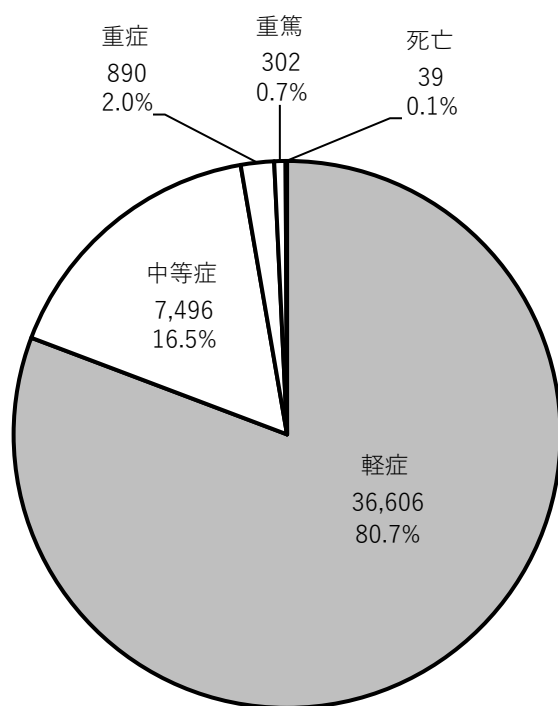
図表 2-4-8 交通事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

交通事故を初診時程度別で見ると、軽症が8割以上を占めています。

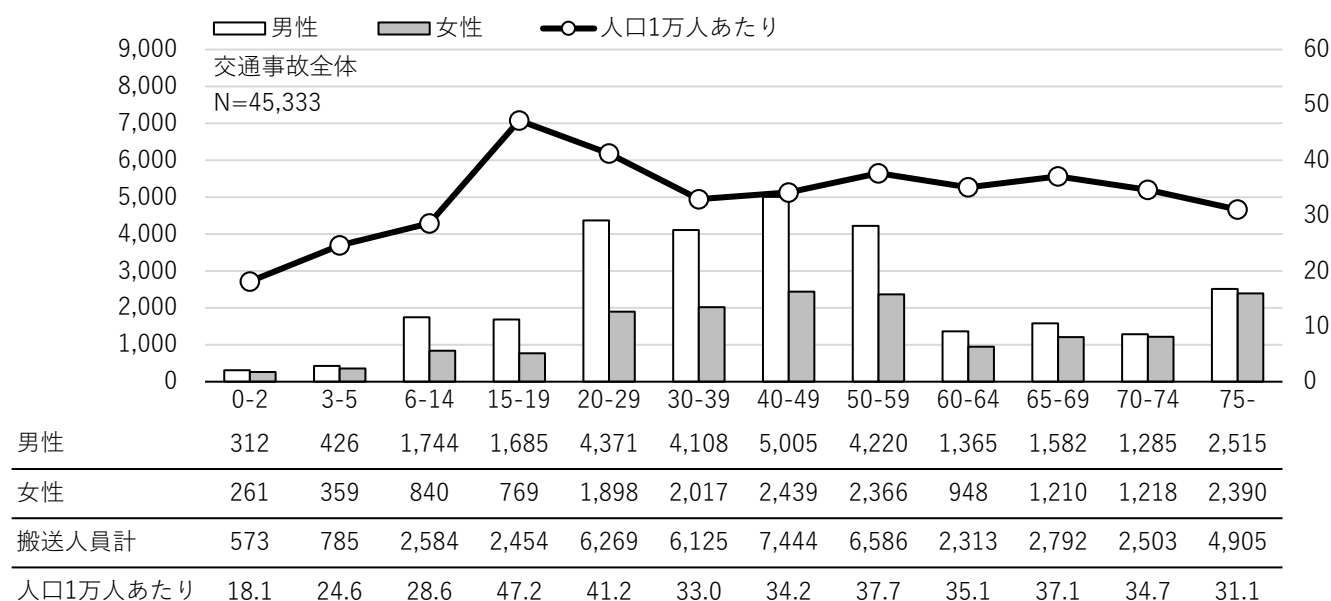
図表 2-4-9 交通事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

交通事故を年齢層別で見ると、20歳代から50歳代が多く、人口に対する比率は、15歳～19歳が多くなっています。

図表 2-4-10 交通事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

交通事故を事故発症時動作別で見ると、自転車により受傷したものが最も多くなっています。

図表 2-4-11 交通事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作	年齢層 (歳)												合計
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-	
自転車乗車で受傷	327	454	1,571	1,355	2,199	2,370	2,652	2,516	1,038	1,432	1,422	2,955	20,291
自動車乗車で受傷	161	158	316	332	1,699	1,728	2,342	1,967	632	696	468	757	11,256
自動二輪乗車で受傷	3	10	27	643	1,748	1,376	1,658	1,245	311	284	192	189	7,686
歩行者で受傷	78	159	653	117	602	617	763	824	317	363	390	962	5,845
その他交通機関で受傷	4	4	17	7	21	34	29	34	15	17	31	42	255
合計	573	785	2,584	2,454	6,269	6,125	7,444	6,586	2,313	2,792	2,503	4,905	45,333

「歩行者で受傷」は歩行者が自動車、二輪車、自転車等と衝突・接触し受傷したものの。

交通機関乗車中の受傷は、運転中及び同乗中を含む。

(5) 外傷形態

交通事故を初診時傷病名別で見ると、打撲・血種・挫傷が約7割を占めています。

図表 2-4-12 交通事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	30,433	67.1%
外傷系その他	5,076	11.2%
脱臼・捻挫	3,947	8.7%
骨折	3,320	7.3%
開放創・離断	1,210	2.7%
脊椎・髄損傷	658	1.5%
症状・徴候・診断名不明確	308	0.7%
内部・臓器損傷	168	0.4%
筋・骨格系疾患	64	0.1%
脳血管障害	44	0.1%
その他	105	0.2%
合計	45,333	100.0%

(6) 発生場所

交通事故を発生場所で見ると、一般道路（公道・私道・施設内道路）が9割以上を占めています。

図表 2-4-13 交通事故の発生場所別搬送人員

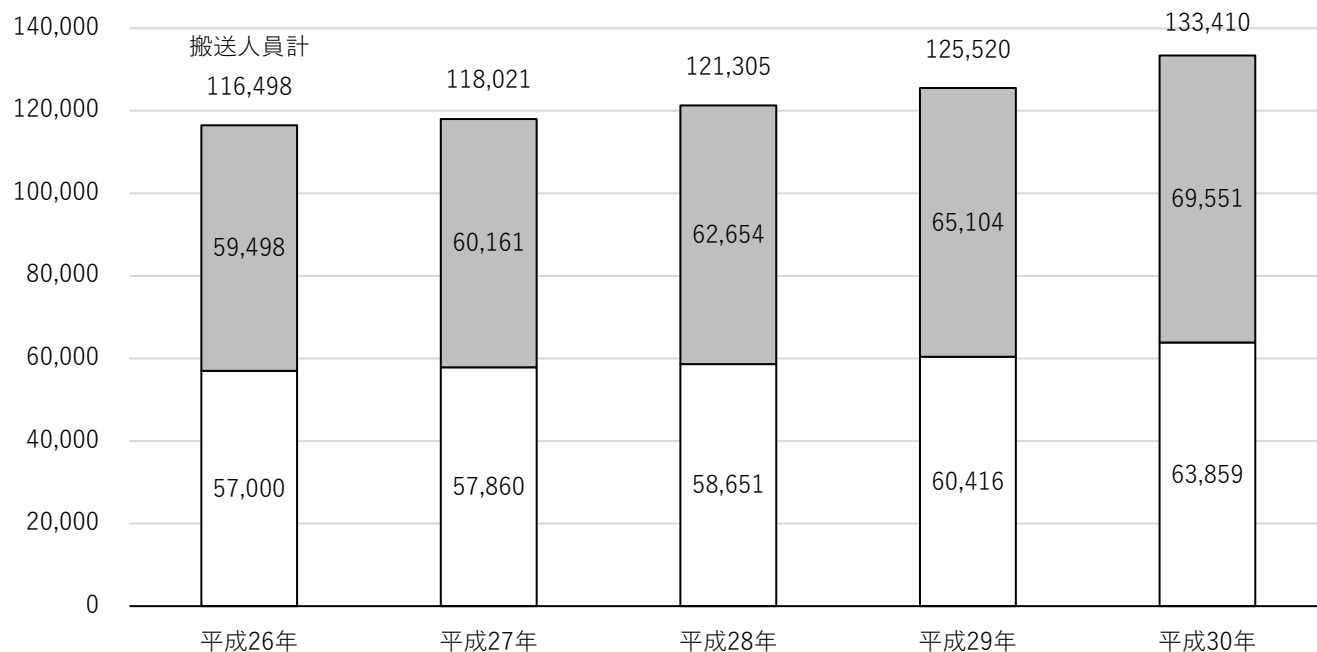
発生場所	搬送人員	割合
一般道路（公道・私道・施設内道路）	41,389	91.3%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	907	2.0%
駐車場・駐輪施設	258	0.6%
首都高速中央環状線	201	0.4%
警察署・交番	186	0.4%
首都高速都心環状線	177	0.4%
首都高速湾岸線	160	0.4%
駅	155	0.3%
コンビニエンスストア	153	0.3%
線路・軌道敷	137	0.3%
その他	1,610	3.6%
合計	45,333	100.0%

4 一般負傷

(1) 搬送人員推移

一般負傷（転倒や転落、誤って手を切ったなどの不慮の事故）の搬送人員は133,410人で、前年に比べ7,890人（約6.3%）増加しています。

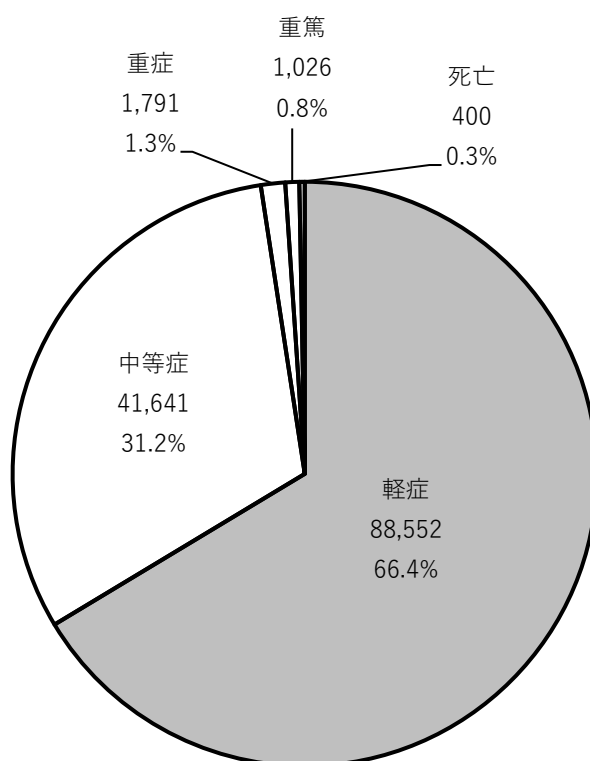
図表 2-4-14 一般負傷の搬送人員推移



(2) 初診時程度

一般負傷を初診時程度で見ると、軽症が6割以上を占めています。

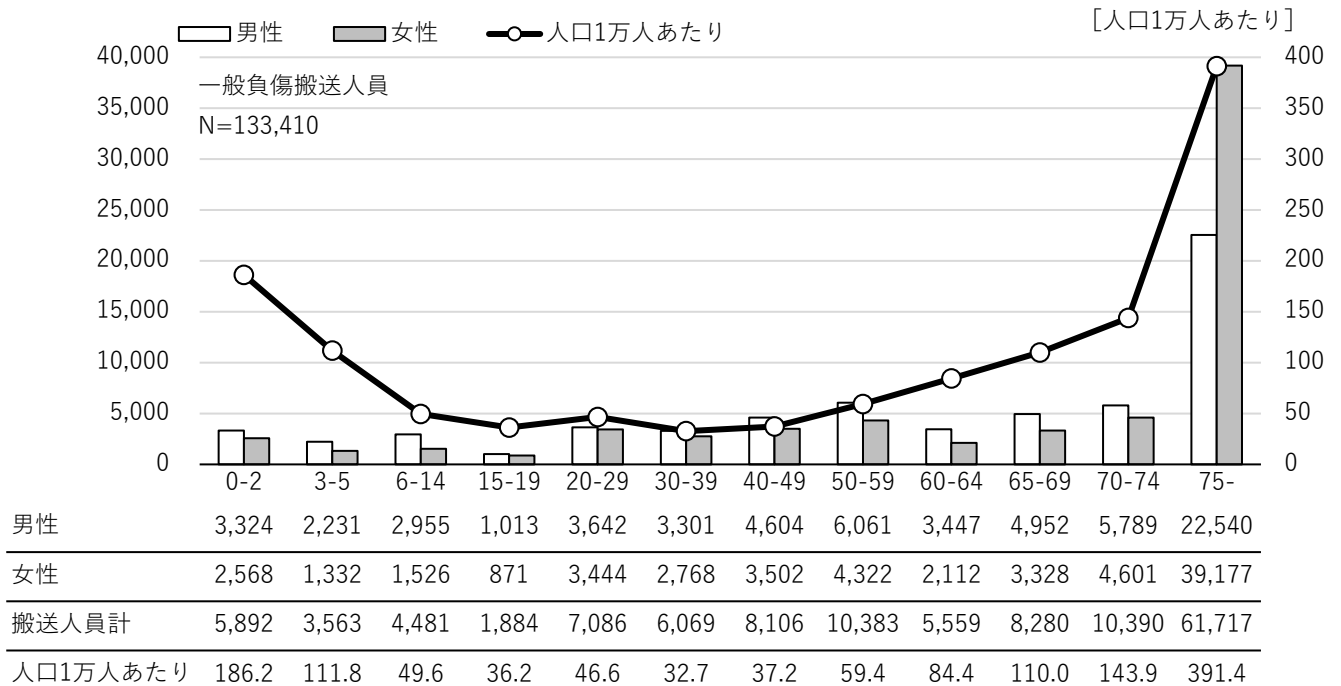
図表 2-4-15 一般負傷の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

年齢層別では75歳以上が多く、人口1万人あたりでは75歳以上の層に次いで0～2歳が多くなっています。

図表 2-4-16 一般負傷の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

一般負傷を事故発症時動作別でみると、行動・物体作用による受傷が8割以上を占めています。

図表 2-4-17 一般負傷の事故発症時動作別搬送人員

発症時動作	年齢層 (歳)												合計	
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-		
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	45	41	78	106	320	306	373	352	174	279	300	2,034	4,408
	転倒	1,507	1,256	1,413	392	1,985	2,065	3,467	5,644	3,421	5,479	7,010	45,738	79,377
	転落・滑落	1,329	626	581	125	664	609	876	1,266	638	815	948	4,307	12,784
	墜落・飛び降り	79	52	105	32	85	70	82	56	25	30	40	71	727
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	235	175	136	35	119	88	135	113	36	47	57	190	1,366
	轢かれ・踏まれ	11	1	8	2	13	9	6	9	3	4	2	5	73
	衝突・ぶつかり	455	510	733	164	377	356	415	377	163	199	216	711	4,676
	殴打・蹴られ	3	14	38	17	49	35	42	22	5	3	4	13	245
	ひきずられ・引っ張られ	104	57	13	5	10	22	11	12	2	9	10	60	315
	噛まれ・引っ掻き	39	15	49	18	65	64	79	104	51	58	62	144	748
	埋没・圧迫・押され	16	7	13	1	15	9	17	16	4	7	9	36	150
	飛来物・落下物	31	25	59	14	47	54	49	44	20	24	28	60	455
	その他行動・作用	84	48	98	60	219	193	186	204	87	84	139	523	1,925
不明	140	67	64	60	389	345	430	534	295	400	506	3,224	6,454	
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	71	62	140	111	495	345	331	247	84	105	107	217	2,315
	鈍器物	12	6	18	3	9	4	8	6	4	4	3	12	89
	爆発・破裂物			1	1	2	1	1			1			7
	銃器・武器	1											1	2
	高熱固体・燃焼物	26	15	8	3	3	6	3	3	2	2	2	12	85
高熱液体・燃焼物	288	66	71	30	78	62	81	64	29	29	31	104	933	

第2章 救急活動統計

	高熱気体・燃焼物	8	1	4	1	9	6	10	8	3	2	4	13	69
	有毒液体・燃焼物	1	2	2	2	2	1	1		1	1	1	2	16
	有毒気体・燃焼物		1	2	1	4	6	10	5	2		1	9	41
	電流・感電	4	5	2	1	1		3	2				1	19
	その他危険物	2		1	1	6	2	2	1	1	3	3	3	25
窒息・誤飲・異物	縊首・絞首				1	1	1	3	2	2		2	5	17
	窒息・誤飲（気道）	271	43	26	4	16	19	26	48	24	65	101	863	1,506
	溺水・入水	10	3	1	2	1		1	4	1	5	27	136	191
	異物（食道・消化器）	534	126	77	11	59	44	70	74	28	46	62	415	1,546
	異物（感覚器官）	36	31	14	5	35	13	21	15	8	5	8	16	207
	異物（性器・泌尿器）			1	1	4	1	1	2	2	1	1	10	24
	その他窒息・異物	57	25	15	5	8	9	6	8	1	5	4	26	169
薬物服用・吸入・中毒	睡眠薬・鎮痛・鎮静剤	15	2	11	92	356	282	246	174	32	36	31	85	1,362
	麻薬・覚醒剤				1	9	10	5						25
	その他医薬品	26	9	15	64	201	131	106	65	22	21	18	71	749
	消毒剤・洗浄剤	15	3	5	3	12	11	21	15	5	8	9	23	130
	有機溶剤				1	4	1	7	2	2		1	1	19
	殺虫剤・農薬・除草剤	4	3			5	2	4	4	3	2	7	12	46
	重金属・腐食剤									1				1
	日常生活用品	59	13	10	8	48	24	19	14	4	8	7	27	241
	自然毒・食中毒	66	53	59	22	93	77	56	31	14	5	11	21	508
	その他薬物・中毒	47	26	46	34	307	105	97	70	19	16	24	31	822
自然環境作用	高温環境	21	34	355	348	669	490	609	604	283	397	492	2,142	6,444
	低温環境			1	3	4	4	6	7	6	16	22	99	168
	気圧変化（潜水・高山）							1						1
	風水害											1	1	2
	その他自然環境			6	2	9	4	8	10	3	2	3	25	72
その他	240	140	202	92	279	183	175	145	49	57	76	218	1,856	

(5) 外傷形態

一般負傷を初診時傷病名別でみると、打撲・血腫・挫傷が約5割を占めています。

図表 2-4-18 一般負傷の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	65,408	49.0%
骨折	22,195	16.6%
外傷系その他	18,838	14.1%
開放創・離断	8,995	6.7%
症状・徴候・診断名不明確	4,163	3.1%
脱臼・捻挫	3,989	3.0%
窒息・異物誤飲	2,857	2.1%
中毒	2,704	2.0%
熱傷Ⅱ度以下	1,145	0.9%
筋・骨格系疾患	604	0.5%
その他	2,512	1.9%
合計	133,410	100.0%

(6) 発生場所

一般負傷を発生場所別でみると、約5割が住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）で発生しています。

図表 2-4-19 一般負傷の発生場所別搬送人員

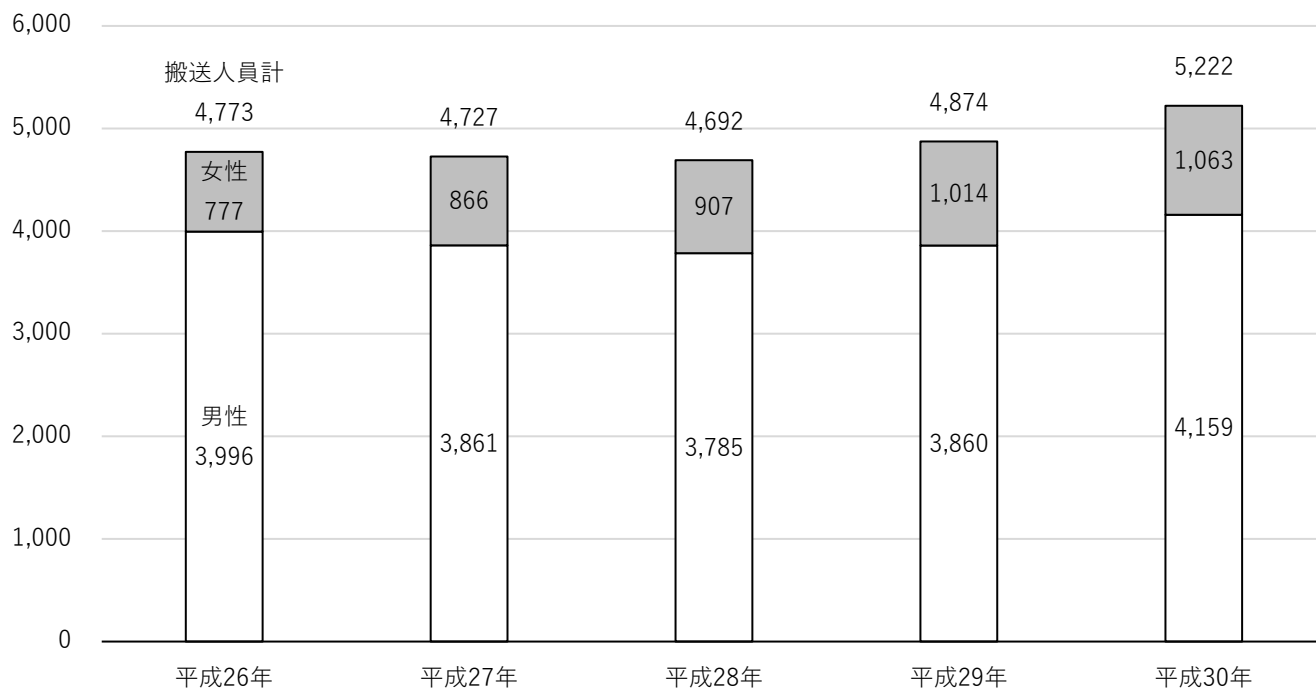
発生場所	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	65,763	49.3%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	30,372	22.8%
駅	7,946	6.0%
一般飲食店	3,916	2.9%
老人施設（特養以外）	3,670	2.8%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	2,064	1.5%
デパート・スーパー・量販店	1,997	1.5%
小・中・高等・大学等	1,756	1.3%
特別養護老人ホーム	1,377	1.0%
自助施設・グループホーム等	1,272	1.0%
その他	13,277	10.0%
合計	133,410	100.0%

5 労働災害事故

(1) 搬送人員推移

労働災害事故（工場、事業所、作業所、工事現場等において就業中に発生した事故）の搬送人員は5,222人で、前年に比べ348人(7.1%)増加しています。

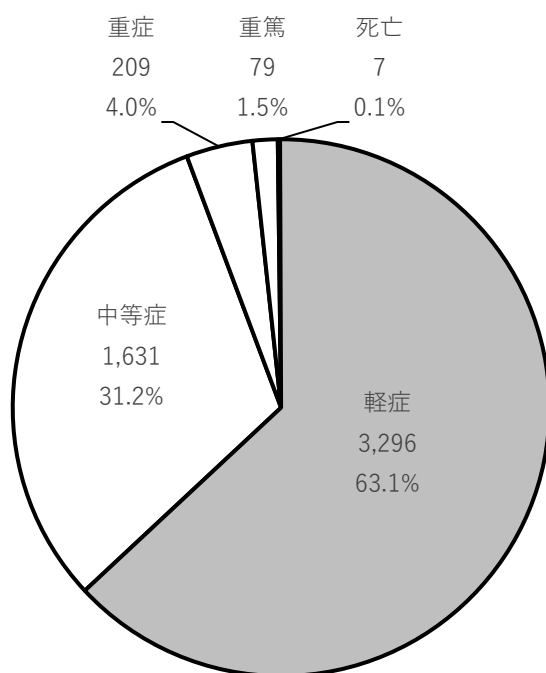
図表 2-4-20 労働災害事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

労働災害事故を初診時程度別でみると、軽症が6割以上を占めています。

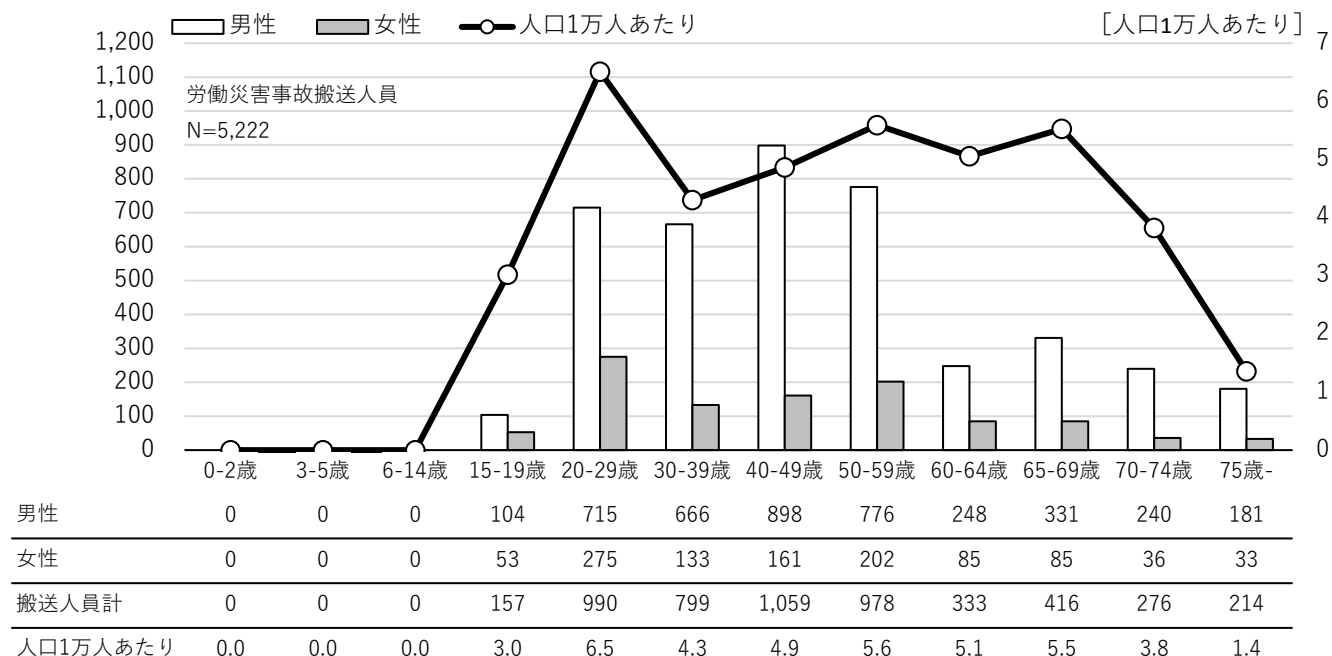
図表 2-4-21 労働災害事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

労働災害事故を年齢層別で見ると20歳代から50歳代が多く、各年齢層ともに男性が多くなっています。

図表 2-4-22 労働災害事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

労働災害事故を事故発症時動作別で見ると、転落・滑落による受傷が最も多く、次いで、転倒による受傷となっています。

図表 2-4-23 労働災害事故の事故発症時動作別搬送人員

発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物 体作用	外力作用・接触のない動作				2	31	24	19	17	3	9	1	2	108
	転倒				13	100	74	156	218	103	98	68	52	882
	転落・滑落				7	102	111	185	192	73	115	71	60	916
	墜落・飛び降り				6	33	35	47	39	13	26	15	9	223
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ				22	157	129	180	135	39	43	34	28	767
	轢かれ・踏まれ				2	8	7	21	21	5	6	2	2	74
	衝突・ぶつかり				11	89	95	100	109	30	28	28	14	504
	殴打・蹴られ					4	5	5	3					17
	ひきずられ・引っ張られ						1	3	1			2		7
	嘔まれ・引っ掻き				1	7	7	5	5			1	2	28
	埋没・圧迫・押され					7	6	7	5	2	2	1		30
	飛来物・落下物				7	49	33	45	31	6	14	4	4	193
	その他行動・作用				5	39	32	28	22	4	5	3	3	141
	不明					5	1	12	5	2	7	7	4	43
危険物接 触作用・ 環境暴露	刃物・鋭利物				55	222	139	149	97	32	39	26	23	782
	鈍器物					8	6	8	2	2	3	4	2	35
	爆発・破裂物					2	3							5
	高熱固体・燃焼物				1		1		1					3
	高熱液体・燃焼物				12	46	24	14	14	3	4	2	2	121

第2章 救急活動統計

	高熱気体・燃焼物				3	2	1	2					8
	有毒液体・燃焼物			1	6		4	2	1	1	1	2	18
	有毒気体・燃焼物			1	2	3	3	2		2			13
	電流・感電				7	3	3		1	1	1		16
	その他危険物				2	1	2	1					6
	高熱気体・燃焼物				3	2	1	2					8
	有毒液体・燃焼物			1	6		4	2	1	1	1	2	18
窒息・誤飲・異物	異物（感覚器官）			1	2		1	1					5
	その他窒息・異物								1				1
薬物服用・吸入・中毒	その他医薬品				1								1
	消毒剤・洗浄剤			2	2	9		2	1	1			17
	有機溶剤				1	1	1			1			4
	日常生活用品				4				1				5
	自然毒・食中毒						1						1
	その他薬物・中毒				1	1	1	3	1	2			9
自然環境作用	高温環境			7	46	43	52	46	10	8	5	5	222
	低温環境				1		1	1					3
	その他自然環境					1	1						2
その他				1	3	2	4	1		1		12	

(5) 外傷形態

労働災害事故を初診時傷病名別でみると、打撲・血腫・挫傷が3割以上を占めています。

図表 2-4-24 労働災害事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	2,012	38.5%
開放創・離断	1,176	22.5%
骨折	714	13.7%
外傷系その他	626	12.0%
症状・徴候・診断名不明確	174	3.3%
脱臼・捻挫	160	3.1%
熱傷Ⅱ度以下	145	2.8%
脊椎・髄損傷	52	1.0%
筋・骨格系疾患	46	0.9%
内部・臓器損傷	40	0.8%
その他	77	1.5%
合計	5,222	100.0%

(6) 発生場所

労働災害事故を発生場所別でみると、工場・製造所・作業場が2割以上を占めています。

図表 2-4-25 労働災害事故の発生場所別搬送人員

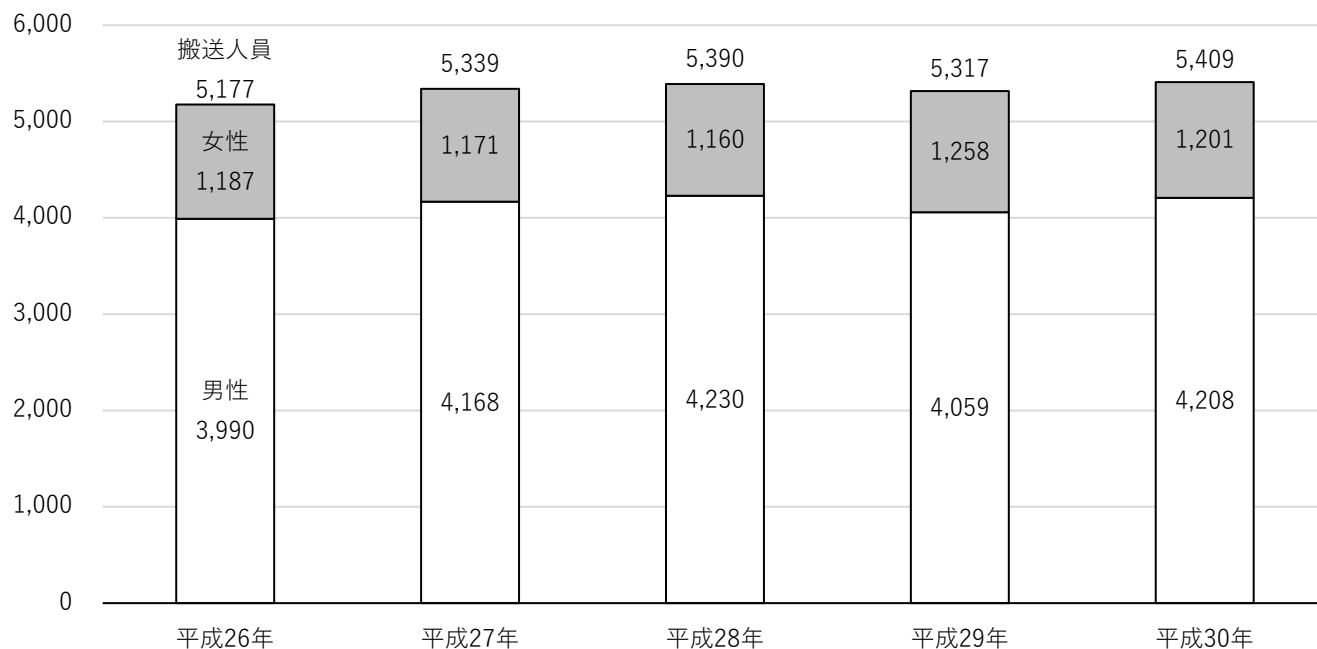
発生場所	搬送人員	割合
工場・製造所・作業場	1,201	23.0%
一般飲食店	553	10.6%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	512	9.8%
建築・工事現場	474	9.1%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	450	8.6%
会社・オフィス	403	7.7%
デパート・スーパー・量販店	226	4.3%
一般小売・販売店	139	2.7%
市場・展示場・イベント会場	101	1.9%
小・中・高等・大学等	100	1.9%
その他	1,063	20.4%
合計	5,222	100.0%

6 運動競技事故

(1) 搬送人員推移

運動競技事故（スポーツの実施者や関係者などで、スポーツに関連して受傷した事故）の搬送人員は5,409人で、前年に比べ92人(1.7%)増加しています。

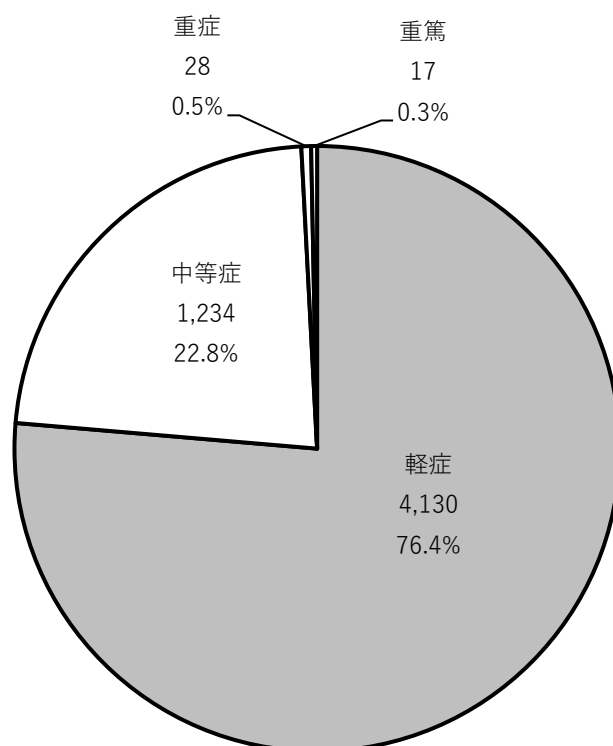
図表 2-4-26 運動競技事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

運動競技事故を初診時程度別で見ると、軽症が7割以上を占めています。

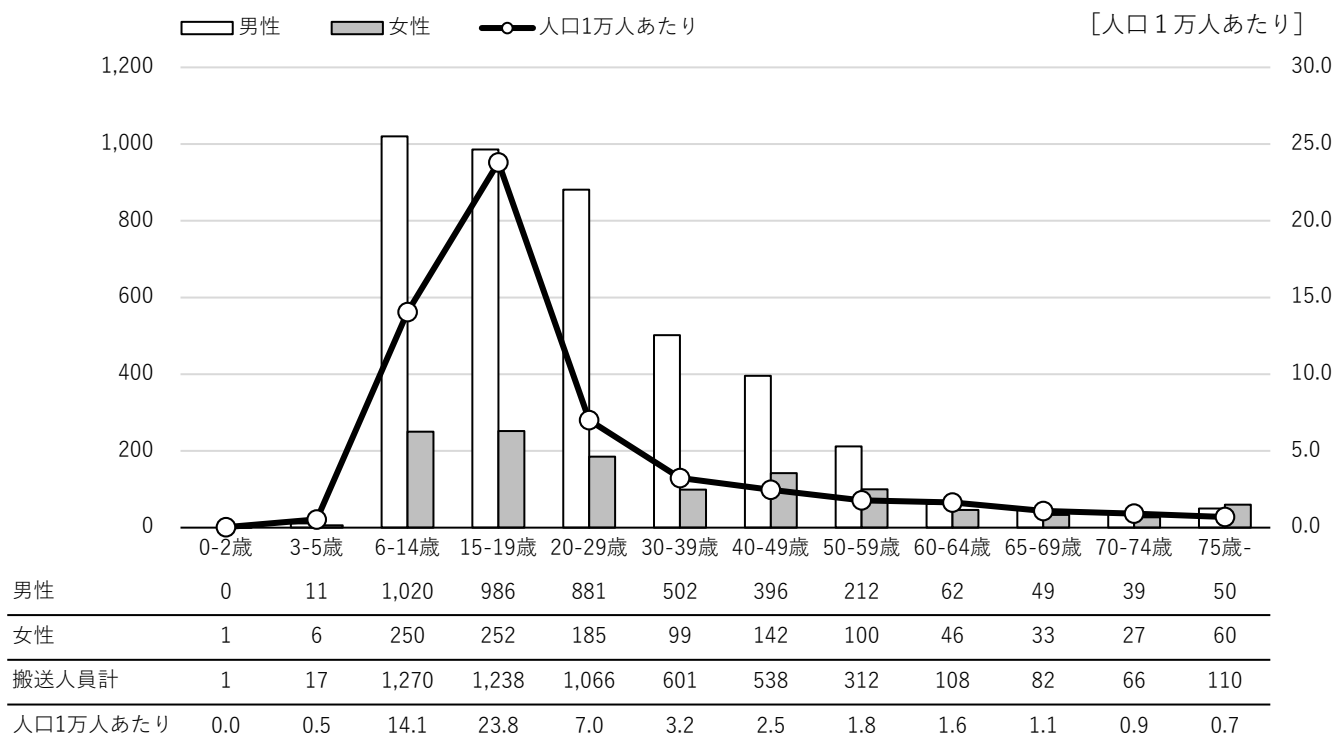
図表 2-4-27 運動競技事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

運動競技事故を年齢層別にみると、6歳以上30歳未満が多くなっています。

図表 2-4-28 運動競技事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

運動競技事故を事故発症時動作別でみると、転倒による受傷が最も多く、次いで、衝突・ぶつかりによる受傷となっています。

図表 2-4-29 運動競技事故の事故発症時動作別搬送人員

発症時動作	年齢層 (歳)												合計	
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-		
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作		1	71	111	141	145	145	68	29	13	13	8	745
	転倒		12	495	293	223	125	147	110	43	42	41	86	1,617
	転落・滑落			47	38	26	9	10	9	2	2			143
	墜落・飛び降り		1	8	8	7	9	5	1		1			40
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ		1	12	30	27	14	6	2					92
	轢かれ・踏まれ			14	9	7		7	3					40
	衝突・ぶつかり	1	1	364	442	383	144	115	56	7	16	8	4	1,541
	殴打・蹴られ			25	49	51	21	6	7	2	1		1	163
	ひきずられ・引っ張られ			4	24	13	5	3	3	1				53
	噛まれ・引っ掻き					1								1
	埋没・圧迫・押しされ			3	3	11	4	6	1					28
	飛来物・落下物			62	70	25	15	12	14	5	1		2	206
	その他行動・作用			55	89	101	93	60	26	14	3	1	4	446
	不明			1	2	4	3	1		1	1		1	14
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物		1	4	2	2					1			10
	鈍器物			4	3	2		2				1		12
	銃器・武器			1										1

窒息・誤飲・異物	溺水・入水			1								1	2
自然環境作用	高温環境			96	61	37	12	9	12	3	1	2	235
	低温環境							1					1
	その他自然環境			1	1								2
その他			2	3	5	2	3			1		1	17

(5) 外傷形態

運動競技事故を初診時傷病名別で見ると、打撲・血腫・挫傷が3割以上を占めています。

図表 2-4-30 運動競技事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	1,986	36.7%
骨折	1,056	19.5%
脱臼・捻挫	930	17.2%
外傷系その他	855	15.8%
症状・徴候・診断名不明確	206	3.8%
開放創・離断	203	3.8%
内部・臓器損傷	49	0.9%
筋・骨格系疾患	38	0.7%
脊椎・髄損傷	31	0.6%
感覚器・神経系疾患	12	0.2%
その他	43	0.8%
合計	5,409	100.0%

(6) 発生場所

運動競技事故を発生場所別で見ると、野球場・運動場・体育館が最も多く、次いで、小・中・高等・大学等となっています。

図表 2-4-31 運動競技事故の発生場所別搬送人員

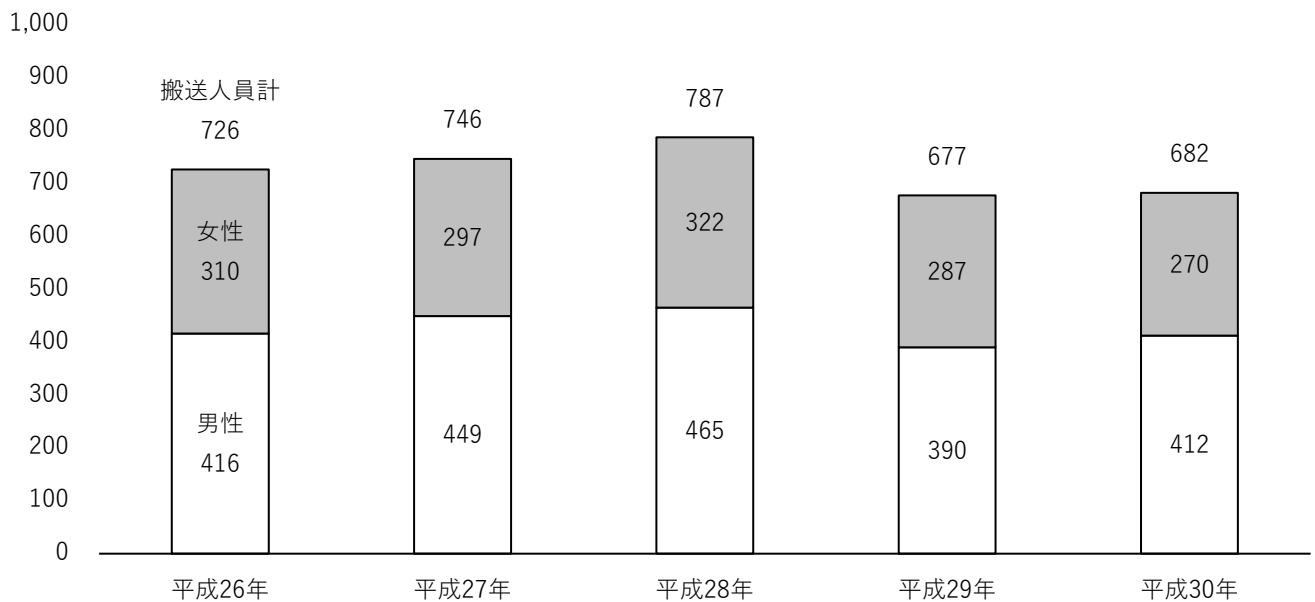
発生場所	搬送人員	割合
野球場・運動場・体育館	2,384	44.1%
小・中・高等・大学等	1,566	29.0%
その他運動施設	373	6.9%
スポーツクラブ・ジム	229	4.2%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	175	3.2%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	158	2.9%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	136	2.5%
警察署・交番	47	0.9%
その他娯楽・遊戯施設	31	0.6%
その他行政機関の施設	26	0.5%
その他	284	5.3%
合計	5,409	100.0%

7 火災事故

(1) 搬送人員推移

火災事故（消火活動、救助活動、避難行動中などに受傷した事故や、火災の発生が原因となった事故）の搬送人員は682人で、前年に比べ5人(0.7%)増加しています。

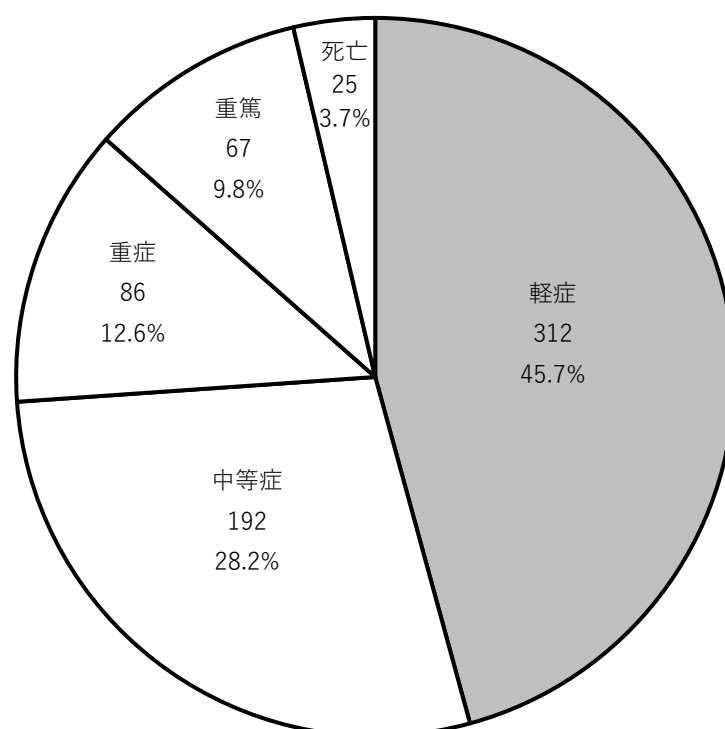
図表 2-4-32 火災事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

火災事故を初診時程度別で見ると、重症以上が2割以上を占めています。

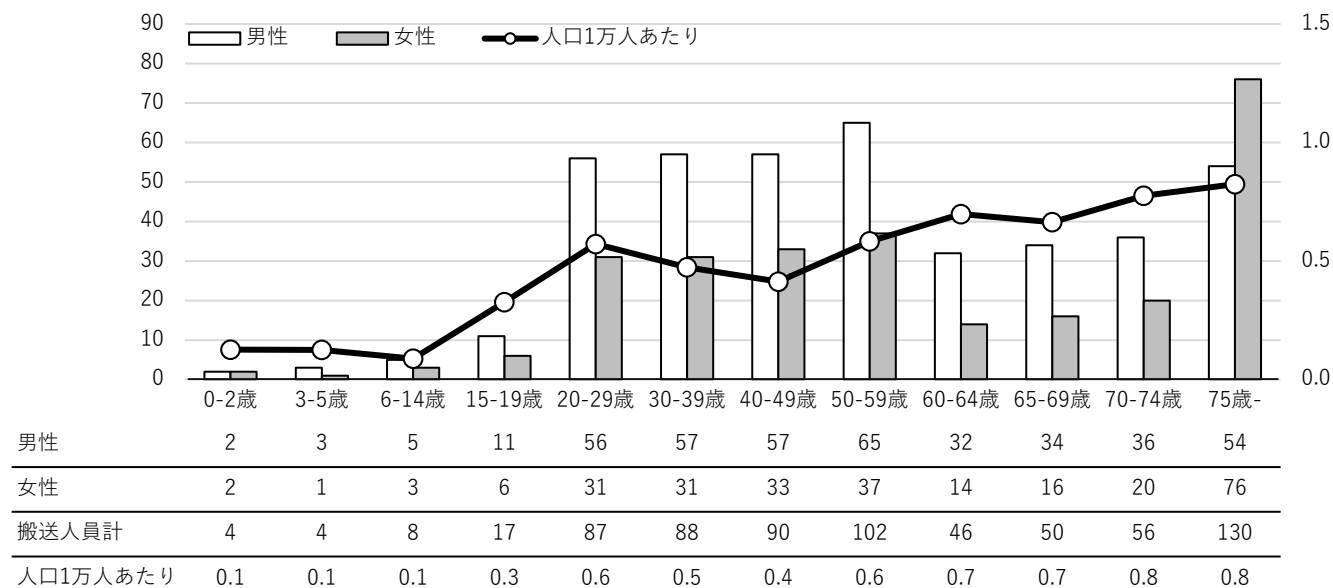
図表 2-4-33 火災事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

火災事故を年齢層別にみると75歳以上且つ女性が多くなっています。

図表 2-4-34 火災事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

火災事故を事故発症時動作別にみると、高熱気体・燃焼物によるものが最も多くなっています。

図表 2-4-35 火災事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作					1		1	1			1		4
	転倒					1			1			2	1	5
	転落・滑落						1							1
	墜落・飛び降り								1					1
	衝突・ぶつかり						2	2	1				1	6
	飛来物・落下物					1		1						2
	その他行動・作用				1	1								2
	その他行動・作用				1								1	2
危険物接触作用・環境暴露	不明	1		1			2	4	6	2	1	4	7	28
	刃物・鋭利物						1		1				1	3
	爆発・破裂物		1			8	2	2	1		1	2		17
	高熱固体・燃焼物			2	2	6	8	5	7	4	3	5	20	62
	高熱液体・燃焼物					4	6	6	1	2	3		3	25
	高熱気体・燃焼物	2		3	8	39	49	54	56	31	31	37	72	382
	有毒液体・燃焼物												1	1
	有毒気体・燃焼物	1		1	3	20	7	10	16	2	3	3	17	83
電流・感電		2	1		1	2	1					2	9	
薬物服用・吸入・中毒							4						4	
自然環境作用	窒息・誤飲(気道)						1							1
	異物(食道・消化器)										1			1
その他		1		2	3	3	3	7	2	5	1	2	29	

(5) 外傷形態

火災事故を初診時傷病名別にみると熱傷が6割以上を占めています。

図表 2-4-36 火災事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
熱傷Ⅱ度以下	396	58.1%
外傷系その他	116	17.0%
熱傷Ⅲ度以上	51	7.5%
中毒	41	6.0%
症状・徴候・診断名不明確	25	3.7%
打撲・血腫・挫傷	17	2.5%
呼吸器系疾患	12	1.8%
内部・臓器損傷	4	0.6%
開放創・離断	4	0.6%
窒息・異物誤飲	3	0.4%
その他	13	1.9%
合計	682	100.0%

(6) 発生場所

火災事故を発生場所別でみると、住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）が7割近くを占めています。

図表 2-4-37 火災事故の発生場所別搬送人員

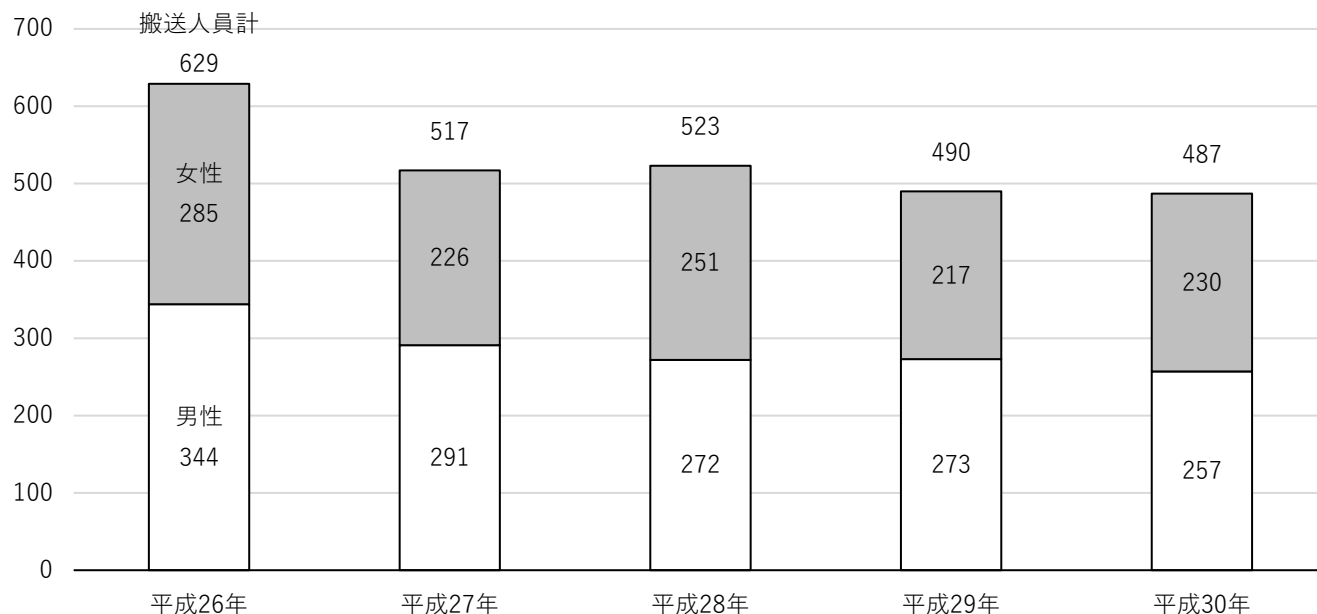
発生場所	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	469	68.8%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	48	7.0%
一般飲食店	42	6.2%
建築・工事現場	34	5.0%
工場・製造所・作業場	19	2.8%
小・中・高等・大学等	9	1.3%
会社・オフィス	8	1.2%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	7	1.0%
駐車場・駐輪施設	6	0.9%
一般小売・販売店	5	0.7%
その他	35	5.1%
合計	682	100.0%

8 水難事故

(1) 搬送人員推移

水難事故（海、河川・池、プールなどで水泳中に溺れたり、水中に転落して発生した溺水事故）の搬送人員は487人で、前年に比べ3人（0.6%）減少しています。

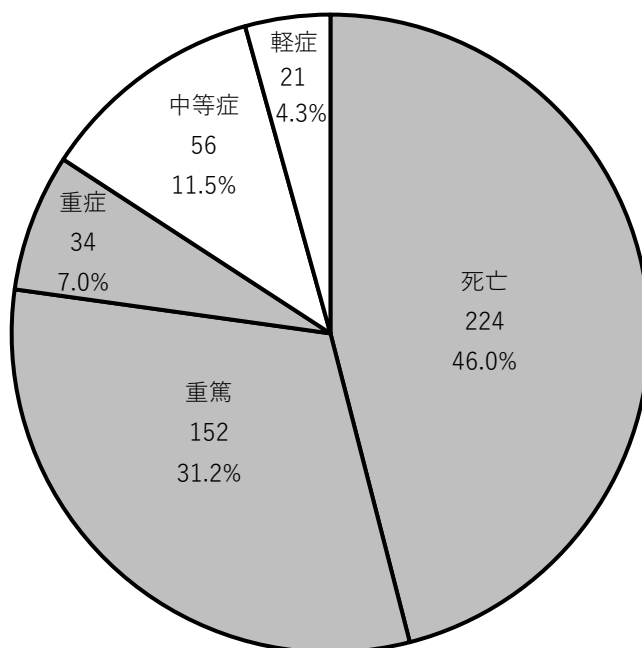
図表 2-4-38 水難事故の搬送人員の推移



(2) 初診時程度

水難事故を初診時程度別で見ると、重症以上が8割以上を占めています。

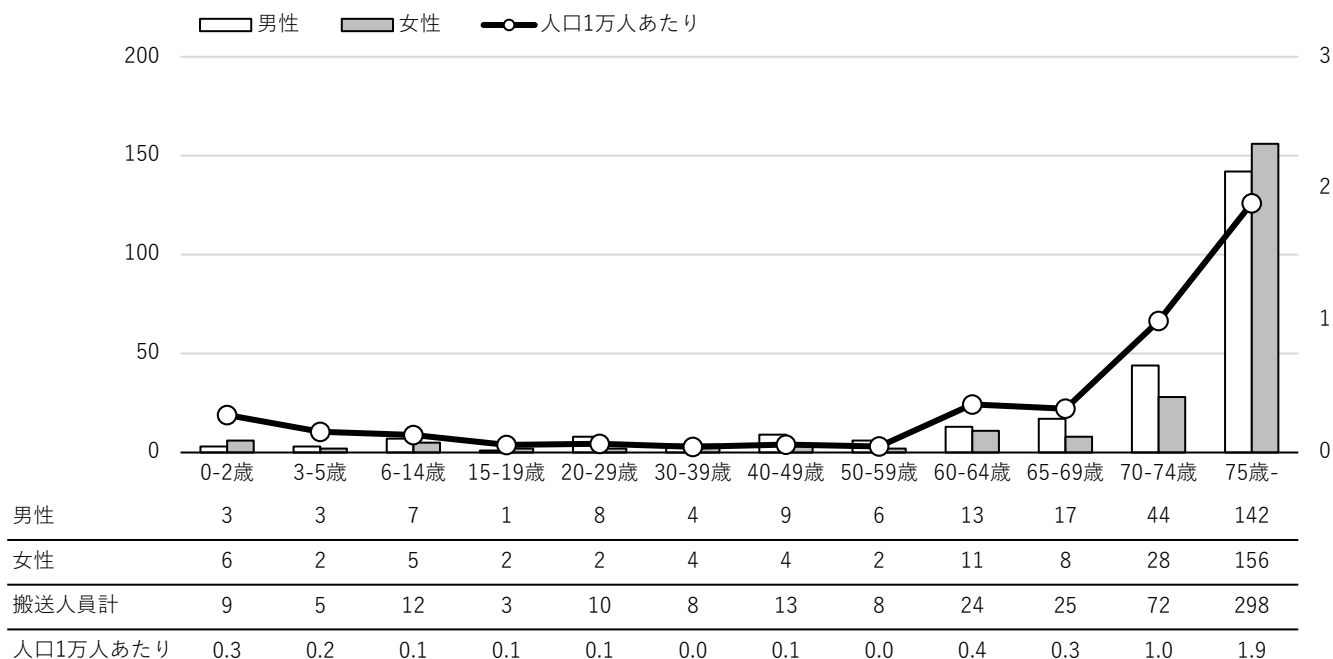
図表 2-4-39 水難事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

水難事故を年齢層別で見ると75歳以上が多くなっています。

図表 2-4-40 水難事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

水難事故を事故発症時動作別にみると、溺水・入水によるものが最も多くを占めています。

図表 2-4-41 水難事故の事故発症時動作別搬送人員

発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	不明					1	1	2	3	4	2	10	12	35
	外力作用・接触のない動作												1	1
	転倒			1										1
	転落・滑落						1			1			2	4
	墜落・飛び降り							1		1		5	1	8
	その他行動・作用					1								1
窒息・誤飲・異物	窒息・誤飲(気道)												1	1
	溺水・入水	9	5	11	2	7	6	10	5	18	22	57	279	431
自然環境作用	高温環境										1			1
	低温環境				1	1							2	4

(5) 外傷形態

水難事故を初診時傷病名別にみると、症状・徴候・診断名不明確が最も多く、次いで外傷系その他となっています。

図表 2-4-42 水難事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
症状・徴候・診断名不明確	226	46.4%
外傷系その他	158	32.4%
窒息・異物誤飲	49	10.1%
心・循環器疾患	22	4.5%
診断不明	3	0.6%
その他	29	6.0%
合計	487	100.0%

(6) 発生場所

水難事故を発生場所別でみると、住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）が7割以上を占めています。

図表 2-4-43 水難事故の発生場所別搬送人員

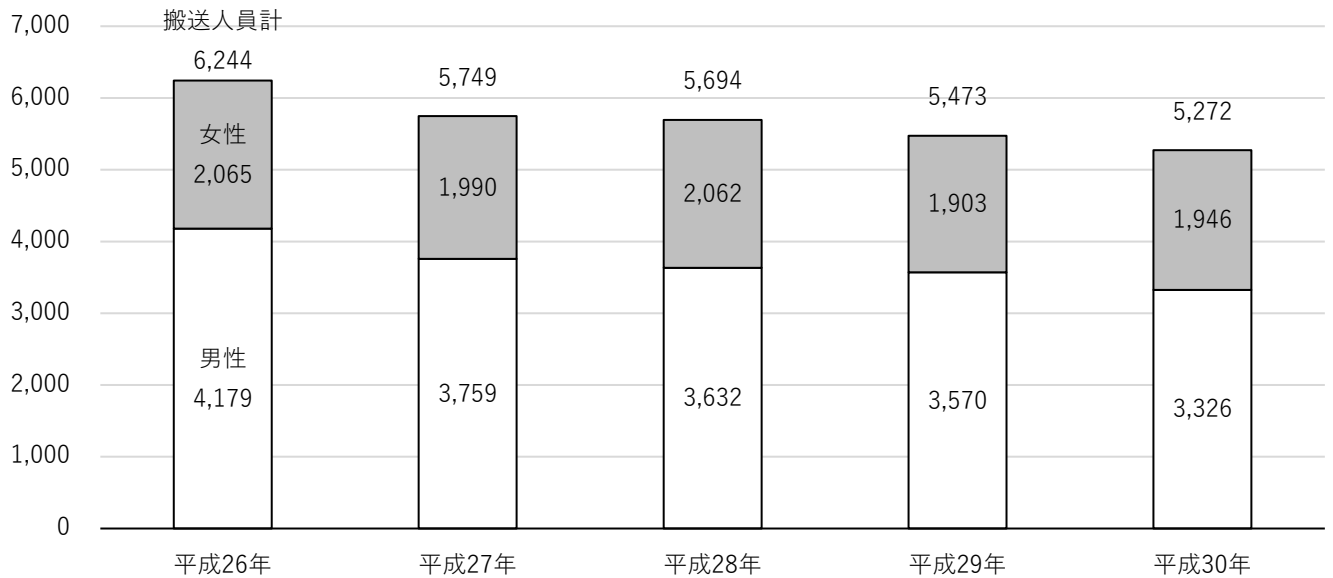
発生場所	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	342	70.2%
河川・水路	75	15.4%
サウナ・銭湯（単独施設）	22	4.5%
海	8	1.6%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	7	1.4%
健康ランド・スーパー銭湯	6	1.2%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	6	1.2%
自助施設・グループホーム等	5	1.0%
老人施設（特養以外）	5	1.0%
スポーツクラブ・ジム	5	1.0%
その他	6	1.2%
合計	487	100.0%

9 加害事故

(1) 搬送人員推移

加害事故（故意に他人によって傷害等を加えられた事故）の搬送人員は5,272人で、前年に比べ201人(3.7%)減少しています。

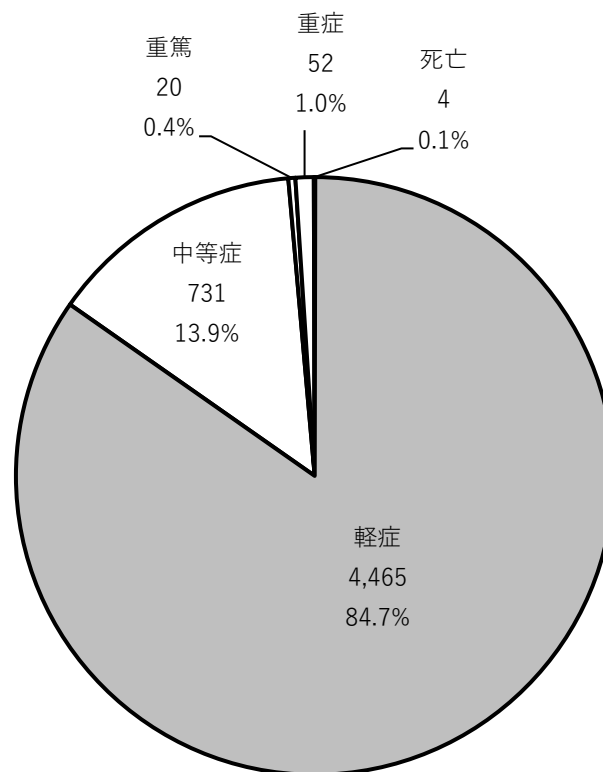
図表 2-4-44 加害事故の搬送人員の推移



(2) 初診時程度

加害事故を初診時程度別で見ると、軽症が8割以上を占めています。

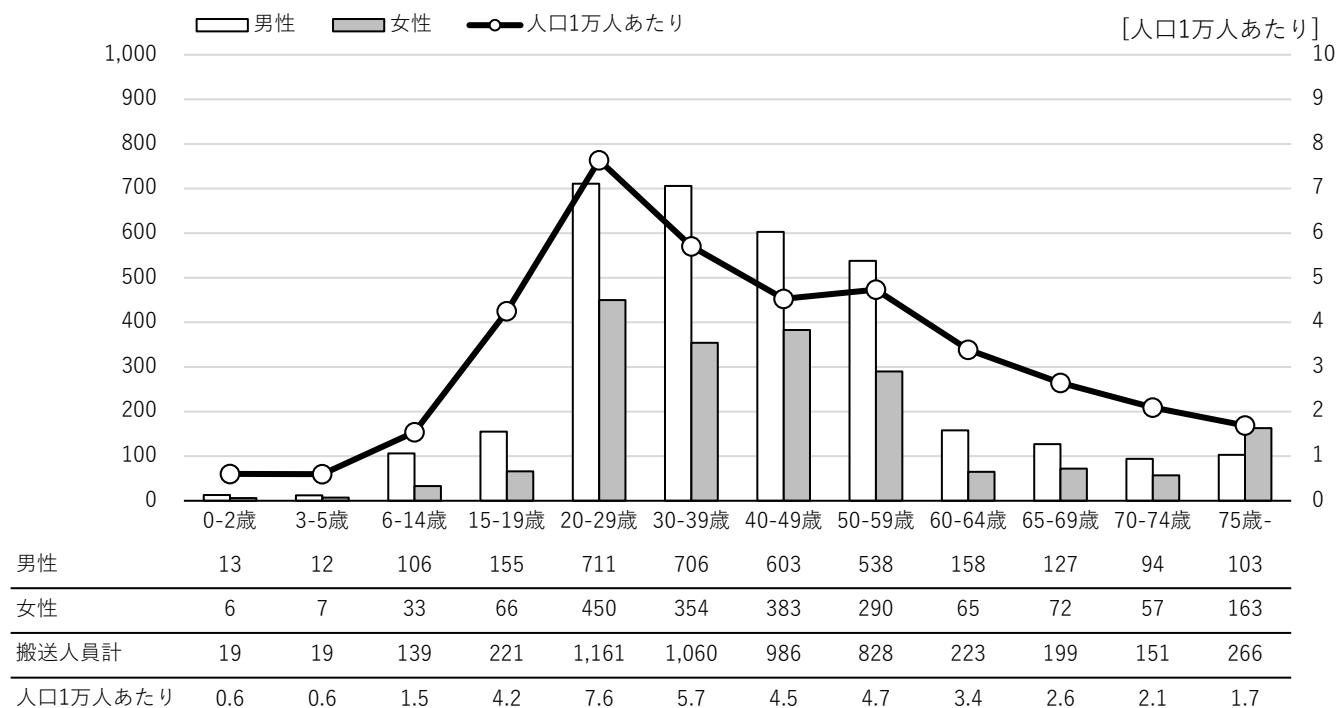
図表 2-4-45 加害事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

加害事故を年齢層別で見ると20歳代が最も多くなっています。

図表 2-4-46 加害事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

加害事故を事故発症動作別で見ると、殴打・蹴られが約6割以上を占めています。

図表 2-4-47 加害事故の事故発症時動作別搬送人員

発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物 体作用	不明	2		3	1	18	14	11	8	5	1		11	74
	外力作用・接触のない動作					2	1	2	2			1		8
	転倒	1	2	1	4	25	33	29	48	17	13	16	34	223
	転落・滑落				2	6	11	4	3		1	4	1	32
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ			1	1	10	6	7	6	2	1	1	1	36
	轢かれ・踏まれ			1		4	2	4	1		2		1	15
	衝突・ぶつかり	4	2	18	14	57	53	73	63	16	20	12	23	355
	殴打・蹴られ	7	9	84	169	878	783	712	515	134	124	92	119	3626
	ひきずられ・引っ張られ	2		1	5	26	30	28	29	8	4	2	9	144
	噛まれ・引っ掻き	1	1	1		10	23	15	14	3	3	3	6	80
	埋没・圧迫・押され			5	7	30	23	33	50	14	13	3	22	200
	飛来物・落下物		1	6	1	8	12	13	18	1		1	13	74
	その他行動・作用	1		3	2	21	17	18	22	7	4	2	6	103
危険物接 触作用・ 環境暴露	刃物・鋭利物			6	8	39	28	26	32	12	9	7	13	180
	鈍器物			4		9	14	6	6		4	2		45
	銃器・武器						1							1
	高熱固体・燃焼物		1											1
	高熱液体・燃焼物				2	2	1	2	3	1			3	14
	有毒液体・燃焼物			1									1	2
	有毒気体・燃焼物					3	1		1					5

	電流・感電						1					1		2
	その他危険物				1				1	1				3
窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	1	2	2	3	4	4	2	5	1		1	3	28
	異物（感覚器官）			1		1	1		1					4
薬物服用・吸入・中毒	睡眠薬・鎮痛・鎮静剤		1											1
	消毒剤・洗浄剤					2						1		3
	有機溶剤											1		1
	その他薬物・中毒				1	3	1	1						6
	その他			1		3				1		1		6

(5) 外傷形態

加害事故を初診時傷病名別で見ると、打撲・血腫・挫傷が7割以上を占めています。

図表 2-4-48 加害事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	3,954	75.0%
外傷系その他	439	8.3%
開放創・離断	419	7.9%
骨折	189	3.6%
脱臼・捻挫	117	2.2%
症状・徴候・診断名不明確	63	1.2%
熱傷Ⅱ度以下	23	0.4%
脊椎・髄損傷	21	0.4%
内部・臓器損傷	13	0.2%
感覚器・神経系疾患	8	0.2%
その他	26	0.5%
合計	5,272	100.0%

(6) 発生場所

加害事故を発生場所別で見ると、一般道路（公道・私道・施設内道路）が最も多く、次いで住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）となっています。

図表 2-4-49 加害事故の発生場所別搬送人員

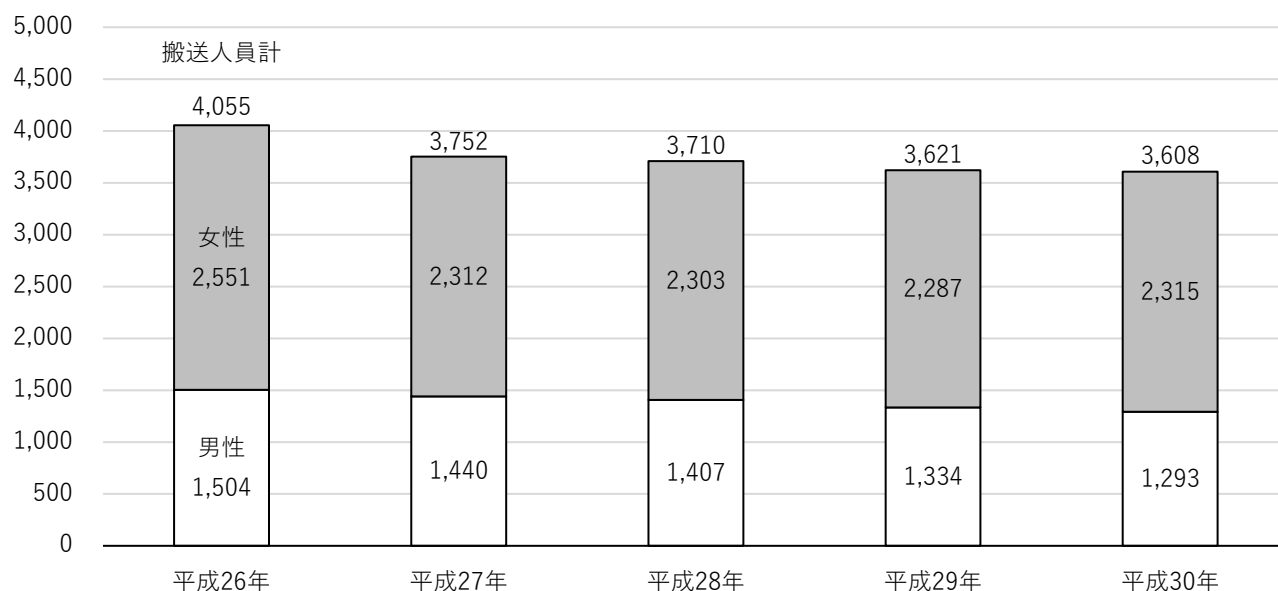
発生場所	搬送人員	割合
一般道路（公道・私道・施設内道路）	1,671	31.7%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	1,596	30.3%
警察署・交番	608	11.5%
駅	423	8.0%
一般飲食店	369	7.0%
コンビニエンスストア	70	1.3%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	61	1.2%
カラオケボックス	44	0.8%
会社・オフィス	42	0.8%
小・中・高等・大学等	40	0.8%
その他	348	6.6%
合計	5,272	100.0%

10 自損行為

(1) 搬送人員推移

自損行為（故意に自分自身に傷害を加えた事故）の搬送人員は3,608人で、前年に比べ13人（0.3%）減少しています。また、自損行為は他の事故に比べ男性より女性が多くなっています。

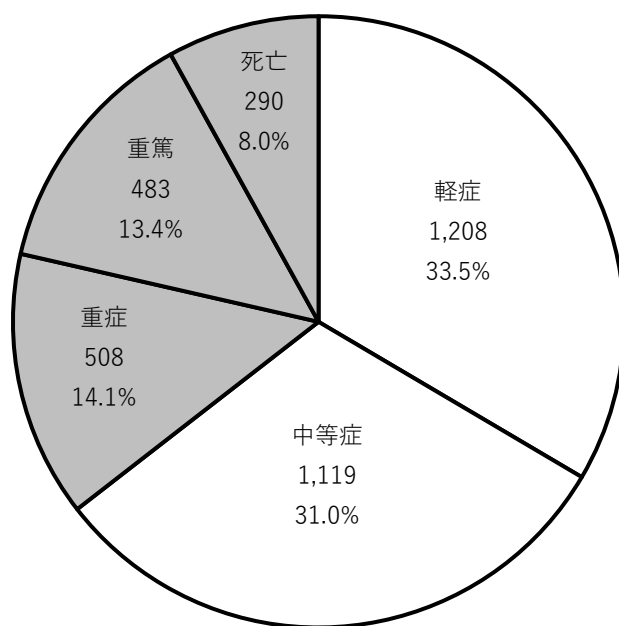
図表 2-4-50 自損行為の搬送人員推移



(2) 初診時程度

自損行為を初診時程度別で見ると、重症以上が3割を超えています。

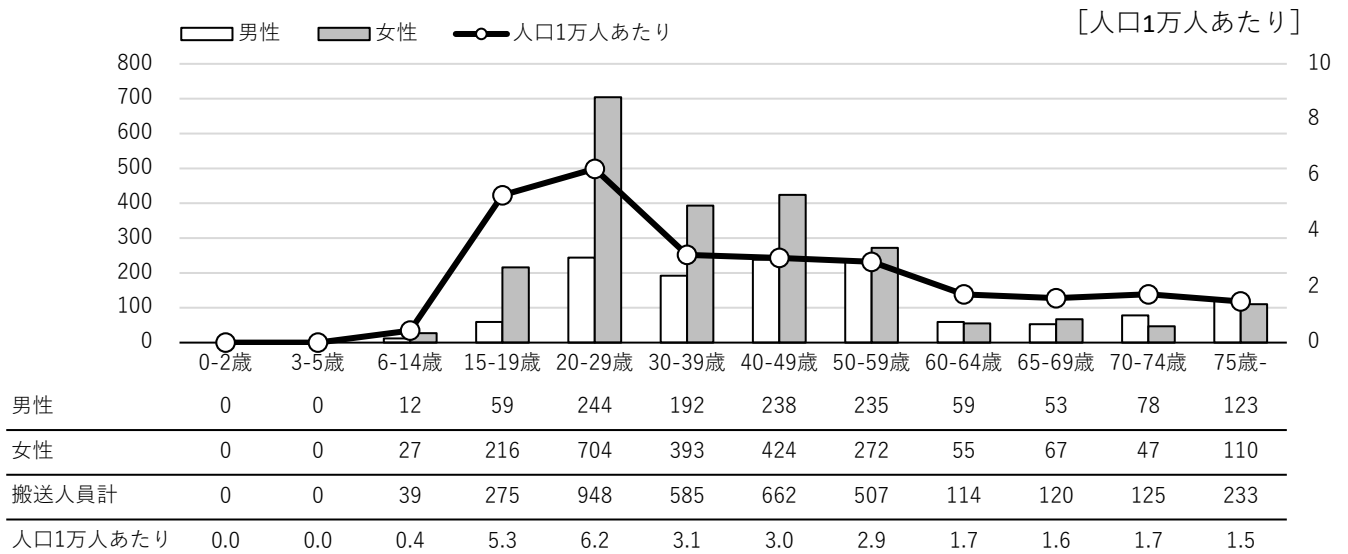
図表 2-4-51 自損行為の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

自損行為を年齢層別で見ると20歳代が最も多くなっています。

図表 2-4-52 自損行為の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

自損行為を事故発症時動作別で見ると、睡眠薬・鎮痛・鎮静剤、刃物・鋭利物、縊首・絞首の順に多く、全体の7割以上を占めています。

図表 2-4-53 自損行為の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作	年齢層 (歳)												合計	
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-		
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作				1		2	1	1			1	1	7
	転倒						1			1				2
	転落・滑落			2	5	25	9	11	5		1	5	7	70
	墜落・飛び降り			8	22	58	39	43	32	11	9	15	18	255
	轢かれ・踏まれ				1	2	1	3	1			1		9
	衝突・ぶつかり				1	3	10	3	5	1	3	2	1	29
	殴打・蹴られ				2	6	2	3						13
	噛まれ・引っ掻き				1	2	2	3	2		1			11
	埋没・圧迫・押しされ													1
	その他行動・作用				2	6	2	4	2		1		2	19
不明			1	4	6	3	7	7	1	2	2	3	36	
危険物接触作用 ・環境暴露	刃物・鋭利物			7	67	245	115	160	128	21	29	30	60	862
	鈍器物				1					1			1	3
	高熱固体・燃焼物					2								2
	高熱液体・燃焼物				1			1						2
	高熱気体・燃焼物						1							1
	有毒液体・燃焼物						2				1			3
窒息・誤飲・異物	有毒気体・燃焼物				1	10	8	5	6	1	4	1	2	38
	窒息・絞首			5	22	91	93	116	114	36	38	39	77	631
	窒息・誤飲(気道)					1		1	1	1		1		5
	溺水・入水				3	2	1	4	4			3	1	21
	異物(食道・消化器)					2		3			1	1		7
	その他窒息・異物							1			1			2
薬物服用・吸入・中毒	睡眠薬・鎮痛・鎮静剤			13	94	326	213	199	144	26	19	16	40	1,090
	麻薬・覚醒剤					2	1	1						4
	その他医薬品			2	37	121	56	64	41	7	5	3	7	343
	消毒剤・洗浄剤					12	6	13	6	1	1	2	6	47
	有機溶剤				1		3	1				1		6
	殺虫剤・農薬・除草剤					1		1	2	1	1	1	2	9
	日常生活用品				3	6	4	2	3	1				21
	自然毒・食中毒			1	1	2	1							5
自然環境作用	その他薬物・中毒				5	17	10	11	3	2		1	2	51
	低温環境										1	1		2
その他							1						1	

(5) 外傷形態

自損行為を初診時傷病名別でみると、中毒が3割以上を占めています。

図表 2-4-54 自損行為の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
中毒	1,271	35.2%
外傷系その他	760	21.1%
開放創・離断	611	16.9%
症状・徴候・診断名不明確	261	7.2%
打撲・血腫・挫傷	235	6.5%
窒息・異物誤飲	174	4.8%
精神系疾患	113	3.1%
骨折	65	1.8%
心・循環器疾患	24	0.7%
内部・臓器損傷	21	0.6%
その他	73	2.0%
合計	3,608	100.0%

(6) 発生場所

自損事故を発生場所別でみると、住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）が約8割を占めています。

図表 2-4-55 自損行為の発生場所別搬送人員

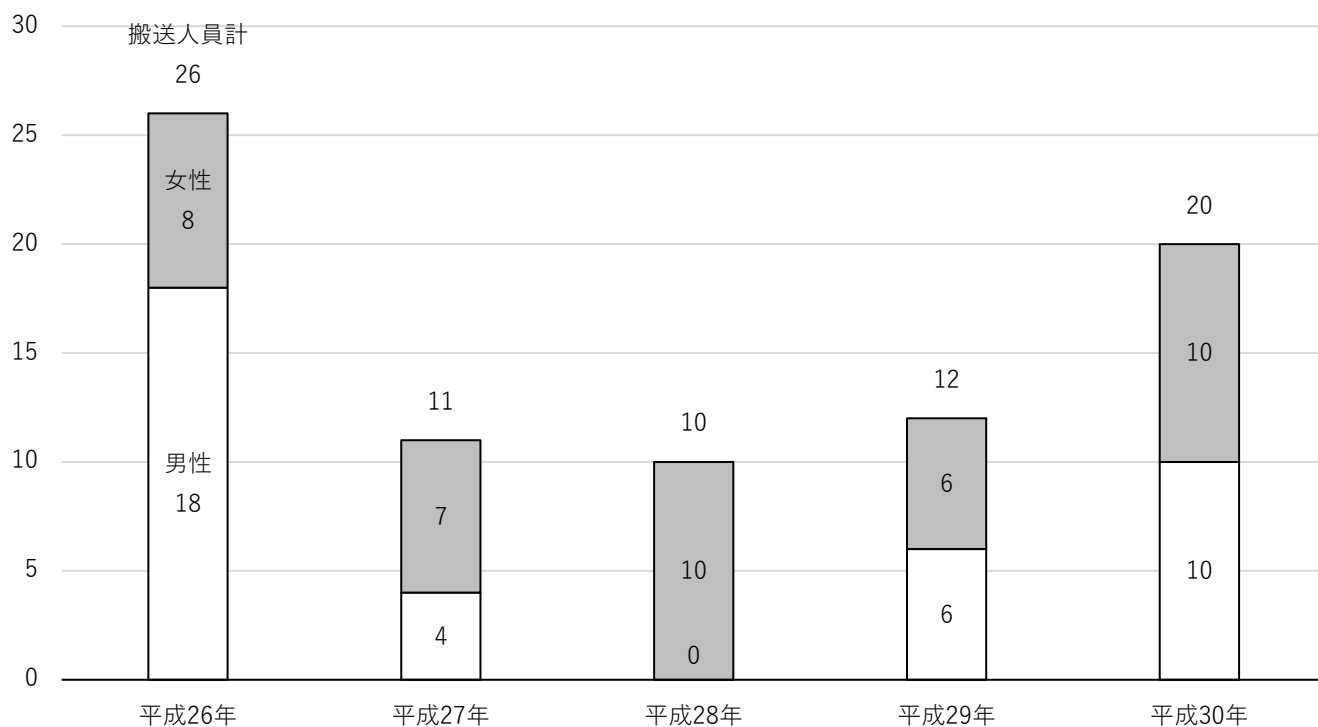
発生場所	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	2,876	79.7%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	215	6.0%
警察署・交番	89	2.5%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	74	2.1%
河川・水路	58	1.6%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	39	1.1%
駅	37	1.0%
会社・オフィス	24	0.7%
小・中・高等・大学等	19	0.5%
駐車場・駐輪施設	15	0.4%
その他	162	4.5%
合計	3,608	100.0%

11 自然災害事故

(1) 搬送人員推移

自然災害事故（自然現象に起因する災害による事故）の搬送人員は20人で、前年に比べ8人（66.6%）増加しています。

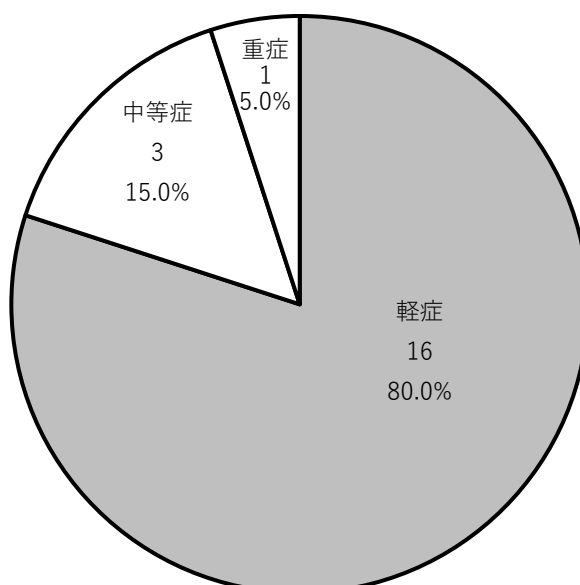
図表 2-4-56 自然災害事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

自然災害事故を初診時程度別で見ると、軽症が8割を占めています。

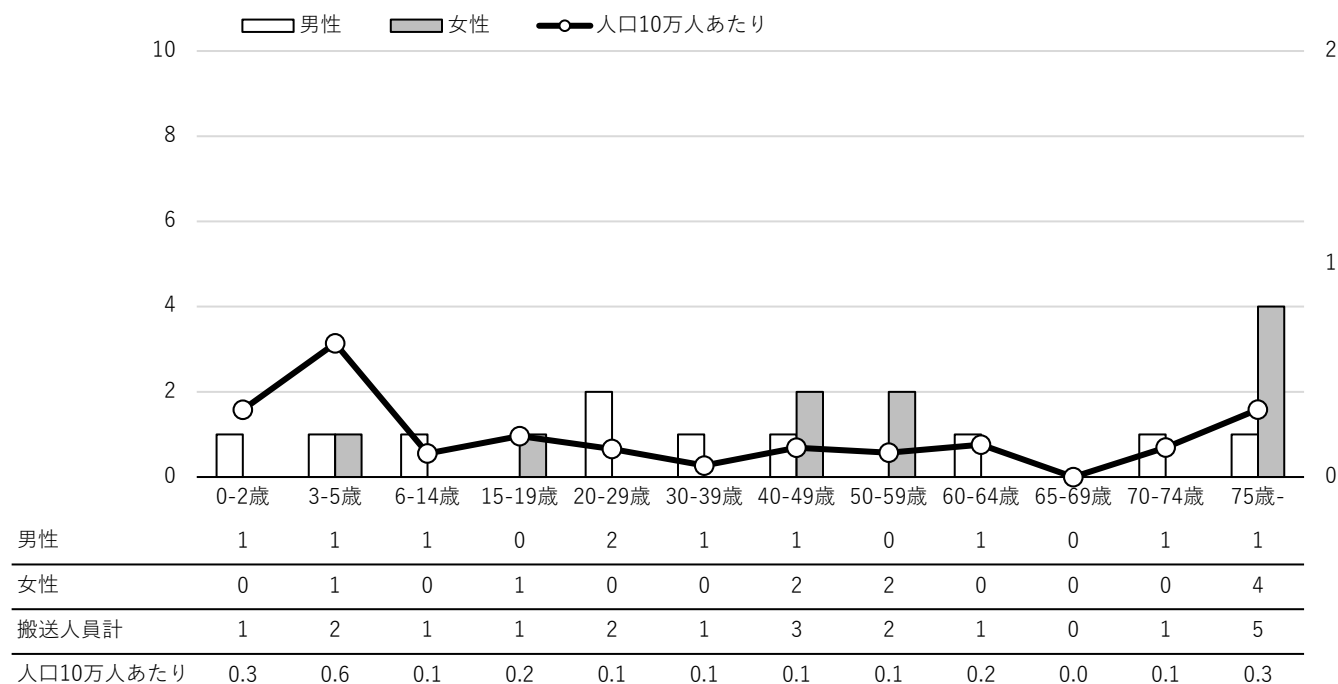
図表 2-4-57 自然災害事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

自然災害事故を年齢層別で見ると75歳以上が最も多くなっています。

図表 2-4-58 自然災害事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

自然災害事故を事故発症時動作別で見ると、転倒が最も多くなっています。

図表 2-4-59 自然災害事故の事故発症時動作別搬送人員

発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	転倒	1	1					1	2			1	3	9
	衝突・ぶつかり								1					1
	飛来物・落下物			1		1		2					1	5
自然環境作用	落雷				1		1							2
	風水害					1							1	2
	その他自然環境		1											1

(5) 外傷形態

自然災害事故を事故発症時動作別で見ると、打撲・血腫・挫傷が4割を占めています。

図表 2-4-60 自然災害事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	8	40.0%
開放創・離断	5	25.0%
骨折	4	20.0%
外傷系その他	3	15.0%
合計	20	100.0%

(6) 発生場所

自然災害事故を発生場所別で見ると、一般道（公道・私道・施設内道路）が6割を占めています。

図表 2-4-61 自然災害事故の発生場所別搬送人員

発生場所	搬送人員	割合
一般道路（公道・私道・施設内道路）	12	60.0%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	5	25.0%
一般飲食店	1	5.0%
小・中・高等・大学等	1	5.0%
河川・水路	1	5.0%
合計	20	100.0%

12 転院搬送・転送

(1) 「転院搬送」と「転送」の違い

「転院搬送」とは、医療機関からの要請に応じて、当該医療機関の管理下にある傷病者（外来受診又は入院中の患者等）を、医療上の理由により他の医療機関へ搬送するために救急隊が出場するものです。

「転送」とは、救急隊が傷病者を医療機関に搬送し、一旦医師に引継いだ後、当該救急隊が医療機関を引き揚げる前に、当該医療機関の事情等により、引き続き同一救急隊により他の医療機関に搬送するものです。転送の場合、事故種別はその救急事故の主たる事故種別（急病等）に区分し、統計上は出場件数1件、搬送人員1名として処理します。

(2) 搬送人員

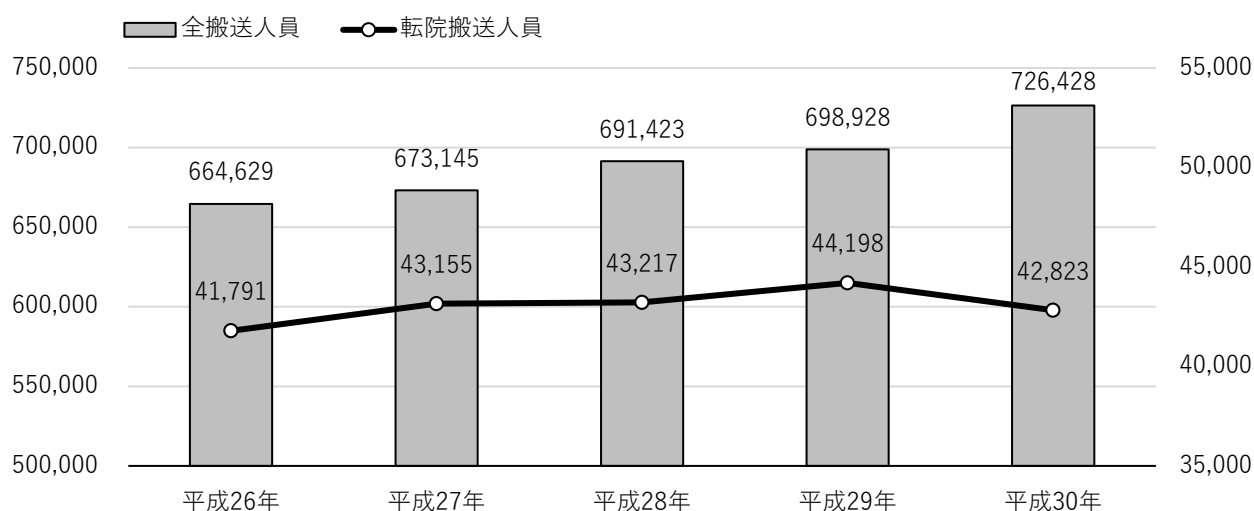
ア 転院搬送推移

過去5年間の推移をみると、転院搬送人員数は年々増加しています。

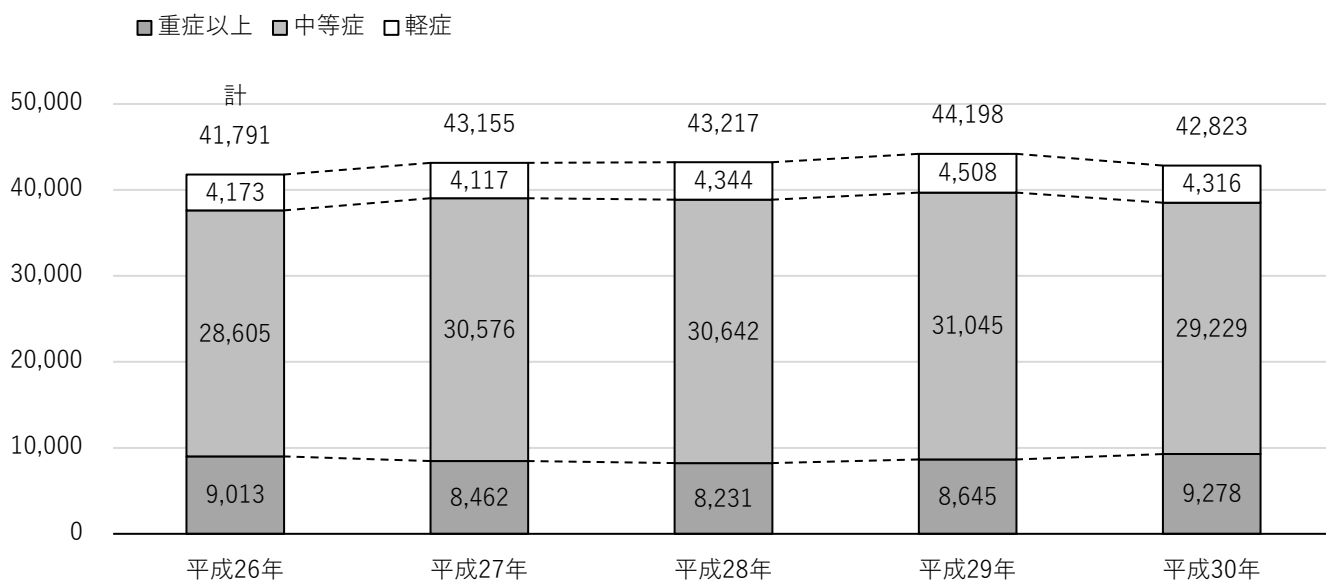
図表 2-4-62 転院搬送人員の対前年比・性別・初診時程度別推移

		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
全搬送人員		664,629	673,145	691,423	698,928	726,428
転院搬送人員		41,791	43,155	43,217	44,198	42,823
全搬送人員に対する比率		6.3%	6.4%	6.3%	6.3%	5.9%
対前年比		63	1,364	62	981	-1,375
		0.2%	3.3%	0.1%	2.3%	-3.1%
性別	男性	22,061	22,918	22,898	23,351	22,699
	女性	19,730	20,237	20,319	20,847	20,124
初診時程度 構成比(%)	重症以上	9,013	8,462	8,231	8,645	9,278
		21.6%	19.6%	19.0%	19.6%	21.7%
	中等症	28,605	30,576	30,642	31,045	29,229
		68.4%	70.9%	70.9%	70.2%	68.3%
	軽症	4,173	4,117	4,344	4,508	4,316
		10.0%	9.5%	10.1%	10.2%	10.1%

図表 2-4-63 全搬送人員と転院搬送人員の推移



図表 2-4-64 転院搬送の初診時程度別推移



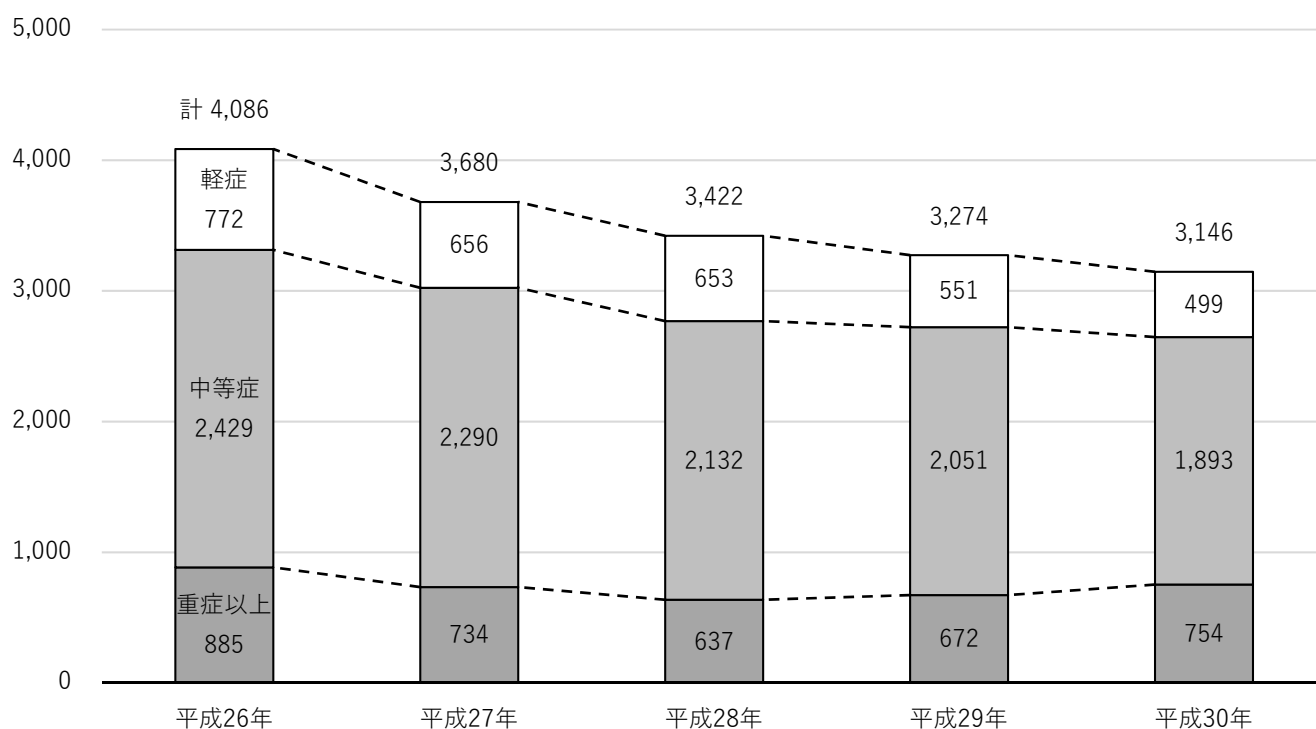
イ 転送推移

過去5年間の推移をみると、転送事案は全搬送人員の1%弱です。

図表 2-4-65 転送人員の対前年比・転送回数・初診時程度別推移

		平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
全搬送人員		664,629	673,145	691,423	698,928	726,428
全転送人員		4,086	3,680	3,422	3,274	3,146
全搬送人員に対する比率		0.6%	0.5%	0.5%	0.5%	0.4%
対前年比		-122	-406	-258	-148	-128
		-2.9%	-9.9%	-7.0%	-4.3%	-3.9%
転送回数	1回	4,068	3,649	3,402	3,264	3,134
	2回	18	3,649	20	10	12
	3回以上	0	30	0	0	0
初診時程度 構成比(%)	重症以上	885	734	637	672	754
		21.7%	19.9%	18.6%	20.5%	24.0%
	中等症	2,429	2,290	2,132	2,051	1,893
		59.4%	62.2%	62.3%	62.6%	60.2%
	軽症	772	656	653	551	499
		18.9%	17.8%	19.1%	16.8%	15.9%

図表 2-4-66 転送人員の初診時程度別推移



(3) 転院搬送及び転送の理由

ア 転院搬送

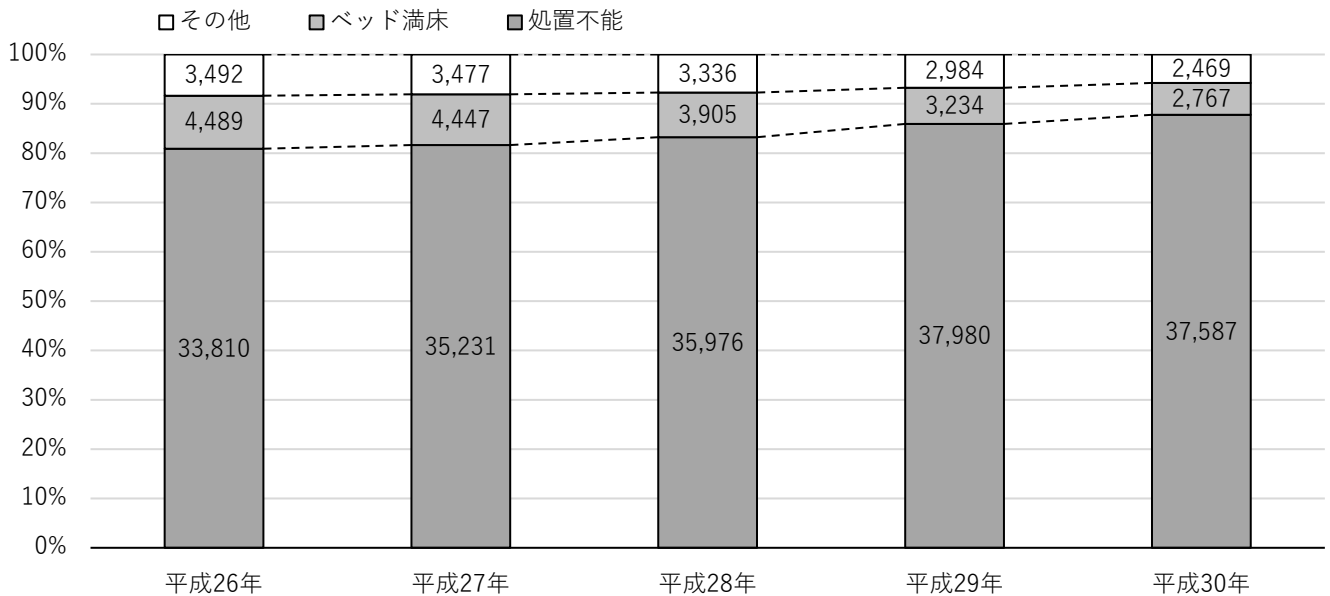
過去5年間の推移をみると、転院搬送要請の理由の90%以上が「ベッド満床」及び「処置不能」によるものとなっています。

本年は、全転院搬送人員が昨年に比べ3.1%の減少となりました。

図表 2-4-67 主な転院搬送要請理由別の搬送人員及び対前年比

	平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	
全転院搬送人員	41,791	0.2%	43,155	3.3%	43,217	0.1%	44,198	2.3%	42,823	-3.1%	
ベッド満床	搬送人員	4,489	-14.5%	4,447	-0.9%	3,905	-12.2%	3,234	-17.2%	2,767	-14.4%
	構成比	10.7%	-1.9%	10.3%	-0.4%	9.0%	-1.3%	7.3%	-1.7%	6.5%	-0.8%
処置不能	搬送人員	33,810	2.0%	35,231	4.2%	35,976	2.1%	37,980	5.6%	37,587	-1.0%
	構成比	80.9%	1.4%	81.6%	0.7%	83.2%	1.6%	85.9%	2.7%	87.8%	1.9%
その他	搬送人員	3,492	5.1%	3,477	-0.4%	3,336	-4.1%	2,984	-10.6%	2,469	-17.3%
	構成比	8.4%	0.4%	8.1%	-0.3%	7.7%	-0.4%	6.8%	-0.9%	5.8%	-1.0%

図表 2-4-68 主な転院搬送要請理由別搬送人員の推移



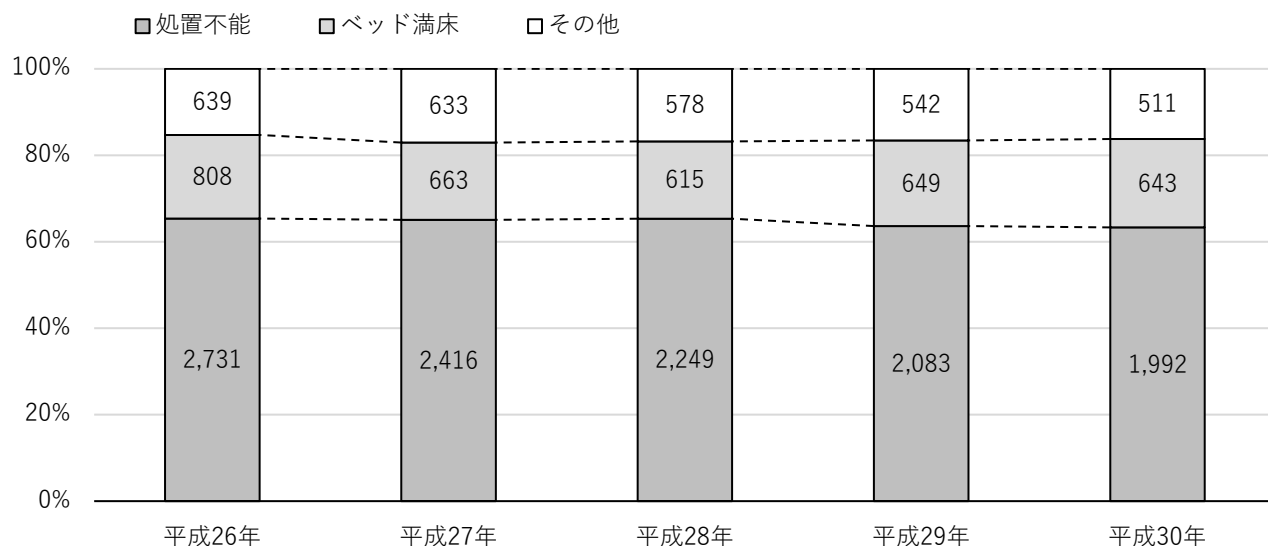
イ 転送

過去5年間の推移をみると、転送の理由の8割以上が「ベッド満床」及び「処置不能」によるものとなっています。

図表 2-4-69 主な転送理由別の転送回数及び対前年比の推移

	平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年		平成 29 年		平成 30 年		
	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	
全転送回数	4,178	-1.4%	3,712	-11.2%	3,442	-7.3%	3,274	-4.9%	3,146	-3.9%	
処置不能	転送回数	2,731	4.1%	2,416	-11.5%	2,249	-6.9%	2,083	-7.4%	1,992	-4.4%
	構成比	65.4%	3.5	65.1%	-0.3	65.4%	0.3	63.6%	-1.8	63.3%	0.0
ベッド満床	転送回数	808	-20.6%	663	-17.9%	615	-7.2%	649	5.5%	643	-0.9%
	構成比	19.3%	-4.7	17.9%	-1.4	17.9%	0.0	19.8%	1.9	20.4%	5.2
医療機関個別事情	転送回数	60	0.0%	51	-15.0%	52	2.0%	43	-17%	39	-9.3%
	構成比	1.4%	0.0	1.4%	0.0	1.5%	0.1	1.3%	-0.2	1.2%	-0.1
医師他院搬送指示	転送回数	482	9.3%	506	2.1%	464	-8.3%	453	-2.4%	425	-6.2%
	構成比	11.5%	1.1	13.6%	2.1	13.4%	-0.2	13.8%	0.4	13.5%	0.0
傷病者個別事情	転送回数	69	-1.4%	49	-29.0%	38	-22.4%	28	-26.3%	37	32.1%
	構成比	1.7%	0.0	1.3%	-0.4	1.1%	-0.2	0.9%	-0.2	1.2%	0.4
その他	転送回数	28	7.7%	27	-3.6%	24	-11.1%	18	-25.0%	10	-44.4%
	構成比	0.7%	0.1	0.7%	0.0	0.7%	0.0	0.5%	-0.2	0.3%	-0.4

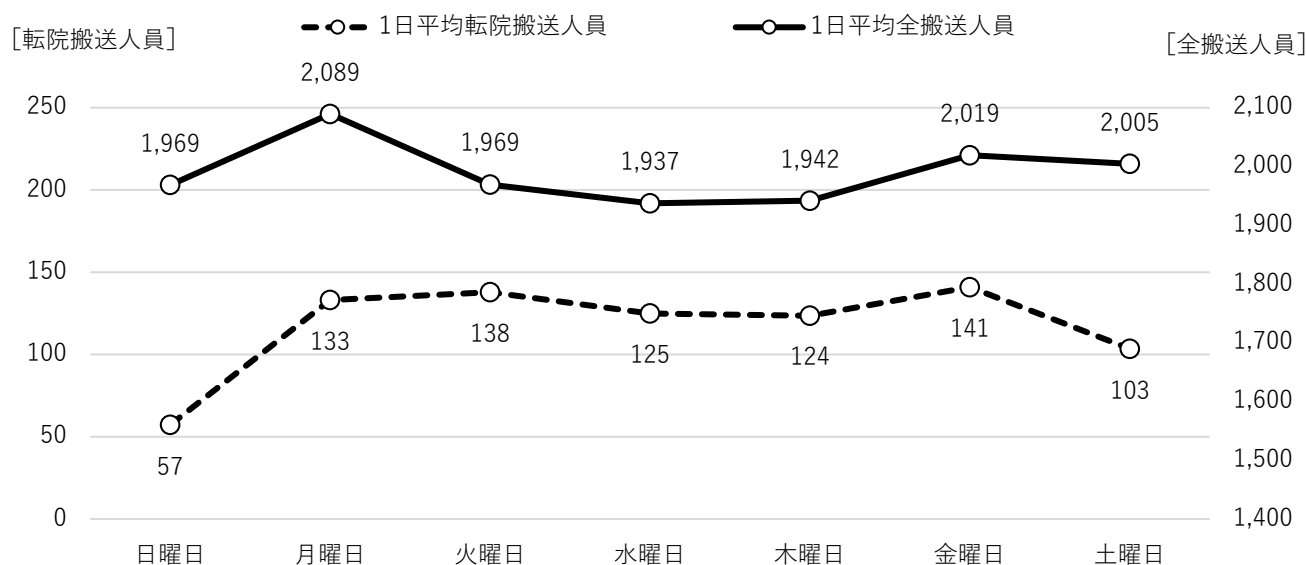
図表 2-4-70 主な転送理由別搬送人員の推移



(4) 曜日別

転院搬送は土曜日、日曜日に要請が少ない傾向となっており、特に日曜日は平日の半数以下となっています。

図表 2-4-71 曜日別 1日平均転院搬送人員

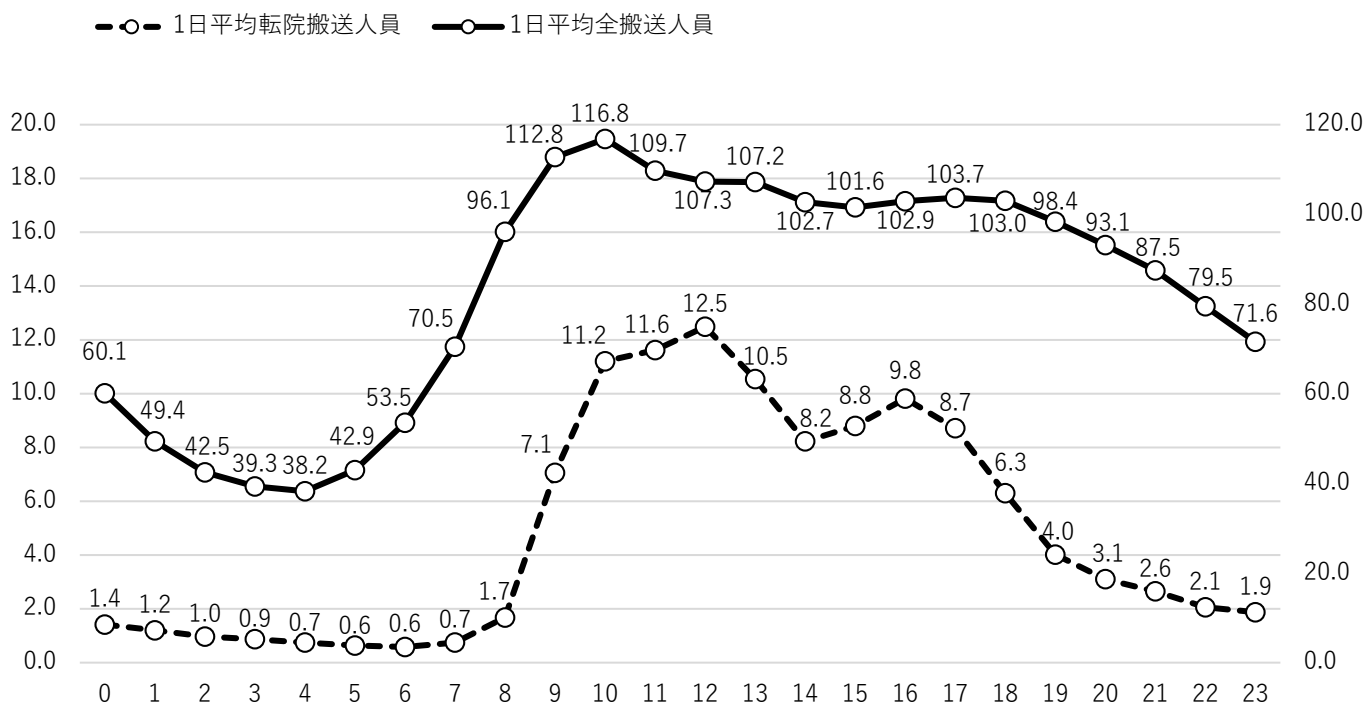


(5) 時間帯別

ア 総数

転院搬送は、10時から13時をピークとして、医療機関の通常の診療時間帯に搬送人員が多いことがわかります。

図表 2-4-72 時間帯別 1日平均転院搬送人員

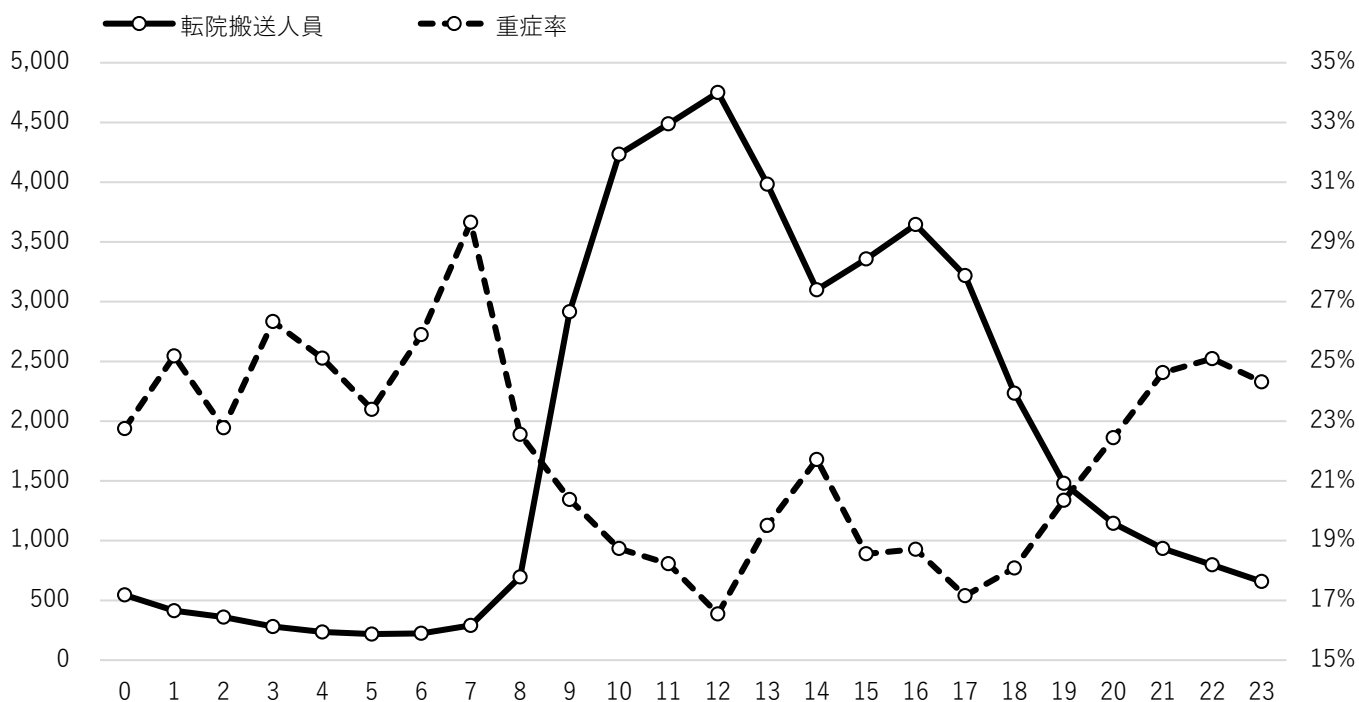


イ 時間帯別、初診時程度別の比率

各時間帯の搬送人員を100%と見なした場合、初診時程度が重症以上と中等症以下の傷病者の構成比を見ると、重症以上の傷病者の比率は、深夜帯の方が日中の時間帯より高いことが伺えます。

これは、全体的には、転院搬送は医療機関の通常の診療時間帯に行われているのに対して、重症以上の傷病者は、緊急的な医療上の理由等により、時間帯を問わず転院搬送されていることを示唆していると言えます。

図表 2-4-73 時間帯別転院搬送人員の重症比率

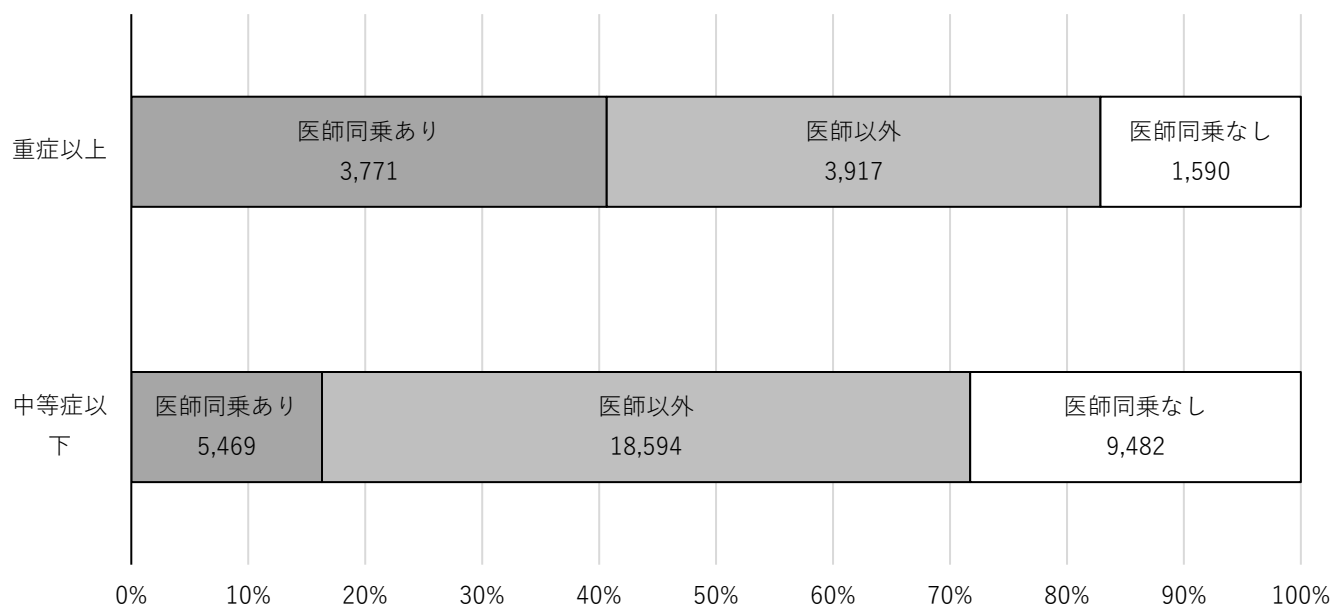


(6) 同乗者等（医師等）

東京消防庁救急業務等に関する規程第43条第2項において、「転院搬送を行う場合は、当該医療機関の医師を同乗させるものとする。ただし、医師が同乗による病状管理の必要がないと認め、かつ、搬送途上における相当な措置を講じた場合は、この限りではない。」としています。

病状管理が必要となる目安として、傷病者の初診時程度が重症以上及び中等症以下の場合にデータを区分し、医師の同乗比率を分析した結果は次のとおりで、重症以上の3割強に医師が同乗していることがわかります。

図表 2-4-74 転院搬送の医師等同乗比率



医師同乗のデータは、医師のほかに家族等が同乗している場合を含みます。

13 医師搬送・資器材等輸送

(1) 統計上の処理

ア 医師搬送

医師搬送とは、救急現場において傷病者に医師による医療行為が必要となった場合等に、救急隊により医師を救急現場に搬送することを指します。

イ 資器材等輸送

資器材等輸送とは、医薬品、医療用資器材、救急資器材等を救急隊により医療機関等に搬送することを指します。

資器材等の他に傷病者を搬送している場合は、資器材輸送には該当せず、当該傷病者の救急事故に応じた事故種別の出場件数、救護人員等に計上されます。

また、助産所からの要請により、保育器と同時に周産期医療施設等の医師を搬送する場合は、資器材等輸送（保育器）に計上しています。

(2) 推移

平成26年から平成30年の医師搬送・救急資器材等輸送件数は次のとおりです。

図表 2-4-75 医師搬送・資器材等輸送件数の推移

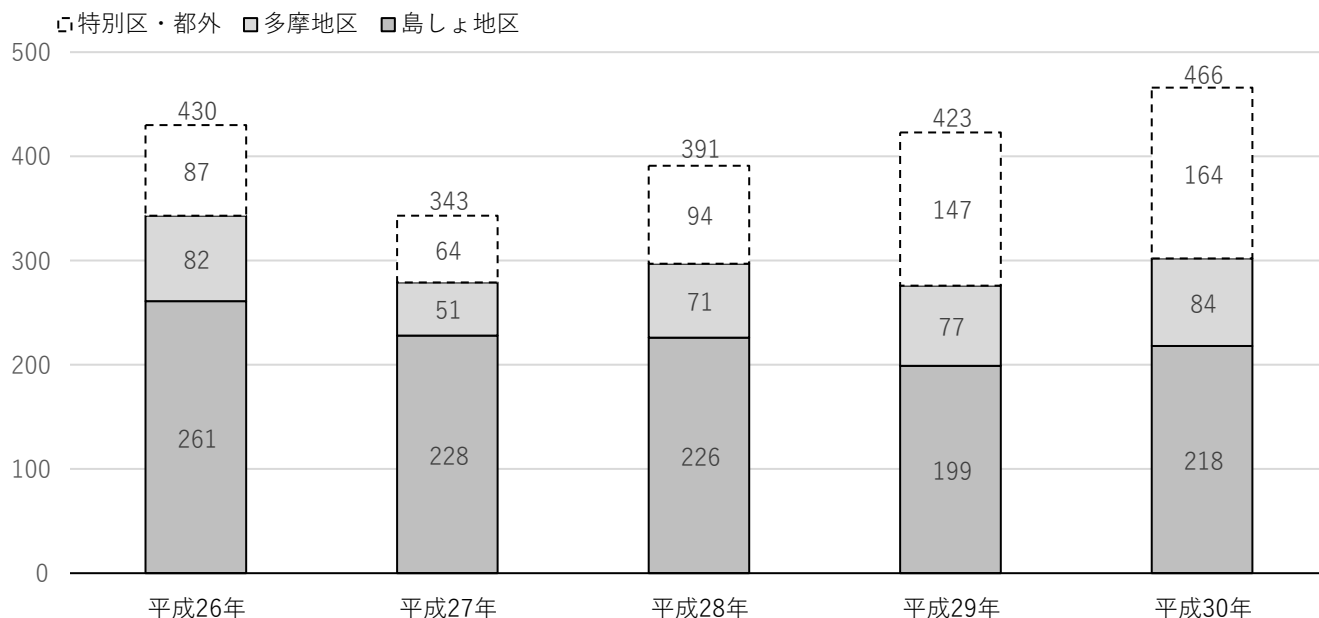
	医師搬送	資器材等輸送							
		保育器	救急隊員	切断肢	臓器	医療機器	医薬品等	その他	資器材計
平成26年	259	465	51	3	4	5	0	8	536
平成27年	217	480	38	3	7	2	0	4	534
平成28年	229	489	1	5	5	2	0	2	504
平成29年	190	503	21	2	11	3	0	2	542
平成30年	210	495	36	0	10	1	1	3	546

14 回転翼航空機による救急活動

回転翼航空機による救急出場件数及び初診時程度別搬送人員の推移は次のとおりです。初診時程度別では重症以上が約6割を占めています。

図表 2-4-76 回転翼航空機の救急出場件数の推移

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
島しょ地区	261	228	226	199	218
多摩地区	82	51	71	77	84
特別区・都外	87	64	94	147	164
合計	430	343	391	423	466



図表 2-4-77 回転翼航空機の初診時程度別搬送人員の推移

初診時程度	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
軽症	11	7	3	4	11
中等症	136	101	113	74	77
重症	123	122	123	131	144
重篤	45	32	37	41	30
死亡	3	1	6	3	2
合計	318	263	282	253	264
搬送人員	101	92	111	100	100

